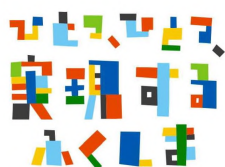

令和5年度

福島県教職員特選研究論文集



福島県教育委員会

はじめに

本研究論文の募集は、教職員の自主的な研究を奨励し、効果的な実践や先進的な取組を研究論文としてまとめることを通して研修意欲や専門性を高めるなど、教職員個々の資質の向上を図ることを目的として、昭和46年度から実施しております。平成23年度は東日本大震災及び原発事故により募集を行いませんでしたが、平成24年度から募集を再開し、本年度で52回を数えます。この長い歴史の中で、数多くの教職員がその時代を反映した様々な教育課題に真正面から向き合い、その研究成果を発表してこられました。

今年度も、学校経営、学習指導、特別支援教育、学校保健など、様々な教科や領域、校種にわたる論文が寄せられました。これは、児童生徒に生きる力を育むため、学校の果たす役割や日々の授業の大切さ等を考え、常に改善していこうとする本県教職員の熱意が表れたものと考えております。

さて、福島県教育委員会では、令和3年12月に第7次福島県総合教育計画を策定し、6つの施策を掲げて児童生徒の学力、教職員の指導力の向上等に取り組んでおります。このような中、各学校や教職員の皆様が、学校や学年・学級、教科等の課題を的確に捉え、指導内容・方法の質的改善を図り、実践研究に取り組まれていることを、大変ありがたく、そして心強く思います。

この特選論文集に収められた論文は、厳正な審査を経て選ばれたものであり、各学校が抱える課題の解決、教育活動の更なる充実に向けて、示唆に富むものとなっております。各学校等におかれましては、研究成果を参考にし、本県の復興・再生を担う人材育成のために研究をさらに深められ、学校教育の充実・改善に役立てていただければと思います。

最後になりますが、応募されました皆様の取組に心から敬意を表しますとともに、本県教職員の研修意欲や専門性の向上が一層図られ、児童生徒一人一人の健やかな成長と学校の発展につながっていくことを心から期待いたします。

令和6年2月

福島県教育庁義務教育課長 川井孝寿

目 次

はじめに

令和5年度福島県教職員研究論文入賞者一覧 2
特選研究論文

○ 学習指導（総合的な学習の時間）
探究的な学びを通して、夢の実現に向かう生徒の育成（1年次）
～『天栄ならでは』の教育』を目指して～ 3
天栄村立天栄中学校 代表 校長 濱津 太

○ 教育課程
なりたい自分になるために学び続ける児童の育成
～肯定的・対話的な関わりによる教育課程の実践を通して～ 23
棚倉町立棚倉小学校 代表 校長 藤田 篤

○ 特別支援教育
開かれた特別支援学級から自分らしさを大切に作る児童を育てる
～ICFの考え方に基づいた個人因子と環境因子への
アプローチの視点から～ 43
南会津町立南郷小学校 教諭 横田 みなみ

○ 学校保健
レジリエンスを身につける生徒の育成
～保健室での個別指導と集団指導を関連させた
メンタルヘルス教育を通して～ 59
猪苗代町立猪苗代中学校 養護教諭 松本 冨加

審査の観点及び審査総評 79

令和5年度福島県教職員研究論文応募状況 80

令和5年度福島県教職員研究論文応募者一覧 81

おわりに

令和5年度 福島県教職員研究論文 入賞者一覧

【特選】

領域等	個人 団体	学校名・グループ名	職名・氏名	研究主題
学習指導 (総合的な学習 の時間)	団体	天栄村立天栄中学校	(代表) 校長 濱津 ひとし 太	探究的な学びを通して、夢の実現に向かう生徒の育成(1年次) ～『天栄ならではの』の教育』を目指して～
教育課程	団体	棚倉町立棚倉小学校	(代表) 校長 藤田 あつし 篤	なりたい自分になるために学び続ける児童の育成 ～肯定的・対話的な関わりによる教育課程の実践を通して～
特別支援 教育	個人	南会津町立南郷小学校	教諭 横田 みなみ	開かれた特別支援学級から自分らしさを大切にする児童を育てる ～ICFの考え方に基づいた個人因子と環境因子へのアプローチの視点から～
学校保健	個人	猪苗代町立猪苗代中学校	養護教諭 松本 きよか 冨加	レジリエンスを身につける生徒の育成 ～保健室での個別指導と集団指導を関連させたメンタルヘルス教育を通して～

【入選】

領域等	個人 団体	学校名・グループ名	職名・氏名	研究主題
学校経営	団体	いわき市立久之浜第二小学校	(代表) 校長 穴戸 なおき 直樹	子どもと地域が共に育つ学校づくりへの挑戦 ～地域の自慢、伝統野菜「じゅうねんの栽培」を通した『久二小ならではの』 教育の推進～
学習指導	団体	塙町立塙小学校	(代表) 校長 ながしま 永島 慶和	自分の考えをもち、ともにかかわり合い、高め合う児童の育成 ～リーディングスキル(RS)の視点を取り入れた授業の工夫～
学習指導 (道徳)	個人	いわき市立中央台東小学校	教諭 久保木 壮平	子どもが「自分を創る」道徳教育の実践 ～道徳性の発達段階に応じた「対話的な学び」のある授業づくりを目指して～
生徒指導	個人	田村市立船引中学校	教諭 くにとも 國友 やすのぶ 靖展	スペシャルサポートルーム(SSR)の効果的な運営と支援の在り方 ～3つの柱で築く「架け橋プログラム」の実践を通して～
学校保健	個人	泉崎村立泉崎中学校	養護教諭 わたなべ 渡邊 りさ 理紗	朝食摂取率向上の取り組みをととした生徒の健康マネジメント能力向上に 関する研究 ～自分手帳の活用と学校栄養技師との連携による食の授業をとおして～
学習指導	個人	福島県立葵高等学校	教諭 村松 こずえ	学校図書館と高校生の読書に関する研究 ～国語科や探究活動と連携することを通して～

【奨励賞】

領域等	個人 団体	学校名・グループ名	職名・氏名	研究主題
学習指導	団体	伊達市立保原小学校	(代表) 校長 佐々木 とおる 透	共に学び 共に喜び 共に高め合う 子どもの育成(3年次) ～自ら動き出す課題を設定し、仲間と共に自分の考えを広げ深める授業 づくり～
学習指導 (国語科)	個人	昭和村立昭和小学校	教諭 岩谷 ゆうた 友太	自ら考え、伝え合い、考えを深める子どもの育成 ～国語科文学的文章における主体的・対話的で深い学びの授業づくり～
学習指導 (道徳)	個人	本宮市立岩根小学校	教諭 菅野 たけひこ 健彦	互いを認め合い、自己を見つめる道徳科の授業づくり ～3年間の積み重ねを通して～
学習指導 (理科・物理 基礎)	個人	福島県立 小高産業技術高等学校	教諭 尾形 なおき 尚樹	放射線への興味関心を高める授業の実践

研究主題及び副主題

**探究的な学びを通して、
夢の実現に向かう生徒の育成(1年次)**
～『天栄ならではの』の教育』を目指して～



天栄村立天栄中学校 (代表) 校長 濱津 太

I 研究の構想

1 研究主題設定の理由

(1) 生徒の実態から

本校の生徒は、明るく素直で、規律ある落ち着いた学校生活を送っている。しかし、各種調査結果から、自己の将来の夢や目標を見いだせていない生徒が多いこと、ふるさとへ関心をもち、そのよさを理解してはいるものの、将来もふるさとに住み続け、地域に貢献したいと考えている生徒は少ないという実態が判明した。

渋沢栄一の言葉といわれる「夢七訓」に、「夢なき者は理想なし 理想なき者は信念なし 信念なき者は計画なし 計画なき者は実行なし」とあるように、自己の将来像が漠然としていれば、将来に向けた具体的行動を見だし、実行することは困難である。このことを裏付けるように本校の生徒は、学習に対し粘り強い取組を行おうとする側面が弱いことが各種調査結果から明らかになった。

私たちは、生徒が自己の「夢」をもち、なりたい自分の姿をイメージしながら自己の生き方を考えることができれば、その実現に向け、学習に対しても主体的・計画的・継続的に取り組むようになると考える。私たちは、生徒に自己の生き方を考えさせる視座として「ふるさと」を設定した。ふるさとは、自分が生きていくための基盤であり、心の拠り所であるからである。ふるさとを理解する学習こそが、自己の将来像を描く上においても、また今の学習の意義に気づき、主体的に学びに向かう態度を育成する上においても重要な

カギとなる。「ふるさと・夢」をテーマに探究的に学ぶことの意義は、ここにある。

(2) 地域の実態から

天栄村(以下、「本村」という)には、ブナやミズナラの森、大地から湧き出る清水などの豊かな自然環境、長年にわたり伝え受け継がれてきた独自の歴史や文化、米・ヤーコン・長ネギといった自慢の特産品、移住者誘致や手厚い子育て支援など特色ある村づくりを進める行政、農業・醸造業・観光業などの多様な産業が存在する。私たちは、これら本村のよさ・財産である「人・もの・こと」を最大限に活用しながら、生徒がふるさとについて探究的に学ぶことで、生徒はふるさとを深く理解し、自己の生き方を考えるヒントを得ることができるものとする。

また、本村では「ふるさと教育」を推進しており、地域学校協働活動事業として学校と地域をつなぎ、地域全体で子供の教育を支えていく体制が整備されている。このことから、本村には、地域の協力を得ながら学習を推進することができる強みがあるといえる。

(3) 今、学校に求められていることから

これから子供たちが生きる時代は、「厳しい挑戦の時代」、「予測困難な時代」といわれる。学校教育には、このような時代を生きる子供たちに、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力の育成が求められている。学習指導要領(平成29年告示)では、「社会に開かれた教育課程」及び「カリキュラム・マネジメント」をその実現のカギとしている。

本県においても「第7次福島県総合教育計画」で「学びの変革」を掲げ、福島のよさを大切にした「福島ならではの」の教育を進めるとともに、それを実現するため、一方通行の画一的な授業から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの変革を求めている。

以上のことから私たちは、本村のよさ・財産である「人・もの・こと」を最大限に活用し、「ふるさと・夢」をテーマに探究的な学びを実践し、学びを変革しながら『天栄ならではの』の教育の創造を目指していきたいと考え、本主題・副主題を設定した。

2 研究主題・副主題についての考え方

(1)「探究的な学び」とは

「探究的な学び」とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく学習のことである。すなわち、習得した知識・技能を活用し、「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の探究のプロセスにより、「考えるための技法」を駆使しながら学習活動を発展的に繰り返し、物事の本質を見極めようとする学習のことである。

(2)「夢の実現に向かう生徒」とは

「夢の実現に向かう生徒」の姿とは、ふるさとのよさ・財産である「人・もの・こと」に触れ、「探究的な見方・考え方」を働かせながら探究的に学ぶことを通して、課題を解決するとともに、ふるさとの一員として何ができるか考えたり、今の自分を見つめ、必要とする資質・能力を身に付けようと努力したりする生徒の姿である。また、総合的な学習の時間を核とした3年間の学習を通して、将来自分がなりたいと思う姿を目指そうとする生徒の姿である。

資料1

(3)『天栄ならではの』の教育」とは

『天栄ならではの』の教育」とは、本村のよさ・財産である「人・もの・こと」を最大限に活用した探究的な学びを通して、ふるさとの特色について理解を深め、そのよさ・魅力を再認識し、郷土愛や郷土への誇りを高め

るとともに、ふるさとの未来像や自己の生き方を考え、自己の夢の実現につながるための教育のことである。

3 研究仮説

総合的な学習の時間を核とした、ふるさと天栄についての探究的な学習の充実を図り、よりよく課題を解決し、「夢の実現に向かう力」を育てる実践を行えば、夢や目標を自ら設定し、実現しようとする生徒を育成できるであろう。

4 研究の内容と方法

(1)「ふるさと・夢プロジェクト」の実践

本校では、総合的な学習の時間を「ふるさと・夢プロジェクト」と題し、本村の「人・もの・こと」を最大限に活用した『天栄ならではの』の教育の創造を目指し、1学年では、過去から伝え、残されてきたもの・ことを知ること（「ふるさと天栄を知る」）、2学年では、現在本村で活躍している人から学ぶこと（「ふるさと天栄から学ぶ」）、3学年では、ふるさとの未来像や自己の生き方を考えること（「ふるさと天栄の未来を考える」）を視点とした探究的な学習を行う。このように3年間を通して、生徒が過去・現在・未来の視点でふるさとについて発展的に学ぶことで、将来の夢や自己の生き方を自分の姿に重ね合わせながら学習することが期待できる。また、生徒が探究のプロセスに沿った問題解決的な活動を発展的に繰り返し学習することを通して、「夢の実現に向かう力」を育成できるように工夫していく。

資料2

生徒がふるさとについて深く学ぶためには、ふるさとを熟知する地域人材から学ぶことが最良の手段である。私たち教師は、探究的な学びのコーディネーターの役割を担う。地域人材を活用し、学校の教育活動に参画してもらうことは、「社会に開かれた教育課程」の実現にもつながる。そこで、ふるさとの魅力や課題を知るために「村長による特別授業」

や地域人材を講師とした「ふるさと講座」を開設する。また、各学年の探究の視点に基づいたふるさとの未来像や自己の生き方を考えるための探究的な学習プログラムの構築を目指す。1学年では、「ふるさと魅力発見学習」として、本村の自然や歴史・文化といったふるさとの魅力を調査したり体感したりすることを通して、ふるさとの魅力や未来に伝え、残したいもの・ことを知る学習を実践する。2学年では、「ふるさと魅力発信・職場体験学習」として、ふるさとの特産品の魅力を発信するとともに、村内事業所での職場体験学習を通して、働くことの喜びや苦勞を体感し、自己の勤勞観・職業観を醸成し、将来の自己の生き方のヒントを探る学習を実践する。3学年では、「ふるさと未来探究学習」として、村づくりの現状や課題を探究することを通して、ふるさとの地域活性化や未来のふるさと像について考え、ふるさと天栄のあり方を提言したり、自分の将来の生き方を考えたりする学習を実践する。

資料3

(2)「夢の実現に向かう力」の設定

私たちは、「夢の実現に向かう力」を、各教科等と総合的な学習の時間における学習の中で共通に働く資質・能力であり、各教科等と総合的な学習の時間との往還の架け橋の役割を果たすものと捉えている。そこで「夢の実現に向かう力」を、学習指導要領に示されている学力の3つの柱①「知識及び技能」、②「思考力、判断力、表現力等」、③「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点で整理し、それぞれ、①「課題の解決に必要な知識及び技能」、②「問いを見だし、その解決に向けて仮説を立て、調査して得た情報を基に考える力及び考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ・表現する力」、③「探究的な学習に主体的・協働的に取り組む態度及び互いのよさを生かし持続可能な社会を実現するために自ら社会に参画しようとする態度」と定義した。これらの資質・能力は、全

ての学習の基盤となる資質・能力であり、生徒が将来生きていくために必要な「基礎的・汎用的能力」と重なるものである。1年次の研究においては、特に「思考力、判断力、表現力等」にあたる②の資質・能力に焦点化し研究を推進することとする。

本研究で目指す「夢の実現に向かう力」を育成するためには、探究のプロセスにおいて、生徒が「何ができるようになるか」を明確化し、課題解決を通して育成を目指す資質・能力を具体化する必要がある。私たちが、この資質・能力の具体化のための手がかりとしたのが、やまぐち総合教育支援センター(2021)の「探究によって育まれると期待される力」である。これは、探究のプロセスの各段階において、学習者が学びを通して身に付けることが期待される力に焦点を当て、具体的な力として整理したものである。私たちは、これを基に探究のプロセスごとに育成したい資質・能力を具体的に設定し、授業実践を通して、その育成を図っていく。

(3)各教科等と総合的な学習の時間との往還による授業改善

探究のプロセスを支える探究的な見方・考え方については、学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編に「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方」とある。総合的な学習の時間において、各教科等で育成された見方・考え方を総合的に活用するためには、各教科等の学習と総合的な学習の時間の学習との往還が重要である。それぞれの学習が相互に作用し合うことが、社会で生きて働く資質・能力の育成につながるからである。私たちは「夢の実現に向かう力」を往還の架け橋として、各教科等で育成された見方・考え方を総合的な学習の時間で総合的に活

用できるよう授業改善を図っていく。**資料4**

また、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善が求められている。その実現のための手立てとして、私たちは単元構想、思考の可視化、協働的な学びに着目した。手立て①として、単元構想の視点を「子供が見方・考え方を働かせて学ぶこと」、「資質・能力が育成されるように指導すること」の2点を掲げ、教科研究計画を作成する。また学習指導案には、探究のプロセスを取り入れた単元計画と本単元の学習において育成する「夢の実現に向かう力」を明記することで、総合的な学習の時間との往還を意識した指導ができるように工夫する。手立て②として、授業を実践するにあたり、思考の可視化と協働的な学びの視点を取り入れた授業改善に努める。なぜなら、思考を可視化し、多様な他者と協働し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重しながら学ぶことは、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手を育成するための有効な手立てであるからである。**資料5**

II 研究の実際

1 「ふるさと・夢プロジェクト」の実践

「ふるさと・夢プロジェクト」では、探究的な学びを展開するにあたり、キャリア教育やSDGsの視点を重視し、異なる多様な他者と協働して主体的に課題解決を図る学習活動を基本として実践している。また、特色ある学習活動として、次の3つが挙げられる。

一つ目は、探究的な学びで必要となる様々な知識や学習スキルの習得のために、「NHK for school」の番組コンテンツを活用したことである。「高齢化社会の問題」や「地域の活性化」、「課題の見つけ方」、「情報収集の仕方」、「アンケートの作り方」など必要な知識や学習スキルをそれぞれ10分程度で効率よく学ぶことができ、探究的な学び方を指導する上でも有効であった。**資料6**

二つ目は「整理・分析」、「まとめ・表現」

の段階で、思考ツールやタブレット端末を活用したことである。思考ツールは、調査したことを基に、自分たちの考えを自由に出し合い、その考えを付箋に記録しながらKJ法を使って分析するなど、思考を深める学習において効果があった。タブレット端末は、アンケート調査結果の集計・分析、発表用スライドの作成、プレゼンテーションの場面で効果的に活用することができた。**資料7**

三つ目は、地域人材を講師とした特別授業を実施したことである。最初の授業として「村長による特別授業」を実施した。村長から直接村づくりへの思いや本村の未来像について話を聞くことで、ふるさとのよさや課題を再認識するとともに、その後の学びへの意欲付けとなった。また、地域人材を活用した「ふるさと講座」を実施したことで、講師の専門性を生かした指導を受けることができた。村長をはじめ多くの地域人材を講師に、特別授業を実施できたのは、本村教育委員会所属の地域コーディネーターの働きが大きい。学校の負担を減らすとともに、学校と地域とをつなぐ架け橋となっている。**資料8**

各学年の探究的な学習の実践内容については、以下の通りである。

(1) 第1学年の実践について

1学年は、「ふるさと天栄を知る」をテーマに、「ふるさと魅力発見学習」を行い、未来に伝え、残したいもの・ことについて、探究的な学習を行った。主な学習活動として、次のことを実践した。

ア ふるさと講座「ふるさとの自然と歴史」では、地域人材である2名の講師から、本村に残されている古墳や城跡などの史跡や神社・仏像などの文化財及び本村湯本地区の自然環境の概要について学び、探究に必要な基礎的な知識を習得することができた。この授業で学んだことを踏まえ、「森林を残し伝えるためにはどうしたらよいか」、「将来に伝え残したいふるさとの歴史・伝統は何か」とい

った課題を設定した。

イ 「情報の収集」を目的に、森林環境学習では、地域人材である講師の案内により本村湯本地区の森林を散策し、様々な植物の観察や樹木の幹の太さを測定し樹齢を推定する体験学習を行った。湯本地区には70年前、軍用馬を飼育する牧場があったことや住民が炭焼きを生業としていたこと、そのため現在よりも樹木が少なかったこと、時代の変化に伴い自然環境も変化し、自然環境の保全が大切であることなどを学んだ。



写真1 森林環境学習

ウ 「情報の収集」を目的に、本村の歴史や文化を学ぶために、地域人材である講師の案内により、村内にある文化施設と龍ヶ塚古墳を見学し、貴重な文化財が人々の長年の努力によって多数保存されていることを学んだ。

エ ふるさと講座や森林環境学習などで学んだことを基に、収集した情報を整理・分析しながら課題解決に向けて探究活動を行った。

探究したことを学習の成果としてポスターにまとめた。また文化祭では、学習した内容を発表用スライドを用いて発表したり、学習したことを基に自分たちで創作したシナリオで劇を行ったりしながら学習の成果を保護者や地域の方々へ発信することができた。

資料9



写真2 文化祭での発表

オ ふるさと講座「職業人から学ぶ」では、郵便局員、村役場職員、地元企業社員、パン職人の4名の講師から直接話を聞くことで、働く喜びや苦勞、働く意義について学んだ。また、「職業調べ学習」では、将来自分のなりたい姿を捉えさせることをねらいとして、

自分の興味がある職業について調べ、レポートにまとめる学習を行った。

(2) 第2学年の実践について

2学年は、「ふるさと天栄から学ぶ」をテーマに、「ふるさと魅力発信・職場体験学習」を行い、ふるさとの特産品の魅力発信や、村内事業所での職場体験学習を行った。

ア ふるさと講座「生産者から学ぶ」では、本村の特産品である米、長ねぎ、ヤーコンを生産する5名の講師から、働くことの喜びや苦勞、生産者としての思いや願いを聞くことで、特産品のPRポイントを学んだり、自己の生き方を考えるきっかけとしたりすることができた。また、生産者からは、特産品をPRするためにキャラクターを考案してほしいとの依頼を受けた。

イ 「情報の収集」を目的に、ふるさと講座「働く人から学ぶ」では、職場体験学習の事前学習として、村内の事業所で働く3名の講師（保健師、杜氏、牧場長）から直接話を聞いた。「働くとは、人のために動くことである。自分の行動が必ず世の中の誰かのためになっている。」、「看護師をしている時の夜勤が大変だった。生活のリズムも崩れてしまうので体力が必要である。」、「間違えることは良いことである。間違えない限り成功はない。間違いの中に気づきがある。チャレンジしてほしい。」という話から、働くことの意義・喜び・苦勞について学んだ。

ウ 「情報の収集」を目的に、農家、公共施設、民間企業といった村内の事業所の中から自分が希望する職種の事業所を選び、職場体験学習を行った。令和4年度は、村内16の事業所の協力を得た。各事業所では、指導を受けながら実際に仕事を体験したり、職員に働くことの意義や職業を選んだ理由を質問したりした。このように職場体験を通して、生徒は働くことを体感し、働くことの喜びや苦勞、働くことの意義について学ぶことができた。事業所への依頼は、地域コーディネーターが

行い、学校の負担を減らしている。



写真3 職場体験学習

<生徒の振り返りから（2年生）>

働くことや将来のことについて、考えたこと
働くことは、誰かの役に立つため、必ず誰かからの役にはたっているから、その責任をしっかりと持ち、一つの仕事をしっかりとやり、丁寧にやることだ、大切なことだと思います。

エ 「まとめ・表現」として、文化祭において、職場体験で学んだことや本村の特産品のよさをPRし、ふるさとの魅力を発信した。特産品のPRのため、米、長ネギ、ヤーコンをモチーフにしたキャラクターを考案した。また、考案したキャラクターを用いたPRグッズを本村「こども未来応援事業」を活用し、広告代理店と共同開発し、製品化を図った。2年次の学習では、このキャラクターを活用して、本村の特産品をさらにPRする活動を行う予定である。

資料10

（3）第3学年の実践について

3学年は、「ふるさと天栄の未来を考える」をテーマに、「ふるさと未来探究学習」を行い、村づくりの現状や課題について探究的な学習を行い、持続可能な村づくりを提言することを目指した。

ア ふるさと講座「ふるさと天栄」では、4名の本村役場職員を講師として、「環境保全」、「防災対策」、「地域活性化」、「少子高齢化」をテーマに、本村の取組や課題についての概要を学ぶことで、探究に必要な基礎的な知識を習得することができた。

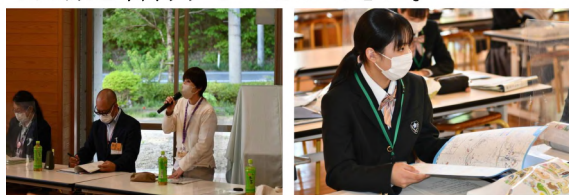


写真4 ふるさと講座「ふるさと天栄」

イ 将来の生き方を考えるために、「命の教育」を行った。助産師から「思春期を迎えている今、心と体の変化をしっかりと受け止め、自分の体を好きになって大事にしてほしい。自分のことを大事にしなければ、将来赤ちゃんをかわいがるができない。」という講話から命の大切さ、自分のことを大事にすることの意味を学び、自分の生き方を考えるきっかけになった。

ウ 「認知症サポーター講座」では、本村社会福祉協議会の協力を得て、これからの高齢化社会を担うべき存在になることを自覚するために、認知症に関して理解を深める学習を行った。高齢化の現状や認知症の方々へのサポートの在り方を学び、地域の一員として何ができるか考えるきっかけになった。

エ ア～ウの学習を踏まえ、「持続可能な村づくりへの提言」と題して、ふるさとの未来について、地域活性化、少子高齢化、防災、障害者福祉をテーマに「湯本地区の高齢者が安心して暮らすためにはどうしたらよいか」、「災害の被害を小さくするために何ができるか」といった課題を設定し、探究的なプロセスに沿って課題を追究した。「情報の収集」段階では、本村役場職員への聞き取りや村民へのアンケート調査を実施した。「整理・分析」段階では、タブレット端末や思考ツールを活用した。「まとめ・表現」段階では、未来の村づくりへの提言としてまとめ、文化祭で発表した。「地域の活性化のために既存の施設を活用した交流場所をつくること」、「高齢者の買い物のためにバスやタクシーを活用すること」、「防災意識を高めるために防災放送を工夫すること」など村づくりについて提言することができた。

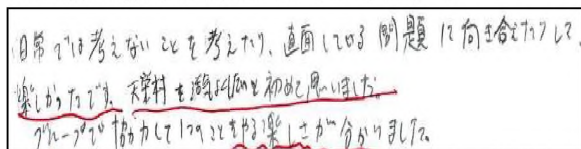
資料11



写真5 文化祭での発表

これらの学習の成果は、村づくりに対する中学生の意見として本村役場へ提供した。また、地域活性化に関する中学生の意見として、現在本村で進めている「ふるさと公園」整備事業に関して、要望を伝えた。

<生徒の振り返りから（3年生）>



2 「夢の実現に向かう力」の設定 **資料12**

私たちは、探究のプロセスごとに育成したい資質・能力を具体化するために、まず教科ごとに、やまぐち総合教育支援センターの「探究によって育まれると期待される力」の中から、教科の特性に応じて教科指導に関連のある力を選び出す作業を行った。次に、選び出した力を探究のプロセスごとに分類し、関連性を見いだした。このような作業を経て、「夢の実現に向かう力」の思考力、判断力、表現力等の観点に該当する力を田村学（2015・2018）を参考に、探究のプロセスごとに具体的な資質・能力として、次のように設定した。

（1）「課題の設定」における資質・能力

ア 地域や社会に広く目を向け、学習の意図や目的を明確にして課題を見いだす力

イ 解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる力

（2）「情報の収集」における資質・能力

ア 課題解決に必要な情報を見通し、目的に合った情報を収集する力

（3）「整理・分析」における資質・能力

ア 問題状況における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特色を見付ける力
イ 事象や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析する力

（4）「まとめ・表現」における資質・能力

ア 調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現する力
イ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や

生活に生かそうとする力

これら（1）～（4）の資質・能力を俯瞰すると、「考えるための技法」とも重なることに気づく。特に「整理・分析」段階における資質・能力に顕著に現れている。私たちは、これらの資質・能力を育成するために、探究のプロセスを踏まえ、各教科等と総合的な学習の時間の往還を意識した授業改善に取り組んだ。

3 各教科等と総合的な学習の時間との往還による授業改善

私たちは、各教科等と総合的な学習の時間が往還することで、生徒が身に付けるべき資質・能力を効果的・効率的に育成できるものと考え、各教科等においても、探究のプロセスを意識した授業づくりを行い、互見授業を通して、指導の在り方を研修した。

以下、実践内容とその考察について、探究のプロセスに沿ってまとめる。

（1）「課題の設定」における実践と考察

「課題の設定」の段階では、見通しをもつ力を重視している教科が多い。

理科では、「身の回りの物質」の授業で、実験前にアルコールと水の混合物を加熱してできた物質の性質を予想する時間を確保したことで、生徒は実験のポイントを考えながら見通しをもって、主体的に学ぶことができた。

<互見授業の記録から>

予想から実験へ、そして考察という理科ならではの手法・工夫が見られ、自ずと見方・考え方を働かせる場面が創出されていた。考察を深めていく段階は、各グループが主体的に取り組む姿を確認でき、学びが一人一人に成立していることがわかった。

保健体育科では、「創作ダンス」の振り付けを考える授業の導入段階において、振り付けを考える視点（曲調・リズム、動作のメリハリ、同調・隊列）を示したことで、どのような動きが音楽に合うのかを見通しながら創作活動を行うことができた。

「ふるさと・夢プロジェクト」の学習にお

いても課題設定の際に、解決の見通し・手立てをもたせることは重要である。理科で実践した既習事項をもとに予想させて実験方法を立案する科学の方法が、総合的な学習の時間の「課題の設定」の段階で解決の見通しをもたせ、学習計画を立案する場面で生かされた。

(2)「情報の収集」における実践と考察

「情報の収集」の段階では、数学科・英語科・音楽科・保健体育科の実践から往還が認められる事例が挙げられた。具体例を示すと、数学科では、「比例のグラフ」の学習において、比例定数が正と負の数におけるグラフ上での共通点・相違点を調べさせ、解決に必要な情報を収集させたことで、課題解決につなげることができた。また「平行と合同」の学習において、角度を求める問題の解決に必要な既習事項を挙げて確認させたことで、生徒は解決の見通しをもつことができた。しかし、教科の特性から、解決の見通しをもたせるためには、基礎・基本となる知識の定着が必要となる。本時の授業では、基礎・基本の定着が十分でなかったために、解決の見通しをもたせるまでに時間を要したという課題が見られた。



写真6 数学科の授業

音楽科では、「合唱の楽しみ」の授業において、「手紙」という曲へ込めた自分たちの思いを表現させた。その際、形式・強弱・速度・音色等の音楽を構成する要素を掲示し、要素同士の関わりに注目させたことで、生徒がより深く作品を鑑賞するポイントを理解し、曲に込められた思いに気づき、自分たちの表現の改善につなげることができた。

保健体育科では、「創作ダンス」の授業において、考える視点を示しながら他者とのコミュニケーションを通して振り付けを考えさ

せたことで、多様な意見の中から有効な考えを取捨選択し、振り付けを創作することができた。また、動きに関する多様な考えの中からリズムに合わせた動きの大切さに気付くことができた。

英語科では、ユニバーサルデザインについて調べる場面で、他者との意見交換から生まれた疑問点をタブレット端末を活用しながら情報収集したり、自分たちの寸劇に必要な情報を整理したりすることができたことは、総合的な学習の時間の中で培った資質・能力を活用したことによるものである。

(3)「整理・分析」における実践と考察

「整理・分析」の段階を「自己の夢の実現に向かう力」の育成ポイントと位置付けた教科が多く、複数の情報に目を向け共通点や相違点を見付けたり、必要性を判断して取捨選択したり、情報同士を組み合わせる新しい関係性を見いだしたりする資質・能力の育成を意図して授業実践を行った。

国語科では、「まとめ・表現」の「根拠を明らかにして主張する力」との関連から、文章を推敲する学習において、根拠をより信頼性の高いものとするために、目的や相手を意識して必要なふさわしい言葉や表現を検討させる場面を設定した。2年生の「多様な方法で情報を集めよう」の単元で、1年生に中学校生活に早く慣れてもらう目的で「学校生活紹介ガイド」の作成を行い、相手に有益で分かりやすい文章にするために推敲する学習を行った。この学習が、総合的な学習の時間において、本村の特産品をPRするためのキャッチコピーを考案する学習に発展し、特産品のよさを伝える言葉・表現を検討する場面で往還が見られた。

社会科・英語科では、複数の情報の中で共通点や相違点を見いだす力の定着に重点を置いた。各教科の授業の目的は様々であったが、目的に合う情報を選別したり、一定の傾向を見付けたりすることに生かされていた。特に

社会科では、「地方自治と私たち」の単元で、地域社会をよりよくするためにできることを生徒に考えさせる授業を行ったが、本村と他市町村との比較、生徒の過去と現在の考えとの比較といった複数の見方・考え方を用意し、思考ツールを活用して課題を追究させたことで、多面的・多角的な思考をもたせることに成功した。この学習は、総合的な学習の時間における「ふるさと未来探究学習」での「持続可能な村づくりの提言」の学習との往還が図られた授業であり、総合的な学習の時間の学びが社会科の学習でも生かされた。



写真7 社会科の授業

<互見授業の記録から>

生徒が選んだテーマ「在宅福祉サービス」は、まさに総合学習との「往還」の現れだと実感した。総合で学んだ「思考ツール」の活用も、立派に「往還」を実現していた。思考ツール「クラゲチャート」があったことで子どもたちの視点も集まり、協働的な学びの成立につながった。考えの可視化によって表現を共有することができた。

数学科・音楽科では、複数の情報を組み合わせることで新たな関係性を創り出す力を育成しようと試みた。両教科ともに既習事項を情報としてもたせた上で、「より質の高いものにするためには」（音楽科）、「既習事項を組み合わせるよさは何か」（数学科）といった見方・考え方で思考・判断させて上記の力の育成に迫る実践となった。

（４）「まとめ・表現」における実践と考察

「まとめ・表現」の段階では、英語科の実践において、生徒が着実に力を付ける姿を確認することができた。

英語科では、伝える相手や目的に応じて表現する力・考えを表明する力に成果が見られた。即興的に、あるいは時間内で表現が求められる場面で一定の文章量や特定の言語材料

使用をクリアして表現することができた。総合的な学習の時間で探究的な学びを経験し、教科で見方・考え方が働く場面を積み重ねてきたからこそ実現したものと考えられる。



写真8 英語科の授業

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

（１）ふるさと天栄の「人・もの・こと」を最大限に活用しながら、「ふるさと魅力発見学習」、「ふるさと魅力発信・職場体験学習」、「ふるさと未来探究学習」といった各学年の探究の視点に基づき、ふるさとの未来像や自己の生き方を考えるための探究的な学習プログラムを構築することができた。また、本村教育委員会はもとより、本村役場や地元企業、地域人材と総合的な学習の時間のねらいや目的を共有しながら学習プログラムを構築したことで「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、一歩前進することができた。

（２）生徒は、「ふるさと・夢プロジェクト」及び各教科等の学習を通して、探究のプロセスを踏まえながら、年間を通して螺旋的・発展的に探究的な学習に取り組むことができた。このことを裏付けるように、学習に関する意識調査（令和４年６月と令和５年３月に、全校生を対象に９項目４段階評価で実施。以下同じ。）で86%の生徒が探究のプロセスによる学習に取り組んでいると肯定的に評価している。

資料13-①

（３）「ふるさと・夢」をテーマに、様々な地域の方々の協力を得ながら探究的な学習に取り組んだことで、生徒は自己の生き方について深く考え、将来の夢や目標を見いだそうとする姿を確認できた。意識調査の結果を見ると、「夢や目標をもっている」という質問

の肯定的評価の割合が事前と事後を比べると7ポイント増加している。

資料13-①

<生徒の振り返りから(3年生)>

総合学習をやってみて、この天栄村について深く知ることができて、とても楽しかった。この学習を通して、村役場の仕事に興味を持ちました。

(4)「ふるさと」をテーマに探究的な学習を実践したことで、生徒はふるさとに関心をもって学び、理解を深めるとともに、ふるさとのよさを再認識し、郷土愛や郷土への誇りをもってしていると肯定的に捉えている生徒が多いことが確認できた。意識調査において、ふるさとへの関心度を検証する質問に対して肯定的評価をしている生徒の割合が事前と事後を比べると8ポイント増加、「自慢できるふるさとである」と認識している生徒が90%以上という結果となった。

資料13-①②

(5)意識調査において、「勉強するときは、自分の計画に沿って行う」という質問に対する生徒の肯定的評価の割合は、65%から76%と11ポイント上昇している。また、学習に対する粘り強さを検証する質問に対して、生徒の肯定的評価の割合は80%と同じであるが、「あてはまる」と自信をもって回答している生徒の割合が7ポイント増加している。これらの結果からも、生徒の学習に対して計画的に粘り強く取り組もうとする意識が高まったといえる。要因として、自分の将来の夢や目標を見だし、自己の将来像が明確になってきたことにより、学習意欲に高まりが見られたものと考えられる。

資料13-②

(6)「夢の実現に向かう力」を探究のプロセスごとに育む資質・能力として具体化し、様々な場面で活用可能となる基礎的・汎用的な資質・能力として設定することができた。各教科等において、「夢の実現に向かう力」の育成を意識して指導したことで、総合的な学習の時間との往還が認められる実践例を確認することができた。意識調査の結果からは、70~80%の生徒は肯定的に評価している。し

かし、事前と事後を比較すると往還に関する意識に顕著な高まりは確認できなかった。「夢の実現に向かう力」の中から各教科等で重点的に指導する資質・能力を明確にし、その資質・能力が総合的な学習の時間のどの場面で活用できるか授業者が意図をもって指導できるよう改善を図っていきたい。

資料13-③

2 今後の課題

(1)各教科等と総合的な学習の時間との一層の往還を図るためには、教科等横断的な視点での「カリキュラム・マネジメント」が不可欠である。各教科等と総合的な学習の時間の内容を有機的に関連付けることで、より質の高い学びが期待できる。次年度は、単元配列表を作成し、総合的な学習の時間を核とした教育課程の編成を目指していきたい。

(2)「夢の実現に向かう生徒」の育成に関して、自己の夢や目標を見だし、その実現に向けて学習に対する意識の高まりは確認できたものの、持続可能な社会を実現するために自ら社会に参画しようとする態度の育成までには至らなかった。学びの中で「学んだことをどのように役立てていくのか」、「ふるさとのために何ができるか」といった「問い」をもたせ続けることの必要性を感じている。今後は、学習したことを振り返る時間をしっかり確保し、上記の2つの「問い」を考えさせるように指導改善を図りたい。

資料13-③

(3)「見方・考え方」を働かせることは、各教科等の本質について学ぶことに直結する。そのことが資質・能力の育成にもつながる。深い学びを実現するためにも「見方・考え方」についての研究を深め、私たち教師が教科の本質をとらえながら授業実践を行う必要がある。その手立てとして「問い」の工夫を重視して授業改善を図っていきたい。

上記の研究の成果と課題を踏まえ、2年次の研究においても、継続して『天栄ならではの教育』の創造を目指していくことをお誓い申し上げ、終わりの言葉としたい。

資料 1



資料 2



資料3 年間指導計画（例：3学年）

総合的な学習の時間 年間指導計画 3学年（中学校 70時間）		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
探究課題	村づくりや地域活性化のために取り組む人々から学び、ふるさと天栄の未来や自分の将来を考える。											
単元名	ふるさと天栄の未来を考えよう（70時間）											
ねらい	ふるさと天栄の未来や自分の将来についての探究的な学習を通して、地域が抱える現状と課題を明らかにし、課題の解決に向けて主体的に情報を収集したり、見出した事実や関係を比較したり因果関係を推論したりして考え、地域と自分との関わりを理解するとともに積極的に行動しようとする態度を育てる。											
計画	学習活動（村の現状） 1 オリエンテーション ① 2 村長による特別授業 ① 3 ふるさと未来探究学習 【課題の設定】② ○ 動画を視聴し、課題の見つけ方を理解する。 ○ 将来のふるさと像について考える。 ・ ふるさとの魅力と課題 ・ 将来の目指すべき村の姿 ○ 動画を視聴し、現代社会が抱えている課題について理解を深め、課題や疑問点を見出す。 4 講座「ふるさと天栄」③ ○ 村づくりや地域活性化の取組に関わる人々の思いや願いを聞くことを通じて、地域の現状と課題を明らかにする。 ・ 企画政策課 ・ 住民福祉課 ・ 総務課 5 修学旅行事後学習 ⑥ ○ 旅行で見学・体験したことを旅行記にまとめる。(B④) 6 命の教育 ④ ○ 生命の誕生や出産について学び、命の尊さや大切さを考える。 【課題の設定】② ○ 「ロジックツリー」をもとに、グループで課題について話し合い、課題を設定する。 ○ 課題についての調査計画を作成し、学習の見直しをもつ。	育成を目指す資質・能力 ふるさどについて主体的に探究しようとする (C①) ・ 課題の見つけ方 「天栄村を住みやすい村にするためには、どんな村づくりが大切なのだろうか」 ・ KJ法 ・ ウェビングマップ GTの話や統計資料から課題を見出す。(B①) 調査・見学したことを分かりやすくまとめる。(B④) 生命の大切さを理解する (A) 仮説を立てて検証方法を考える。(B①)	学習活動（村の未来） 7 ふるさと未来探究学習 【情報の収集】⑦ ○ 設定した課題についての情報を収集する。(関係課、関係者等) ・ 住民福祉課、産業課 ・ へるすびあ ○ アンケート調査 8 認知症サポーター養成講座 ② 9 高校説明会 ⑥ 【整理・分析】⑤ ○ 収集した情報を、「重要」「緊急度が高い」等の視点を決めて多様な情報を用いて分析する。(B③) ・ 思考ツール ・ 表計算ソフト 【まとめ・表現】⑥ ○ それぞれの課題についての解決策や取組のアイデアをまとめ、文化祭や模擬議会でプレゼンする。 相手や目的に応じて、意図を明確にして表現する。(B④) ・ プレゼンテーションソフトを使ったまとめ方(技術科) ・ 発表の仕方(国語科)	育成を目指す資質・能力 目的に応じて手段を選択し、情報を収集している。(B②) ・ 情報の集め方 ・ 課題の解決に向けて、適切に情報を収集する (B②) ・ 電話のかけ方 ・ アンケート調査の仕方 ・ 礼状の書き方 ・ インタビューの仕方 認知症の高齢者をサポートする方法を知る (A) 高校の特色を知る (A) 視点を決めて多様な情報を考えるための技法を用いて分析する。(B③) ・ 思考ツール ・ 表計算ソフト 相手や目的に応じて、意図を明確にして表現する。(B④) ・ プレゼンテーションソフトを使ったまとめ方(技術科) ・ 発表の仕方(国語科)	学習活動（自分の将来） 10 自分の進路実現に向けて 【課題の設定】⑤ ○ 自分の進路の実現に向けて課題を持つ。 【情報の収集】⑩ ○ 自分の進路の実現に向けて、必要な情報を収集する。 【整理・分析】⑤ ○ 自分の進路実現に向けた取組を見直し、改善する。 ○ これまでに考えたり取り組んできたことの結果と課題を明確にし、発信する内容と方法を考える。(相手意識、目的意識) 【まとめ・表現】⑧ ○ 自分の進路実現に向けて取り組んできたことを志願理由書や面接等で表現する。 相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。(B④)	育成を目指す資質・能力 自分の進路実現に向けて計画を立案する。(B①) 必要な情報を収集し、視点を決めて分析する。(B②③) 視点を決めて多様な情報を分析する (B③) 相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。(B④)						

育成を目指す資質・能力 A:知識及び技能 B:思考力、判断力、表現力等 ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 C:学びに向かう力、人間性等 ①主体性 ②自己理解 ③協働 ④他者理解 ⑤地域貢献

※ 年間指導計画の作成にあたっては、大分県教育委員会でご公開している様式を参考とした。

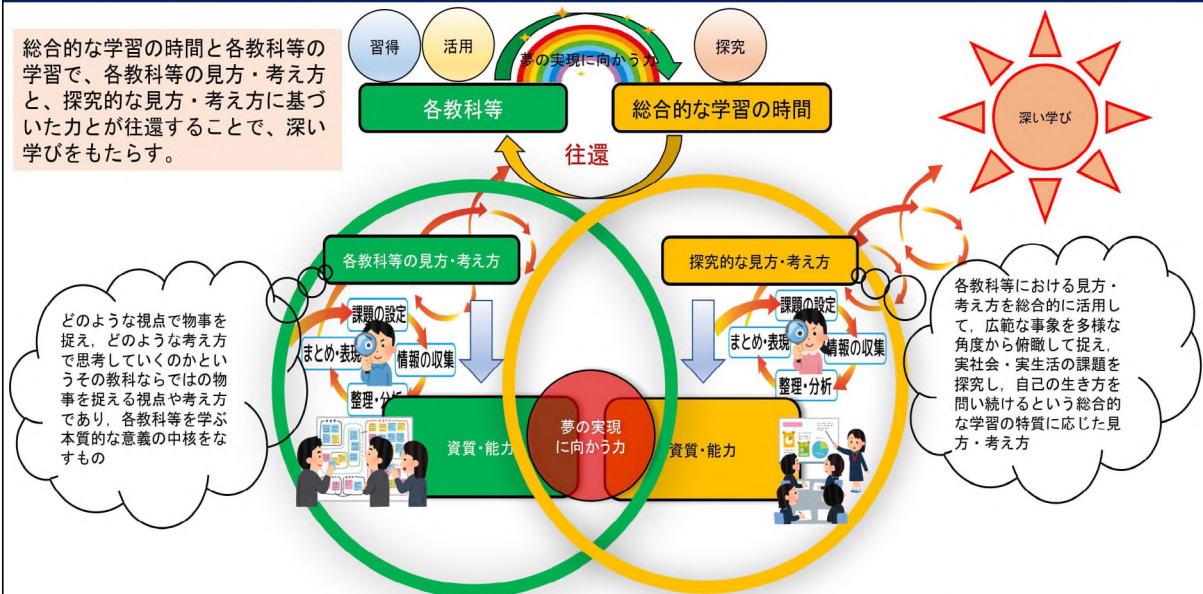
単元指導計画（例：3学年）

時間	学習活動・内容	指導上の留意点
1 4/12	オリエンテーション 1 「総合的な学習の時間」の学習の進め方について説明を聞く。 ・ 「ふるさと・夢プロジェクト」とは ・ 探究学習の進め方	○ 指導上の留意点 □ 評価 △ 各教科との関連 ○ 全校生徒対象に実施する。 ○ 総合的な学習の時間の進め方やねらいについて確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。
2 4/15	村長による特別授業 1 村長からふるさと天栄村についての講話を聞く。 ・ 天栄村の魅力と課題 ・ 村づくりへの思い 2 村長に、自分や村への思いを伝える。 (例) ・ 自然豊かな環境に配慮した村にしていきたい。 ・ 高齢者が安心して暮らせる村にしていきたい。 ・ 若い人も村に誇って活躍できる村にしていきたい。 ・ 災害に備えて、安心して暮らせる村にしていきたい。	○ 全校生徒対象に実施する。 ○ 村長から直接、村づくりや村の魅力などを聞くことで、今後の学習に対する興味・関心を高める。 ○ 自分が考えている天栄村の魅力や課題、村への思いを村長に伝えられるように準備しておく。
3 4/19	ふるさと未来探究学習 【情報収集可能な村づくりを提示しよう】 【課題の設定】 1 動画を視聴し、課題の見つけ方を理解する。 2 ふるさとの魅力と課題について付箋に5箇所ずつ書き出す。 3 KJ法を用い、取組に考えを整理する。 4 村長のふるさと像について考える。 ・ KJ法 ・ ふるさとの魅力と課題 5 動画を視聴し、現代社会が抱えている課題について理解を深め、課題や疑問点を見出す。	○ 探究的な学習過程（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）において、課題解決に必要な知識及び技能を身に付けさせるようとする。 ○ NIK for school 「プロのプロセス」(課題の見つけ方)10分を視聴し、スキルを身に付けさせる。 ○ 村長の講話やこれまでの生活経験をもちに考えさせる。 ○ タブレット端末を用いて、NIK for school「ドキュメント」を視聴させる。(4つのテーマの中から興味のあるものを3つ視聴させる。)
4 4/26	ふるさと未来探究学習 1 「どうする？ まちが住みづらくなる」(10分) ・ 商店街の衰退、農業の後継者不足、人口減少による公共サービスの限界 2 「どうする？ お年寄りのサポート」(10分) ・ 高齢社会、老老介護、認知症、高齢者の孤立、介護現場の人手不足 3 「どうする？ 大災害が起きたら」(10分) ・ 自然災害、災害に対する意識、自助・共助・公助、地域の自主防災組織 4 「どうする？ 自然がかわっていく」(10分) ・ 環境問題、絶滅危惧種、人工林の放置、生活排水 6 動画を視聴したことをもとに、講座「ふるさと天栄」の講師への質問事項をまとめる。	○ 動画を視聴して、分かったことや疑問点をもとに、講師への質問を考えさせる。

資料 4

「各教科と総合的な学習の時間との往還」とは

総合的な学習の時間と各教科等の学習で、各教科等の見方・考え方や、探究的な見方・考え方に基いた力が往還することで、深い学びをもたらす。



「夢の実現に向かう力」とは、各教科等で育成される資質・能力と総合的な学習の時間で育成される資質・能力との共通している資質・能力である。すなわち基礎的・汎用的能力であり、この資質・能力が各教科等と総合的な学習の時間の往還のための架け橋の役割を果たすと考える。

資料 5

教科研究計画

本校では、校内研究を推進するにあたり、教科ごとに研究計画を作成している。

研究主題・副主題を教科指導にどのように落とし込んでいくのか具体化するための手立てとして作成している。

今年度は、特に教科と総合的な学習の時間の「往還」を視点に手立てを明記している。

教科指導において、「夢の実現に向かう力」を育てるために、どの資質・能力を重点的に指導するのか設定している。また、「見方・考え方」を働かせるための手立てを明記している。



国語科 研究計画

<p>構成員 亀森 恵 善方 昭博</p> <p>令和4年度主題・副主題 研究主題 探究的に学ぶことを通じて、夢の実現に向かう生徒の育成 ～「天来ならではの」教育を目指して～</p> <p>目指すべき生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性と創造力を持ち、主体的に実践できる生徒 <ul style="list-style-type: none"> 学習の基礎基本が定着し、学習に主体的に取り組む生徒 学習のしかたがわかり、家庭学習に継続して取り組む生徒 学び合いを通して、自己向上に取り組む生徒 <p>国語科における目指すべき生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉を通して正確に理解し、適切に表現できる生徒 <ul style="list-style-type: none"> 言葉に着目し、辞書的な意味を基に、文脈・状況に沿った意味を見出せる生徒 目的や相手に応じて、よりよい言葉や表現を選ぼうとすることができる生徒 学び合いの中で、論理的に思考し、妥当性を追求できる生徒 <p>研究仮説</p> <p>総合的な学習の時間を核とした「ふるさと天来」についての探究的な学習の充実を図り、よりよく課題を解決し、夢の実現に向かう力を育てる実践を行えば、夢や目標を自ら設定し実現しようとする生徒を育成できるであろう。</p> <p>国語科における研究仮説</p> <p>言葉に着目して言葉同士や言葉と対象の関係を問い直し、探究的な学習の中で繰り返し思考力、表現力を発揮させれば、言葉を通して正確に事象を理解し、適切に表現できる生徒を育成できるであろう。</p> <p>各教科と総合的な学習の時間の「往還」を実現するために</p> <p>【国語科の見方・考え方が働くことを期待する場面】</p> <p>① どのような場面（教科内の「探究のプロセス」におけるどの段階）で働かせることを期待するのか</p> <ul style="list-style-type: none"> 【整理・分析】 <ul style="list-style-type: none"> 複数の情報を比較し共通点や相違点を明らかにする。 情報の必要性を判断し取捨選択する。 【まとめ・表現】 <ul style="list-style-type: none"> 根拠を明らかにして主張する。 <p>② どのような手立てで「見方・考え方」を働かせるのか</p> <p>見方（どのような視点で物事を捉えるか）</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉によって表現された対象に対して比較対象を提示し、思考する対象との違いを気付かせ、それらの場合における意味や表現の効果などについて問い直すきっかけを作る。例えば、モデルとなる2つの言語表現を比較して、その差からそれぞれの意味の違いや働き、他の言葉との関係の違いについて考えるきっかけとする。 言葉によって表現された対象について、他の表現に置き換えた場合を仮定し、どのような差が生まれるか、意味や表現の効果などについて問い直すきっかけを作る。 <p>考え方（どのような考え方で思考するか）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「見方」の段階で認識した違和感や意図から、対象となる言葉や表現の意味・働き、他の言葉・対象との関係などを、その文脈・状況の中で問い直す。 	<p>研究仮説を踏まえ、その実現のために教科でどのように生徒を育成していくのかを記述している。</p> <p>「夢の実現に向かう力」を具体的な力として設定するために、やまぐち総合教育支援センターの「探究によって育まれると期待される力」の中から教科の特質に応じて育成できると考えられる力を探究のプロセスごとに記述している。</p> <p>教科指導で育成すべき資質・能力を育成するために、どのような手立てで「見方・考え方」を働かせていくのかを記述している。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習指導案の工夫

主体的・対話的な学びの実現のためには、1回1回の授業で全ての学びが実現されるわけではない。単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、授業を構想することが大切である。そのために、単元計画を作成し、授業を構築していく。その際、単元全体を見通して、探究のプロセスに従い、問題解決的な学習を展開できるようにしている。

各教科の「研究計画」で設定した「夢の実現に向かう力」を明記することで、授業者が授業を通して、生徒にどのような力を身に付けさせたいのか意識しながら指導できるようにしている。この力が、総合的な学習の時間においても発揮できるように意識した指導をしていくことにより、往還を図っていきたい。

5 単元の主な学習活動と評価規準

時	主な学習活動	評価規準
1 2 3	【課題設定】 ・学校生活紹介ガイドに取り上げる行事等を決定する。 ・紹介に必要な情報の項目や内容を考える。 【情報の収集】 ・ガイドに掲載するための情報をインタビューやアンケートで収集する。	・後輩にとって必要であり、有益な行事等は何かと、その情報はどのようなものか考えている。(主体的態度) ・紹介するために必要な項目や内容を挙げるができる。(知識・技能) ・インタビューやアンケートの方法にしたがって情報収集できる。(知識・技能)
4 5 6 7	【情報の整理・分析】 ・集めた情報を後輩に伝わるように整理・分類する。 ・わかりやすい紙面になるように見出しや文章、図・写真などの構成を考える。 ・推敲する際のポイントを確認する。 【複数の情報を比較し共通点や相違点を明らかにする】 【情報の必要性を判断し取捨選択する】	・収集した情報を、目的に合わせて取捨選択し、思考ツールを活用して分類したり、関係づけたりすることができる。(知識・技能) ・伝えたい情報を見出しと文章、図・写真によって効果的に伝えることができる。(思考・判断・表現) ・推敲する際に目的や相手意識し、使用した言葉や表現によって理解が適切に表現できているか確かめることができる。(思考・判断・表現)
8 9	【まとめ・表現】 ・作成した構成に沿って、見出しを考えながら書き出し、推敲する。	・後輩に伝えるためによりわかりやすい言葉や表現を、根拠をもとに選択できる。(思考・判断・表現)
10 11	・推敲の結果をもとに、清書する。	・推敲の中で学んだ改善点を生かし、伝えたいことがより伝わるガイドに修正しようとしている。(主体的態度)
12	・完成したガイドを読み合い、感想を交流する。 ・単元の振り返りをする。	・作品のまとめ方や情報活用の仕方について、よいと思ったところを評価しようとしている。(主体的態度)

学習指導案 (例:数学科)

数学科学習指導案

令和4年11月21日(月) 2校時 1年1組(1の1教室) 授業者 柳橋 綾子

1 本校現職テーマ

探究的に学ぶことを通じて、夢の実現に向かう生徒の育成
 ～「天菜ならでは」の教育を目指して～

2 研究仮説

総合的な学習の時間を核とした「ふるさと天菜」についての探究的な学習の充実を図り、よりよく課題を解決し、夢の実現に向かう力を育てる実践を行えば、夢や目標を自ら設定し実現しようとする意欲を生徒を育成できるであろう。

【手だて①】「見方・考え方」を働かせ、生徒の学びが深まる工夫

【手だて②】思考の可視化、協働的な学び

3 題材名 比例と反比例 「比例のグラフ」

4 本時の構想 (教材編・生徒編・指導編) と本校現職テーマ・【手だて】との関連

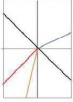
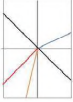
小学校では、数量関係の指導として、ともなって変わる2つの数量について、それらの関係を表や式に表し、その変化の様子を調べること、ともなって変わる2つの数量の関係を表やグラフで表し、変化の特徴を調べることを通して比例の関係を理解することについて学習してきた。

これらの学習を受け、中学校1学年では、事象の中からともなって変わる2つの数量を見だし、それらの間の関係を考察し、その特徴を明らかにしたり、式やグラフに表したりして、数量関係についての学習を深めていく。比例については、小学校の学びをふり振り返りながら、文字を用いた式や表、式、グラフを用いて表現すること、変化の様子をとりえやすくなることを学習すること、関数的な見方や考え方は、日常生活の具体的な場面や問題で解決する際に、直接測ったり観察したりできない目に見えない事柄について、それと関わるもう1つの事柄に注目すること、特徴を見出し、場面を単純化・理想化し、表や式、グラフといった目に見える形に表すことで解決していくという、今後の数学の学習にも関わる重要な考え方を学べる教材である。そのため、変域が負の数で範囲まで拡張されることにもなると、表やグラフについても丁寧な確認しながら特徴などを学習することが大切である。さらに、関数という抽象的な概念をグラフとして理解し、概念的な概念で捉えやすくなるため、アニメーションなどのICT教材を効果的に用いること、生徒の思考をひろげることができる教材であると考えられる。

本学級の生徒は、数学に対する苦手意識が強い。また、文章をよく読んで必要な情報を読み取ることが苦手である。そのため、関数の導入では、問題場面を視覚的に提示しながら考えさせることで課題に取り組みやすくなり、2つの数量を見だしやすくなり、また、小学校段階での比例の学習については、比例の言葉の式や表の対応関係などが定着していない生徒も多くいたが、ふり振り返りながら文字を用いて一般化すること、少しずつ理解が深まってきたところである。

本時では、比例のグラフが点の集合であり、その全体が直線となることをしっかりとイメージさせたい。そのため、【手だて①】として、変数xが負の数まで広がることで比例のグラフはどのようなグラフになっているのかを予想させる問題から始めることで、生徒に課題意識を持たせたい。自分の考えが正しいのか正しくないのか、またそれはなぜかと予想を確かめるために、比例のグラフの特徴を見出すという必要が生じる。さらに、後半では、比例定数が負の数の場合を考え、比例定数が正の場合と比較することで、小学校では知らなかった右肩上がりや左下がりへの興味や、他のグラフもあるのだろうかという関心の深まりを期待したい。また、実際に表から座標をとって、具体的な活動の時間をしっかりと確保することで、グラフの特徴を再確認させたい。【手だて②】として、完成したグラフやICT教材で作成したグラフをもとに、比較しながらグラフの特徴を伝え合う活動を行うことで、本時のねらいに迫ることができると考える。さらに、班でICT教材を活用し、グラフをアニメーションで捉えさせることで、直線が点の集合であるというイメージをしっかりと持たせられると考える。授業の終末では、導入で予想した問題の答えを確認し合う際に、なぜ正しいか、正しいのかの理由を本時のまとめにだてていく。言葉などを使いながら確認すること、今後の数学的な表現力を高める活動に繋げていきたい。

単元	時	主な学習活動	評価規準
5 単元の主な学習活動と評価規準	1	<p>【課題設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 素数で習った比例の性質やグラフの特徴を振り返る。 ・ x の変域や比例定数を負の数にひくだけでも、比例の性質が成り立つことを理解している。(知識・技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ x の変域や比例定数を負の数にひくだけでも、比例の性質が成り立つことを理解している。(知識・技能)
	2	<p>【情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ y が x に比例するとき、1組の x、y の値から y を x の式で表すことができる。(知識・技能) ・ 変域を負の数にひくだけでも、比例の性質が成り立つことを理解している。(知識・技能) ・ 座標の意味や点の位置の表し方を理解している。(知識・技能) ・ 点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。(知識・技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ y が x に比例するとき、1組の x、y の値から y を x の式で表すことができる。(知識・技能) ・ 座標の意味や点の位置の表し方を理解している。(知識・技能) ・ 点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。(知識・技能)
	3	<p>【何が解決に役立つかを見通す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 変域を負の数にひくだけでも、比例の性質が成り立つことを理解している。(知識・技能) ・ 座標の意味や点の位置の表し方を考える。(思考・判断・表現) ・ 点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりする。(知識・技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解している。(知識・技能)
	4 (本時)	<p>【何が解決に役立つかを見通す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 座標の意味や点の位置の表し方を考える。(思考・判断・表現) ・ 点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりする。(知識・技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解している。(知識・技能)
	5	<p>【情報の整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例について、x の値が増加するときの y の値の変化の様子を、比例定数が正の場合と負の場合で、表やグラフを用いて調べる。 ・ 比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかく。 ・ 比例の性質を調べる方法を振り返る。 <p>【複数の情報を組み合わせて新しい関係性を創り出す】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解している。(知識・技能) ・ 座標の意味や点の位置の表し方を考える。(思考・判断・表現) ・ 点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりする。(知識・技能)
	6	<p>【まとめ・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の表やグラフから式を求めることができる。(知識・技能) ・ 比例の表、式、グラフのどこに比例定数が表れるかをまとめる。 ・ 比例のグラフから式を求めると、比例の性質を調べる方法を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の表やグラフから式を求めることができる。(知識・技能) ・ 比例の表、式、グラフのどこに比例定数が表れるかをまとめる。(思考・判断・表現) ・ 比例のグラフから式を求めると、比例の性質を調べる方法を振り返る。(知識・技能)
6 本時の学習指導	(1) 本時のねらい	<p>比例の式から表をつくり、$y = ax$ のグラフがどんなグラフになるか、多くの点をとって調べることで、比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容を振り返る。 ・ 比例のグラフの特徴をまとめる。 <p>比例のグラフでは対応する点の集まりは1つの直線になる。このようにして得られた直線を比例 $y = ax$ のグラフ という。</p> <p>【比例のグラフは原点を通る直線になる。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入で予想した問題を確認する。

単元	時	主な学習活動	評価規準
2 学習過程	1	<p>既習事項を振り返る。</p> <p>(1) 比例のグラフについて考える。</p> <p>(2) x の変域を負の数までひくげたときの比例のグラフを予想する。</p>	<p>既習事項を振り返る。</p> <p>(1) 比例のグラフについて考える。</p> <p>(2) x の変域を負の数までひくげたときの比例のグラフを予想する。</p>
	2	<p>学習課題を把握する。</p> <p>比例 $y = ax$ のグラフは、どのようなグラフになるだろうか。</p>	<p>学習課題を把握する。</p> <p>比例 $y = ax$ のグラフは、どのようなグラフになるだろうか。</p>
	3	<p>問題に取り組む。</p> <p>(1) 変域を負の数までひくげたときの $y = 2x$ のグラフについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校のときと同じように、表から座標をとっていくこととグラフがかけられる。 ・ 小学校のときと同じように、x が負の範囲でも直線になりそう。 <p>(2) できたグラフから、どんなことが分かるか班で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ x が原点を越えて負の数の範囲まで広がると、グラフもさらに左の方へ伸びて直線になる。 ・ 原点を通っている。 ・ (3) 他のいくつかの式でも確認する。 ・ $y = x$、$y = 3x$、$y = 5x$ などのグラフをかく。 <p>(4) 比例定数が負の数の場合の $y = -2x$ のグラフについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例定数が負の場合も直線になる。 ・ グラフが $y = 2x$ のときと逆に傾いている。 ・ y 軸で反転した形になっている。 ・ (5) 比例定数が正の場合と負の場合のグラフを比べて、共通点や違いを確認していく。 	<p>問題に取り組む。</p> <p>(1) 変域を負の数までひくげたときの $y = 2x$ のグラフについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校のときと同じように、表から座標をとっていくこととグラフがかけられる。 ・ 小学校のときと同じように、x が負の範囲でも直線になりそう。 <p>(2) できたグラフから、どんなことが分かるか班で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ x が原点を越えて負の数の範囲まで広がると、グラフもさらに左の方へ伸びて直線になる。 ・ 原点を通っている。 ・ (3) 他のいくつかの式でも確認する。 ・ $y = x$、$y = 3x$、$y = 5x$ などのグラフをかく。 <p>(4) 比例定数が負の数の場合の $y = -2x$ のグラフについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例定数が負の場合も直線になる。 ・ グラフが $y = 2x$ のときと逆に傾いている。 ・ y 軸で反転した形になっている。 ・ (5) 比例定数が正の場合と負の場合のグラフを比べて、共通点や違いを確認していく。
	4	<p>本時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例のグラフの特徴をまとめる。 <p>比例のグラフでは対応する点の集まりは1つの直線になる。このようにして得られた直線を比例 $y = ax$ のグラフ という。</p> <p>【比例のグラフは原点を通る直線になる。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入で予想した問題を確認する。 	<p>本時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例のグラフの特徴をまとめる。 <p>比例のグラフでは対応する点の集まりは1つの直線になる。このようにして得られた直線を比例 $y = ax$ のグラフ という。</p> <p>【比例のグラフは原点を通る直線になる。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入で予想した問題を確認する。
	7	<p>学習活動、内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想される生徒の反応 	<p>学習活動、内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想される生徒の反応
	8	<p>主な支援・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 評価 <p>◎ 小学校で習った比例のグラフについて振り返る。小学校で習った言葉で確認する。【グラフは直線になり、0の点を通る】</p> <p>◎ 前時にかけた、x の変域が正の数だけの比例 $y = 2x$ のグラフが、x の変域を負の数までひくげたときのようなグラフになるか予想し、グラフ用紙に記入させる。【手だて①】</p>  <p>◎ $y = 2x$ について、表をもとに座標をとる際、x の値が整数のときの点を直線で結んでしまふ生徒には、表にない x、y の値の組も本当に直線上にあるのか考えさせ、x の値が小数の場合も調べていくことと、必要ならば、電卓を使用して計算する。具体的な活動から、グラフは点の集まりであることを見いださせる。また、ICT教材を活用することで、さらに効果的にイメージを持たせる。【手だて②】</p> <p>● 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解できる。</p> <p>◎ x の値は整数だけでなく、表作成に時間がかからないようにし、いくつかの点の並びから、比例定数が負の場合についてのグラフを予想させる。そのため、本当に直線になるかイメージができにくい生徒には、ICT教材で x の値をできるだけ細かく取った場合のグラフを確認させる。</p> <p>◎ $y = 2x$ と $y = -2x$ の2つのグラフの比較だけでは、グラフの特徴が捉えられない場合は、班でICT教材を利用して、いくつかのグラフを表示しながら比較させる。</p> <p>【手だて③】</p> <p>◎ 比例定数が負の場合でも、グラフはその式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを確認させる。</p> <p>◎ 本時の学習内容や活動を振り返り、比例のグラフの特徴をまとめる。</p> <p>◎ 予想した問題の答えとその理由を本時のまとめから確認していく。</p>	<p>主な支援・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 評価 <p>◎ 小学校で習った比例のグラフについて振り返る。小学校で習った言葉で確認する。【グラフは直線になり、0の点を通る】</p> <p>◎ 前時にかけた、x の変域が正の数だけの比例 $y = 2x$ のグラフが、x の変域を負の数までひくげたときのようなグラフになるか予想し、グラフ用紙に記入させる。【手だて①】</p>  <p>◎ $y = 2x$ について、表をもとに座標をとる際、x の値が整数のときの点を直線で結んでしまふ生徒には、表にない x、y の値の組も本当に直線上にあるのか考えさせ、x の値が小数の場合も調べていくことと、必要ならば、電卓を使用して計算する。具体的な活動から、グラフは点の集まりであることを見いださせる。また、ICT教材を活用することで、さらに効果的にイメージを持たせる。【手だて②】</p> <p>● 比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解できる。</p> <p>◎ x の値は整数だけでなく、表作成に時間がかからないようにし、いくつかの点の並びから、比例定数が負の場合についてのグラフを予想させる。そのため、本当に直線になるかイメージができにくい生徒には、ICT教材で x の値をできるだけ細かく取った場合のグラフを確認させる。</p> <p>◎ $y = 2x$ と $y = -2x$ の2つのグラフの比較だけでは、グラフの特徴が捉えられない場合は、班でICT教材を利用して、いくつかのグラフを表示しながら比較させる。</p> <p>【手だて③】</p> <p>◎ 比例定数が負の場合でも、グラフはその式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを確認させる。</p> <p>◎ 本時の学習内容や活動を振り返り、比例のグラフの特徴をまとめる。</p> <p>◎ 予想した問題の答えとその理由を本時のまとめから確認していく。</p>

資料6 「NHK for school」の番組コンテンツの活用（例：3学年）

1, 次の4つの視点から3つの動画 (NHK for school) を選んで、タブレットでそれぞれ視聴しましょう。
⇒「ドスルコスル」で検索

↓視聴するものに

- 動画①: 「どうする? まちが住みづらくなる (10分) (地域の活性化の視点)
- 動画②: 「どうする? お年寄りのサポート (10分) (地域の高齢化の視点)
- 動画③: 「どうする? 大災害がおきたら (10分) (災害・防災の視点)
- 動画④: 「どうする? 自然がこわれていく (10分) (地域の自然環境の視点)

2, 選んだ動画ごとに、下の表に ア 課題だと感じること イ 疑問に思うこと をまとめましょう。

選んだ動画	ア 課題だと感じること	イ 疑問に思うこと
例動画①まちが住みづらくなる	例 商店街の商売を継ぐ人がいないこと	例 なぜ若者たちは地元 (商店街) に残ってくれないのか?
① まちが住みづらくなる	商店街だけでなく大型スーパーに行くと、継ぐ人がいない。農業の後継者不足、人口が不足している。→税金が少なくなる	地味から東京などの都会に若者がいくのはなぜか。 ↓ 田舎にいたくない ・トレンドを求めている?
② お年寄りのサポート	老老介護をする人がたくさんいる。お年寄りの独立を子孫が死にすまう。介護スタッフが足りない	高齢者の居場所を作らないのはどうしてか。介護施設、地元の集会所など。長生き=いいことじゃない...?
③ 自然がこわれていく	多くの生き物が絶滅している。山、干潟の減少などで生き物のすみかが減り続けている。ほったらかしにされている森林。(シカの餌かみ)川が海へつながる(汚水による)	森林の管理はなぜがされているのか。 ↓ 木を伐さずする人がいない?

<主に活用した「NHK for school」の番組コンテンツ>

- 「ドスルコスル」 社会の諸課題と、それに向き合う子どもたちの姿をセットで紹介した番組
- 「アクティブ10 プロのプロセス」“社会を生き抜く術”を情報のプロから学ぶ番組

資料7

思考ツール・タブレット端末の活用(例)

整理・分析	まとめ・発表	
 <p>自分たちの自由に出し合った考えを、分類して整理し、新たな考えを生み出すために思考ツールを活用した。</p> 	 <p>自分で体験したことを、写真や資料を取り入れながら、職場体験記としてまとめた。</p> 	 <p>自分たちで探究したことをまとめ、プレゼンテーションをして、持続可能な村づくりとして提言した。</p> 

資料 8

地域人材の活用(例)「村長による特別授業」



村の魅力について「豊かな自然があり、水がきれいであること。その水を使って、米や日本酒、長ネギやヤーコンなどの農産物、豆腐や味噌などの加工品が作られ、国内有数の高い品質を誇っている。これらは、作る人の努力によるものである。だから、生徒の皆さんを含む村民が自慢である。」また、本校生徒に対して「村のために活躍できる人になってほしい。人は誰かのためにとなると力を発揮できる。夢や目標を見出すことは難しいが、誰かのために何かやりたいという思いを持つことで、自分の力を発揮してほしい。」

4月15日(金)に全校生を対象に「村長による特別授業」が実施され、添田勝幸村長から天栄村の魅力などについて教えていただきました。

この特別授業は、総合的な学習の時間「ふるさと・夢プロジェクト」の第1回目の授業として実施されました。



資料 9 「ふるさと魅力発見学習」振り返りカード (1 学年)

<p>5 ふるさと魅力発見学習Ⅱ</p> <p>【課題の設定】①</p> <p>○ 課題を設定し、解決に向けた計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの自然環境と環境保全に取り組む人々 ・ふるさとの伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 など 	<p>【自己評価】当てはまるもの全てに○をつけよう</p> <p>課題「<u>ふるさと</u>がたぐさんいるので、<u>見ているのが面白い</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 仮説を立てて検証方法を考えることができた ② 班の人と協力して仮説を立てることができた ③ 班で考えた仮説について興味を持つことができた。 	<p>【反省】</p> <p>班のみんなと協力して、 仮説を立てることができた。</p>
<p>【情報の収集】②</p> <p>○ 設定した課題についての情報を収集する。(関係課、関係者等)</p> <p>○ ふるさとの自然や歴史・文化の体験・見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯本地区での森林学習 ・ふるさと伝承館見学 	<p>【自己評価】当てはまるもの全てに○をつけよう</p> <p>① 課題の解決に向けて、適切に情報を収集することができた</p> <p>② 課題解決に必要な技能を身に付けることができた。</p> <p>(さらに下の当てはまるものに○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話のかけ方 ・インタビューの仕方 ・現地調査の方法 ・礼状の書き方 	<p>【反省】</p> <p>森林学習では、動物や植物などの情報を収集できた。</p>
<p>【整理・分析】③</p> <p>○ 収集した情報について、視点を決めて分析し、今後の取組の方向性を考える。</p> <p>【まとめ・表現】⑤</p> <p>○ それぞれの課題から分かった天栄村の特色や未来に伝え残したいものやことについて、プレゼンテーションソフトを使ってまとめ、文化祭で発表する。</p>	<p>【自己評価】当てはまるもの全てに○をつけよう</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 視点を決めて多様な情報を分析することができた ② 壁新聞を作成し、「課題・仮説・検証・結論」が見ている人にわかりやすいようにまとめることができた。 ③ 壁新聞のレイアウトを工夫することができた。 ④ 班の人と協力して壁新聞作成をすることができた。 ⑤ 文化祭でのステージ発表に向けて、班での自分の係りの仕事を積極的に進めることができた。 ⑥ 発表に向けて話し合う中で、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重することができた。 ⑦ 見ている人に伝わりやすいような発表になるように、声の大きさや動作などを工夫することができた。 ⑧ 発表練習に真剣に取り組むことができた。 ⑨ 発表練習に班の人と協力して取り組むことができた。 ⑩ プレゼンテーションソフトを使って発表に向けた資料を作ることができた。 	<p>【反省】</p> <p>親聞のとりで、は、シ マウトを工夫して、分かり や、あ、い、よう、に、イ、作、成、で、 きたの文化祭発表で、 は、種、極、的、に、準、備 に、取、り、組、む、こ、と、が、で、 きた。本番では、楽、し、 発表することになった。</p>
<p>【文化祭での係り】 ミリオ <u>小道具</u> プレゼンテーションソフト</p> <p>【文化祭での配役】 ナレーター</p> <p>【学び方について】の自己評価 当てはまるものに○をつけよう</p> <p>A. グループで協力して学習を進め、主体的に自分の思考を整理したり、深めたりして学ぶことができた。</p> <p>B. グループで協力して学習を進め、自分の思考を整理して学ぶことができた。</p> <p>C. 授業中に指示された内容を理解し、精一杯授業に参加することができた。</p> <p>④ 他者と協力して活動することができなかった</p> <p>【反省】なぜそのように評価したか</p> <p>班で重要な発表準備などで、みんなできちんと準備できたから。</p>	<p>【総合的な学習の時間で特に身につけられたと思う力・特に自分が力を発揮することができた場面について】</p> <p>文化祭発表では、みんなをまとめることが得意になった。</p>	

資料10 特産品PRのためのキャラクター（2学年）

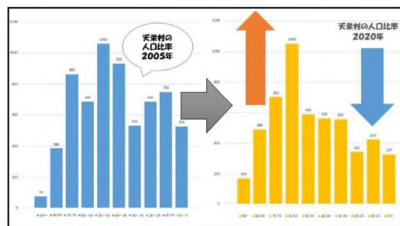


本村の「こども未来応援事業」を活用して、考案したキャラクターがデザインされた「シール」「ポップ」「マスキングテープ」を製品化した。

これらは、2年次の学習で、特産品のPRのために活用する予定である。

資料11 「持続可能な村づくりへの提言（高齢化対策）」（3学年）

湯本の高齢者が安心して暮らすには



湯本の高齢者が安心して暮らすには

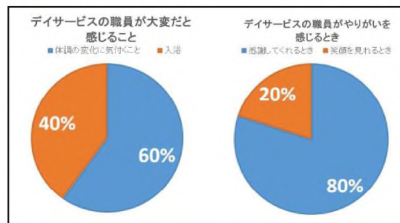
湯本の高齢者の問題

一人で生活している高齢者を助けたいと思ったから

仮説

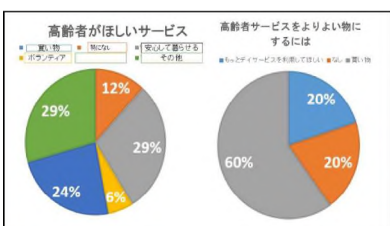
解決のための手立て

- ・買い物に行ける高齢者だけが乗れるシャトルバスを出す。
- ・支援する人を増やしたり、関わる機会を増やす。



アンケートから〈職員の方〉

- ・デイサービスの職員がやりがいを感じる時 感謝してくれるとき、笑顔をみれるときなど
- ・デイサービスの職員が大変だと感じる時 体調の変化に気付くこと、入浴など
- ・これからの課題は もっとデイサービスの利用者が増えてほしい、買い物など



アンケートから〈利用者の方〉

- ・デイサービスを利用する高齢者の方がほしいサービス

安心して暮らせるサービス、ボランティア、簡単に買い物できるサービス、など

まとめ1

湯本の高齢者が安心して暮らすためには...

時間帯	全12人	不参加	全8人	料金	全5人
6:00~	0	1名	5	10円~	0
9:00~	5	2名	2	100円~	4
13:00~	5	3名以上	1	その他	5
16:00~	3				

・買い物に利用できるようなシャトルバスを出したほうが良い！
できるなら、正午前後の時間帯

まとめ2

- ・支援者を増やしたほうが良いという仮説は間違っていた(アンケートより)
- 高齢者の方々と関わる機会や、ボランティアを設けると良いのでは？

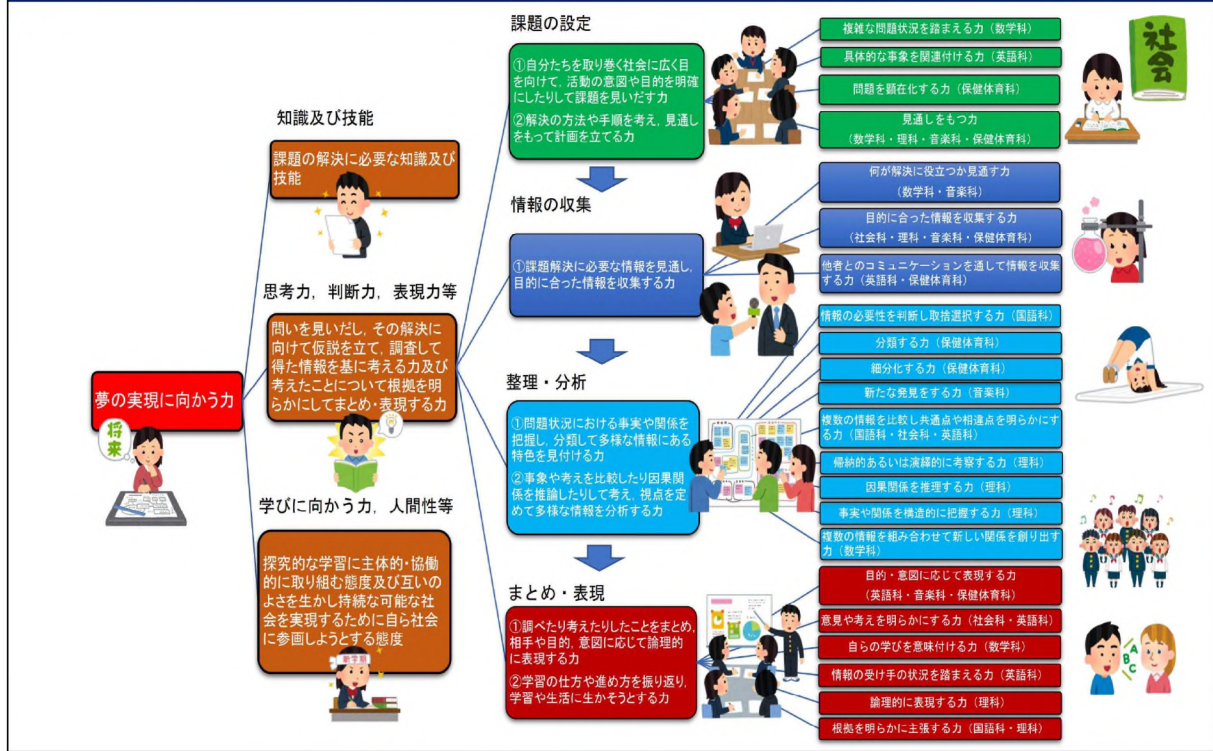
ありがとうございました！

おしまい

「まとめ・表現」として、学習したことを「持続可能な村づくりへの提言」として発表用スライドにまとめ、文化祭で保護者や地域の方に発信した。

資料12

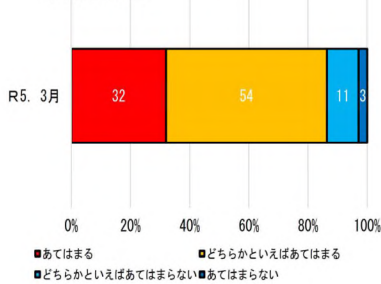
育成を目指す資質・能力 「夢の実現に向かう力」とは



資料13-①

学習に関する意識調査の結果と考察①

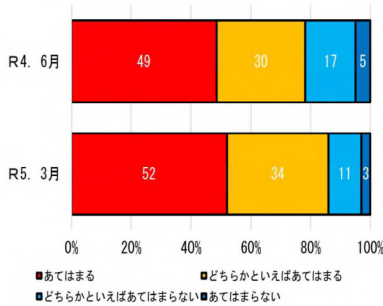
「ふるさと・夢プロジェクト」では, 自分で課題を立てて情報を集め整理して, 調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



考察

総合的な学習において, 生徒が探究的な学習を行っているかを実感しているかを検証するための質問である。全体の86%の生徒は, 「ふるさと・夢プロジェクト」の学習において, 「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」という探究のプロセスに沿って学習していると実感していることが分かる。年間を通して, 問題解決的な学習を繰り返し行ってきた成果が現れている。

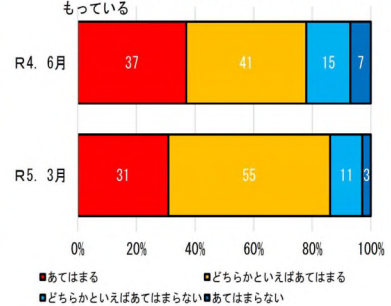
将来の夢や目標をもっている



考察

総合的な学習の時間「ふるさと・夢プロジェクト」の学習を通して, 生徒が自己の夢や目標をもつことができたのかを検証するための質問である。事前と事後の調査結果を比較すると, 夢や目標をもつことができた肯定的にとらえている生徒の割合は, 79%から86%と7ポイントの上昇が見られた。「ふるさと・夢プロジェクト」の学習によって, 自分のなりたい姿をイメージできているといえる。

天栄村の歴史や自然, 文化, 産業, 村づくりに関心をもっている

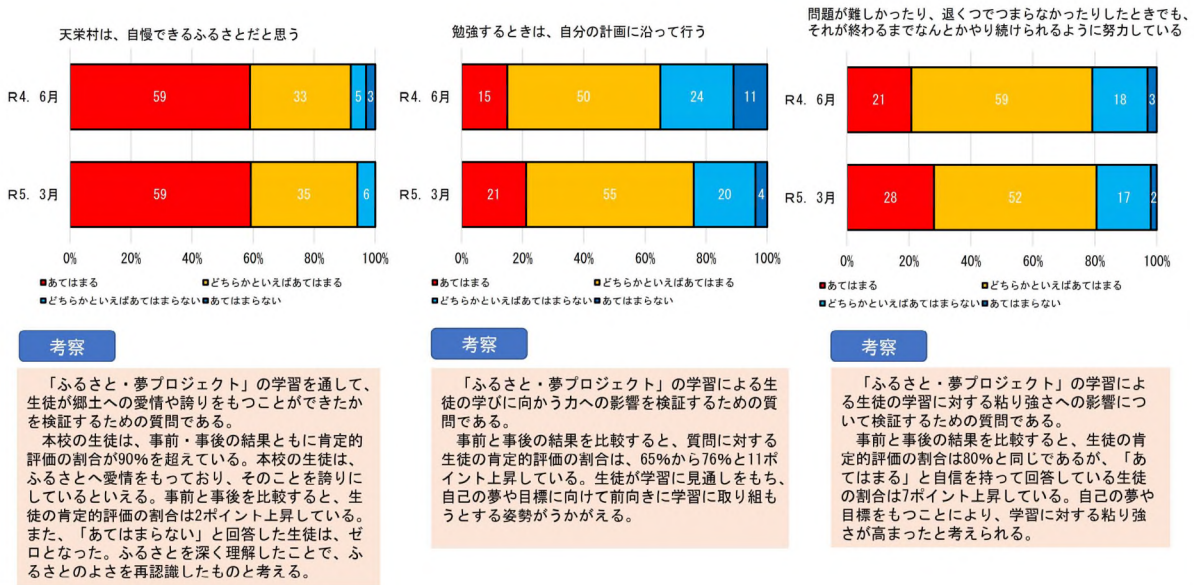


考察

総合的な学習の時間のテーマになっている「ふるさと」への関心度を検証するための質問である。ふるさとについての探究的な学びを通して, 生徒のふるさとへの関心は, 事前と事後を比較すると生徒の肯定的評価の割合は, 78%から86%と8ポイント上昇している。ふるさとをテーマに探究的な学習を通して, ふるさとに対する理解も深まったことで, 関心が高まったものと考えられる。

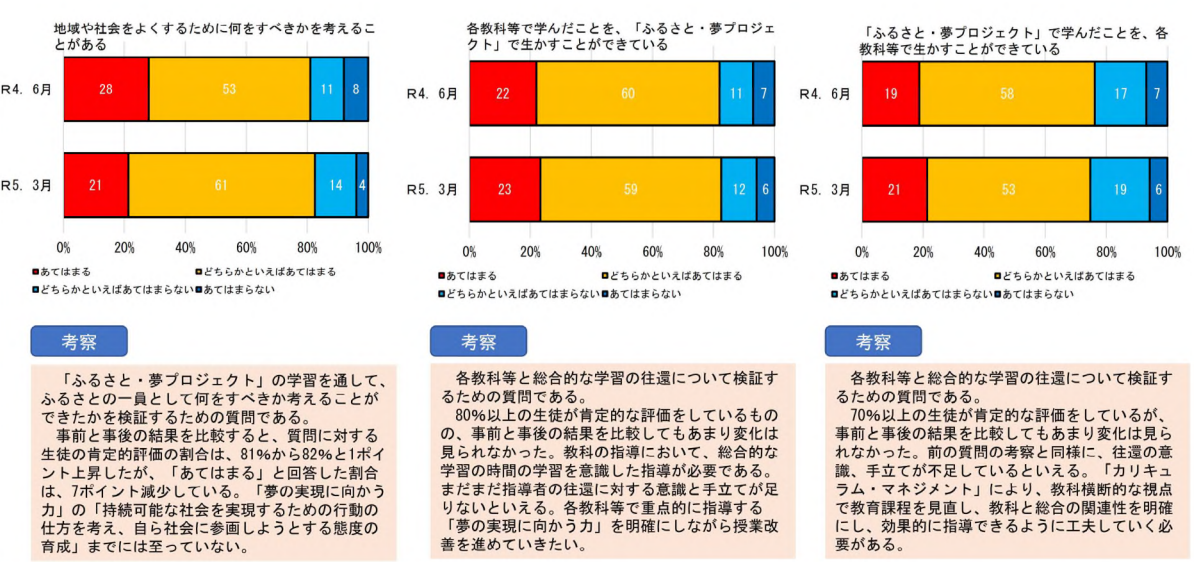
資料13-②

学習に関する意識調査の結果と考察②



資料13-③

学習に関する意識調査の結果と考察③



<主な参考文献・資料>

やまぐち総合教育支援センター (2021) 『やまぐち総合教育支援センター研究紀要161集』 第1巻
 文部科学省 (2018) 『学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』
 田村学 (2015) 『授業を磨く』 東洋館出版社 (2018) 『深い学び』 東洋館出版社
 大分県教育委員会HP 「総合的な学習の時間 全体計画例・単元プラン例の公開について」
 (<https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/post-124.html>)

研究主題及び副主題

なりたい自分になるために学び続ける児童の育成
～肯定的・対話的な関わりによる教育課程の実践を通して～



棚倉町立棚倉小学校 (代表) 校長 藤田 篤

I 研究の構想

1 主題設定の理由

(1) 児童の学びの姿から

学級活動の授業で5年M子は、「学習で発表するという目標を決めてがんばった。間違えてもいいからやらないで後悔するよりやって後悔する方がいいと思って毎日努力した。何事にも逃げずにその事に向かっていく力が付いたと思う。これからも将来につながる力を付けていきたい。みんなが聞いてくれるからがんばれる。」と、キャリア・パスポートに振り返りを記述した。私たちは、M子の振り返りとの対話を通して、全ての児童が「今学んでいることは大事だ。将来に役立つこんな力が付くから。」と学びの価値を実感し、学び続けることができるようにしていくことを確認した。さらに、M子の学び続ける姿は、学級の肯定的・対話的な関わりの中で育まれていることに注視した。どんなに社会が変化しようとも、他者と協力・協働しながら学び続けることができる「一生ものの力」を育てていきたいと全教職員で共有し、令和4年度の研究をスタートさせた。

(2) 研究の経過から

棚倉町教育委員会方針のもとに、学習指導要領総則で述べられている特別活動を要としたキャリア教育の充実、社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成等を踏まえて、なりたい自分になるために学び続ける児童の育成を目指している。「子どものよさに目を向ける」を信念とし、キャリア教育の視点を生かした資質・能力の向上に取り組んできた。

前年度の研究において、特筆すべきは、学びの価値の実感と学力との相関を見ることができた点である。この成果は、目先の目的達成後に剥落する知の危険性等、教育課題の解決と学習指導要領前文が示している生涯にわたって学習のつながりを見通すことの具現化につながると思っている。

これらの成果を踏まえて、令和4年度はM子の学びの姿から新たに得た学び続けるための肯定的・対話的な関わりを基盤に、全児童のなりたい自分を実現したいと考えた。

2 研究主題及び副主題について

(1) 「なりたい自分」について

児童が学び続けるためには、夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得等、目標とする自分の姿を具体的に思い描くことが必要である。なぜなら、思い描いた自分の姿に近づくために努力した過程や結果で得た学びが、次の学びへの原動力につながるからである。そこで、「なりたい自分」を思い描いた目標とする自分の姿と捉える。なりたい自分の設定と実現においては、教師や児童同士の肯定的・対話的な関わりが重要な役割を果たすと考えるとともに、目標とする自分の姿は、授業一単位時間や1日の生活等短期的なものから、四半期、学年等中長期的なもの、中学校以降の進路や将来の夢にまで至ることを念頭に置く。

(2) 「学び続ける」について

中央教育審議会答申では、教科等を学ぶ本質的な意義の明確化、学習指導要領では、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることによる主体的・対話的で深い

学びの実現に向けた授業改善の重要性を挙げている。これらの趣旨は、キャリア教育との密接な関連を示すものであり、学び続けるためには、「P自己を知り目標を決める」「D個人、協働で実践する」「C振り返る」「A次の目標を決める」のPDCAサイクルの確立により、学ぶ価値を見出す指導の工夫が求められていると捉えた。そこで「学び続ける」とは、自己を知り、設定したなりたい自分の姿に近づくために個人や協働で実践し、その過程や結果で得た学びを振り返り、それらの学びをつないで次のなりたい自分へと、学びを連続させていこうとする態度とした。

(3) 「肯定的・対話的な関わり」について

学習指導要領においては、ガイダンスとカウンセリングの機能の充実、キャリア教育の手引きにおいては、日常生活の中での一人一人との対話を通じた個別支援の充実、さらに、生徒指導提要においては、個々の成長を促す指導の充実等を挙げている。全教職員が実践している「よさに目を向ける」教育の充実に向けて、これらの趣旨を踏まえ、「肯定的・対話的な関わり」を、児童一人一人の現状の把握を土台として、児童の思考やよさを受け止め、自覚していない思考やよさへの気づきを促す働きかけをしながら、児童自らに考えさせ、次の成長や発達につなげることを意識した関わりのこととした。「資質・能力は、教師や友達等の肯定的な対話を通して育まれる」という考え方を大切にしていこう。

3 研究仮説

全ての教育活動における肯定的・対話的な関わりを基盤とし、設定した資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントを行い、特別活動を要としたキャリア教育の充実を図れば、なりたい自分になるために学び続ける児童を育成することができるであろう。

4 研究内容・方法

児童一人一人がなりたい自分になるために

学び続けている姿「～学びを通して、～姿に成長している」を集積し、児童の学びの姿から教育課程の有効性を検証、改善していく。

(1) 育てたい資質・能力の設定と四半期制評価サイクルの確立

育てたい資質・能力を設定して、児童を見取る視点を明確にし、肯定的・対話的な関わりを通して、資質・能力向上を図っていく。私たちが設定する資質・能力は、学習指導要領が目指すところと軸は同じであり、社会的・職業的自立に向けて必要な「基礎的・汎用的能力」と重なるものである。資質・能力は、学校経営ビジョンに示す児童の姿や各種調査等から、目の前の児童に育てたい力を各学年が3か月という四半期ごとに見直し設定する。各学年が設定した資質・能力をもとに、全ての児童がなりたい自分を意思決定できるよう教師や児童同士が肯定的・対話的に関わる。加えて、評価サイクルも四半期で回し、設定した資質・能力の達成状況、四半期の成果を全教職員で共有して、次に学びをつなぐ。

(2) 「ほめポイント」4つの化

各学年で設定した資質・能力を子どものレベルで具体化したものを「ほめポイント」として全教職員が共通理解し、認め、ほめ、育成すべき児童の姿とする。この「ほめポイント」が、非認知能力を育み、真の学力向上につながる重要な役割を担っていることは、ふくしま学力調査分析報告書からも確かである。「ほめポイント」を数多く見取り、資質・能力を育成するために「見える化」「共有化」「意識化」「強化」という4つの化で実践していく。加えて、児童の「ほめポイント」を通知表、三者面談等において家庭と共有するために、キャリア・パスポートを活用し、保護者からの肯定的・対話的な関わりを増やす。

(3) 設定した資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント

各学年が設定した資質・能力「ほめポイント」を育むために、四半期ごとカリキュラ

ム・マネジメントを行う。教科等横断的な視点で配列した単元や領域等は表にまとめ、「キャリア教育関連表」として各学年の廊下に掲示し、教師と児童が、「ほめポイント」と学びのつながりを繰り返し意識できるようにするとともに、児童が、教師や友達から「ほめポイント」を数多く見取られ、なりたい自分のPDCAサイクルを回せるよう、意図的・計画的・系統的につないで指導する。あわせて、四半期ごとに教育活動を点検、評価する。

(4) キャリア教育の視点を生かす授業改善

「この学習でこんな力を付けたい。」等と、児童が学びの価値を実感し、学びを連続させていくことができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。肯定的・対話的な関わりを基盤として、「授業づくり3つの柱（柱1「授業スタンダード」をもとに整理した5つの留意点。柱2単元や題材で学んでいることと他教科，社会生活等とのつながりの見通し。柱3「ほめポイント」の位置付け。）を軸に、筑波大学教授藤田晃之氏が示している教科を通したキャリア教育の充実を図り、各教科等で育みたい資質・能力の育成を目指す。加えて、互見授業週間や一人1授業実践を意図的、計画的に設定し、専科担当の高いスキルや教師個々のよさ等を学び合い、自己の授業改善につなげる。

(5) 特別活動を要としたキャリア教育の充実

「特別活動を要とする」ためには、児童が学習や生活の見通しをもち、振り返ることを積み重ねながら、自己の成長を実感し学びをつなぐことができるよう教育活動全体を通したキャリア教育の充実が求められる。そこで、学校行事や町主催事業，地域人材等を活用した学習を意図的・計画的に行うとともに、教育活動全体を通した児童の学びを、キャリア教育の要である学級活動(3)で肯定的・対話的につなぎ、次のなりたい自分への意欲を高める。あわせて、児童のなりたい自分をキャ

リア・パスポートに累積し、学びが連続するように次の学年や中学校に確実に引き継ぐとともに、児童一人一人と対話するための大切なツールとして有効活用する。加えて、教師と児童，児童同士のよりよい関係づくりを醸成するための活動を教育課程に位置付け、意図的・計画的・系統的に実践する。

II 研究の実際

私たちは「資質・能力は、教師や友達等の肯定的な対話を通して育まれる」の考え方で、教育活動全体を通して取り組んできた。加えて、全教職員が安心して児童の前に立つことができるよう、棚倉町教育委員会に指導助言を仰ぎながら、キャリア・カウンセリングやカリキュラム・マネジメント等の校内研修（資料1）を積み重ねた。授業においても、担任及び専科担当が一人1授業，年間18授業に上る授業研究を行い，授業改善に努めた。ここでは、なりたい自分になるために学び続けた児童の姿をもとに、指導の実際を精選して紹介する。

1 各学年の実践

(1) 第1学年

第1四半期の資質・能力を「聞く力」と設定し、生活科，運動会，算数科等を配列（図1）し、学びをつないで指導した。

1学年は、前年度の教育課程編成において、幼稚園で身に付けた「聞く力」を入学直後につなげて育成することの有効性を確認していたため、第1四半期に「聞く力」を設定した。

生活科「がっこうだいすき」のインタビュー活動において、相手

第1学年		第1四半期キャリア教育関連表			
育てたい 資質・能力	目指す姿	人間関係形成・社会形成能力 最後まで話を聞くことができる			
学習テーマ		「きく」に全集中！ゴールまで！！			
	月	4	5	6	
体育 健康		運動会			
つくり 学び		・スタートダッシュの学級開き ・ハッピー&ハッピーT		・ルール確認 ・学級集会	
教科				算数科 だいずん	
特別 活動	学級活動 おべんきょうを するときは？			学級活動 ふりかえりと第2 四半期の目標	
生活科		がっこう だいすき			
道徳科	あいさつで げんきに (礼儀)	がっこう たんげん (感謝)			

図1 第1四半期キャリア教育関連表

の目を見て聞く姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。聞くとよく分かるという学びを運動会につなげ、最後まで話を聞く姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。さらに、算数科「たしざん」につなぎ、加法の意味理解を深めた。学年集会「第1四半期の振り返り」では、聞く力を身に付けた姿「ほめポイント」を称賛し、聞く力の価値について児童と共有した。

【担任の見取りによるK男の学びの姿】

K男は運動会練習で、話を最後まで聞いていなかったために行動できず、しょんぼりしていた。K男に、「どうしたの？」と問いかけると、「最後まで話を聞かなかったから・・・」と話した。自分の失敗に気付いたK男に「最後まで話を聞こうと思ったんだね。」と伝えた。翌日の練習で見せた教師の話を最後まで真剣に聞いて自信をもって取り組む姿「ほめポイント」を価値付けた。最後まで話を聞くことの大切さを学んだK男は、授業においても最後まで話を聞き、自分から手を挙げて発表することができる姿に成長している。

(2) 第2学年

第1四半期の資質・能力を「いつでもどこでもあいさつができ、時間を守る力」と設定し、学級活動、交通教室、生活科等を配列し、学びをつないで指導した。資料2

低学年ブロックの交通教室において、1年生のお手本になり交通ルールを守って歩く姿や、地域の方に挨拶する姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。その学びを生活科「はるだ！きょうから2年生」の学校案内につなぎ、1年生のお手本になって廊下の右側を歩く姿や時間通りに案内する姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。その力を運動会練習につなぎ、大成功の喜びを味わわせた。

【担任の見取りによるR男の学びの姿】

1年生の時は、泣きながら母親と登校して

きたR男が、進級してすぐの学年集会で第1四半期に育てたい力を知ると、翌日から登校班で登校できるようになった。学年で設定した資質・能力とR男の進級への意欲が重なった。登校班で登校してくるR男の姿を見取り「1年生のお手本ね。」と繰り返し価値付けた。家でもなりたい自分に近づくために努力していることを保護者から聞き、「1年生のお手本だね。いい力がついてるね。」と価値付けた。R男は、挨拶の声も大きくなり、みんなによりよい行動を呼びかける姿に成長している。資料3

(3) 第6学年

第2四半期の資質・能力を「自分のよさを発揮する力」と設定し、夏休み、学級活動、修学旅行、総合的な学習の時間等を配列し、学びをつないで指導した。資料4

第2四半期に位置付けている夏休み中においても、中学校との連携を図った学習計画表(資料6)を活用し、自分のよさを発揮して課題に取り組む姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。学級活動(2)「男子と女子、力を合わせて」では、男女共に協力して様々な課題を解決していこうとする実践意欲を高め、修学旅行につなげた。修学旅行では、先を見通す力等のよさを発揮して、班活動の計画を立てる姿等「ほめポイント」を見取り価値付け、当日への意欲を高めた。困っている児童には、本児のよさを伝えながら、解決方法を一緒に考えた。学年集会「修学旅行の振り返り」では、児童同士が見取った「ほめポイント」を共有し、今後の学校生活への意欲につなげた。第2四半期末の学級活動(3)「振り返りと第3四半期の目標」(資料7)において、教師の「価値付ける」「語るさせる」「つなぐ」といった肯定的・対話的な関わり(図2、図3)により、児童は、成長を自覚し主体的に目標を意思決定することができた。

【担任の見取りによるM子の学びの姿】

仲良しの友達が近くにいないと行動できないことが多かったM子が、修学旅行において班活動の計画を立てたり、見学場所に予約の連絡を取ったりする等、班のために自ら行動する姿が見られるようになった。その姿は学校生活全般にも広がり、誰かが困っていると寄り添って困り感を受け止め、解決策を考える等、自分から行動する力を高めた。縦割り清掃や登校班においても、M子のよさである優しさと自分から行動できる力を発揮し、1年生の面倒をよく見て、下級生から慕われる存在に成長している。**資料5**

(中略)
 T:C19さん、あなたが苦手だったって言ってたけど、関わってみてどうだった？
 C19:自分に自信がもてた。
 T:それは、どうして？自分に自信が出てきたって？はじめは苦手だったんだよね。
 C19:私は、人と関わることが苦手で、コミュニケーションできなかった。1年生とか...
 T:最初は、人と関わるとの苦手だったんだって。なんかさあ、C19さんって、すごく自分自身のことを見つめてるような気がしない？

価値付ける

語らせる

つなげる

図2 集団への肯定的・対話的な関わり

目標設定におけるC10への個別指導
 C10は、「宿題を終わらせる」という目標を設定していた。
 T:これね。C10さんは、自分で切り替える力というか、時間をうまく使うようになってるから。あなた、宿題早く終わると思うよ。
 C10:きのう、帰ってすぐにできました。
 T:できたのね。すごいじゃん。やる気が出てきた。
 C10:やる気が出てきた。

価値付ける

つなげる

語らせる

図3 個人への肯定的・対話的な関わり

(4) 第5学年

第3四半期の資質・能力を「困難なことで失敗を恐れず最後まで取り組む力」と設定し、音楽会、算数科、学級活動等を配列し学びをつないで指導した。**資料8**

学級活動(3)で意思決定した音楽会の目標であるなりたい自分に近づくために、友達と協力して課題を解決しようとしている姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。第1、第2四半期に育んだ「協力・協働する力」や

「自己のよさを肯定する力」をつなぎ、一人では困難なことでも自分のよさを発揮し仲間と協力すればやり遂げることができるという経験を積み上げた。算数科では算数専科によるコース別指導を行い、粘り強く学習する姿を価値付けた。なりたい自分を目指して自己の学習スタイルに合ったコースを選び、生き生きと学ぶ児童の姿があった。教師の肯定的・対話的な関わりが自分で決めてやり遂げる力を育成した。これらの学びを冬休みの生活につなぎ、最後まで取り組む姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。

【担任の見取りによるT男の姿】

T男は、なりたい自分を「あきらめないでずっと前を見る自分」と設定し達成に向けてがんばった。総合的な学習の時間に、地域の農家さんから「農業は、特に算数が大事だ。」等、日頃の学習が将来いかに役立つかという話を聞いた。農業に興味をもっているT男は、その後、算数では学びを広げ深める「しみずコース」を選択し意欲的に学習するようになった。さらに、なりたい自分に向かってがんばろうと、友達のために意欲的に働く姿も見られるようになった。嫌なことがあると登校を渋りがちだったT男が、学校を休まなくなり、生き生きと生活する姿に成長している。**資料9**

以下の授業実践においても、自分の考えをもって粘り強く課題を解決する力を高めた。

【算数科 割合 しみずコース】 **資料10**

授業づくり3つの柱をもとに、日常生活の場面で割合を活用して判断する力の育成をねらって実践した。これまでの学びをつなぎ、数直線、図、言葉の式等、数学的な見方・考え方を働かせながら、粘り強く考えている姿等「ほめポイント」を見取り価値づけた。**図4**に見られるような「語らせる」「つなぐ」「復唱・肯定」といった肯定的・対話的な関わりを大切に課題解決へ導いた。加えて、誤答には、「ここまでは、学びをつなげて考え

C:「1(もとにする量)の場所がわからない。」
 C:「1の場所は分かるけど…」
 T:「困ってるよね。でも気付いている人もいるから、みんなで考えていこう。」
 C:「ええと、1は全体だから280ml。」
 T:「1は全体だから280ml。」
 C:「そのうちの20%だから…」
 T:「そのうちの20%。」

語らせる
つなぐ
復唱・肯定
復唱・肯定

図4 話し合いでの肯定的・対話的な関わり

ていてすばらしいね。」等と「部分肯定」し、解決までのプロセスを丁寧に見取り、肯定的・対話的に関わる教師の姿があった。

(5) 第4学年

第3四半期の資質・能力を「自分が興味をもったことに、粘り強く取り組む力」と設定し、道徳科、理科、総合的な学習の時間等を配列し学びをつなぎ指導した。**資料11**

道徳科において、ふくしま道徳教育資料編「たいこの音」で粘り強く取り組んでいこうとする心情を養い、理科「とじこめた空気と水」では、「はてな？」をもとに実験し、改善点を考える姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。その学びを音楽会練習や毎日の自主学習**（資料13）**につなぎ、納得するまで取り組む姿等「ほめポイント」を価値付けた。高まった力を総合的な学習の時間「棚倉で働く人たち」の探究活動につなぎ、「はてな？」をもとに仕事のやりがい等について熱心にインタビューしたり追質問したりする姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。あわせて、以下の授業実践で働くことよさについて学びを深めた。

【総合的な学習の時間 棚倉で働く人たち】

授業づくり3つの柱を踏まえ、役場見学で学んだことをもとに、職業観や郷土愛を深め、5年生以降の

図5 児童のワークシート

のたいはしょう来けしうく家にならるとい
うゆめがあります。そのために 国語
の想像文の時間や算数の図形の問
題を先生の話をよく聞いて、この力を
身につけていきたいです。それに
聞くだけではなく、自分で調べ
る力もつけていきたいです。

学びにつながるよう実践した。児童の考え**（図5）**に丸を付けながら称賛し、一人一人の考えを肯定的**（図6）**に受け止めたことで、児童同士も互いの意見を尊重し、共感し合うことができた。児童が考えた「たくさんの人を笑顔にする」等の働くことよさを、今の学校生活や家庭生活につないだことで、今の学びが将来につながっていることに気付かせることができた。**資料14**



図6 児童の考えを受け止める様子

【担任の見取りによるS子の学びの姿】

S子は、実力はあるが進んで前に出るタイプではない。工夫した自学ノートを学年通信で紹介したことで、友達に称賛され、スケジュールプランナー（学習予定と連絡事項を記入するもの）を通して他の保護者にも称賛され、自信をつけた。宿題以外の学習に地道に取り組む、学級でただ一人、漢字、算数コンクールどちらも満点を取ることができた。音楽会でも楽器のオーデイションに自ら挑戦する等、積極性を発揮する姿に成長している。**資料12**

(6) 第6学年

第3四半期の資質・能力を「あきらめずに取り組み、自己のさらなる成長を実感できる力」と設定し、総合的な学習の時間、町交流、学級活動等を配列し、学びをつないで指導した。**資料15**

総合的な学習の時間「地域の伝統を受け継ぐ人の考えに触れよう」では、失敗しても何度でも和太鼓練習に挑戦している姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。毎時間の振り返りでは、児童同士がよさを認め合い、改善点を出し合う等、さらなる成長に向けて主体的に話し合う姿を大いに称賛した。タブレット端末で個々と集団の成長を記録したことにより、児童が自覚していないよさに気付か

せることができた。高まった力を、持久走記録会、町交流学习等につなぎ、苦手なことでも自己の成長を目指しがんばる姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。

さらに、以下の授業実践において、これまで身に付けた力の価値に気付かせた。

【学級活動(3)よりよい自分へワンアップ】

授業づくり3つの柱をもとに、今身に付けている力や学びの価値に気づき、希望をもって中学校進学できるようにしたいと考え実践した。中学生やPTA会長さんから聞き取った小学生のうちに身に付けておきたい力とその根拠を提示したことで、児童はこれまで身に付けた力は、中学校や将来につながる力であり、中学校に向けてすでに日々準備をしていることに気付いた。児童は、今後の目標を意思決定し、「進学に不安をもっていたが、今までみたいに経験して力を付けていこうと思った。」等と振り返った。

資料16

(7) 第3学年

第4四半期の資質・能力を「自分のよさを理解して、自己の目標に意欲的に取り組む力」と設定し、体育科、総合的な学習の時間、国語科等を配列し学びをつなぎ指導した。

資料17

体育科「なわとび」では、あきらめない力等の自分のよさを生かして目標達成に向けて練習する姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。「やればできる」の経験を、総合的な学習の時間「南中ソーランを伝えよう」につなぎ、声をしっかりと出して踊る姿等、よさを発揮して取り組む姿「ほめポイント」を見取り価値付けた。国語科「わたしたちの学校じまん」では、タブレット端末を効果的に活用して調べたことをまとめる等、自分の得意を生かして学ぶ姿「ほめポイント」を見取り価値付けた。「キャリア教育」をテーマにプレゼンした班は、なりたい自分に近づぐためにみんなが力をつけるからいい教育だと発信した。配列した単元等に限らず、どの学び

においても「これは将来につながるね。」「こうすることでなりたい自分に近づけるね。」等と、今の学びと将来とのつながりを見通して、児童のよさを価値付けた。学級活動(3)「振り返りと3年生のまとめ」において、児童は「よさを生かし4年生でもがんばりたい。」と振り返り、次の3年生に手紙(図7)を書いた。

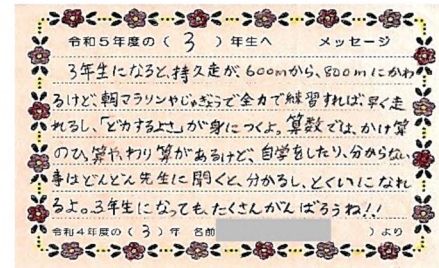


図7 次の3年生に書いた手紙

【担任の見取りによるY男の学びの姿】

Y男は、自分のよさよりも友達のよさを見つけ、認め、ほめることが得意である。帰りの会で、その日に見つけた友達のよさをみんなに伝えたり、自分を否定しがちな友達によさをアドバイスしたりしていた。「ありがとう。Y男さんから認められて〇さんは嬉しいよ。」と繰り返し価値付けると、Y男は友達のよさを見つけることが自分のよさだと気付いた。「見つけた友達のよさを自分の成長のために使って、新しいよさをつくりたい。」と、学びの連続性に気づき、実践しようとする姿に成長している。

資料18

Ⅲ 研究のまとめ

1 児童の変容

(1) 令和4年度町キャリア教育意識調査から

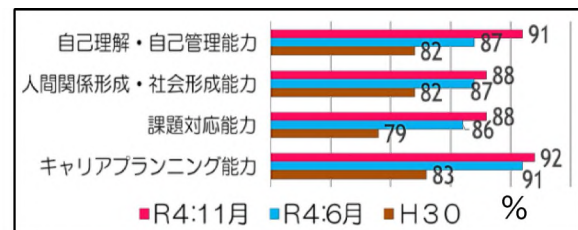


図8 町キャリア教育意識調査(児童n195)

町が6月初めと11月末に、町内4校の4年生以上全児童を対象に紙面にて実施した(図8)。研究前の平成30年度と令和4年度を比較すると、4つの能力全てにおいて、

肯定的に回答した児童の割合が顕著に向上した。令和4年度6月と11月の比較においては、1～4ポイントの増加傾向が見られた。

肯定的に回答した児童の割合が特に高かった項目は、以下の2つである。

項目8 自分にはよいところがあると思う
項目12 何事も自分で考え、自分から取り組むことが大切だと思う

項目8では、肯定的に回答した児童の割合は、87%であり、平成30年度11月と比較すると16ポイントの増加、項目12では、95%であり、調査項目の見直しにより比較することはできないが、一定の高い水準と見ることができる。

これらは、児童のなりたい自分に肯定的・対話的に関わったことで、自分で考え決める経験を積み上げ、自己を肯定できるようになったためと考える。加えて、町事業や地域学校協働活動を通して、学び続ける大人たちの魅力に気付いたことも要因の一つと考える。

(2) 令和4年度Q-Uから

6月初めと11月末に全児童を対象に実施し、学校生活における満足度を把握した。結果(図9)を比較すると、12月調査では満足群が27人増え7ポイント増加した。侵害行為認知群においては、17人減り5ポイント減少した。

これらは、教育相談部による校内研修「Q-U作戦会議」や生徒指導主事を中心としたケース会議、学年主任を核とした学年会等、チーム支援方策の検討や全教職員の組織的アプローチ等が要因として考えられる。あわせて、教師、児童同士の肯定的・対話的な関わりを通して自分の思いを言葉にして伝えるこ

項目	R4:6月		R4:12月	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
満足群	279	71	306	78
非承認群	42	11	38	10
侵害行為認知群	42	11	25	6
学校生活不満足群	29	7	25	6

図9 Q-U6月児童 n392 12月児童 n394

とのよさや学級づくり活動(資料19)を通して友達との関わり方を学んだことが、侵害行為認知群の減少につながったと推察する。

(3) 第5学年の各種調査の結果より

キャリア教育を通して育む資質・能力と学力との関係について以下にまとめた。

令和4年度ふくしま学力調査において、学力を伸ばした児童の割合は、国語科47.7%(県-4.8%)、算数科65.9%(県+0.4%)であり、平均正答率は国語科50.6%(県-4.6%)、算数科59.8%(県-3%)であった。

約6か月後に実施した令和4年度11月町キャリア教育意識調査の学びの価値の実感に関する項目の結果は図10のとおりであった。

さらに、約6か月後に実施した令和5年度全国学力・学習状況調査の結果は、図11のとおりであった。国語科、算数科共に県平均を上回った。これらは、令和4年度のふくしま学力調査の結果を踏まえて、強みと弱みを分析し授業改善に努め、肯定的・対話的な関わりにより教科で育む資質・能力を育成したことで、児童の学びの価値の実感や学習意欲が向上し、学力向上につながったと考える。加えて、令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査「自分にはよいところがある」では、肯定的に回答した児童の割合は、93.5%であり、第7次福島県総合教育計画で

項目	割合(%)	6月との比較
国語の授業で学習したことは将来、社会にでたときに役に立つ	96	6ポイント増
算数の授業で学習したことは将来、社会にでたときに役に立つ	100	10ポイント増

図10 令和4年度町キャリア教育意識調査(児童 n51)

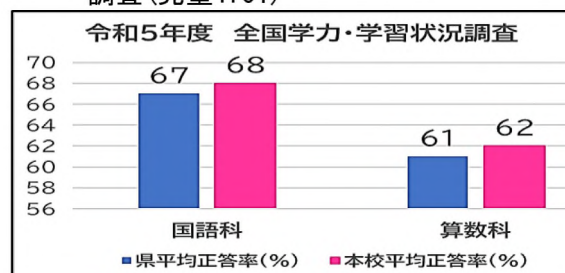


図11 令和5年度全国学力・学習状況調査(児童 n49)

目指している100%に近づく結果であった。

(4) 児童自己評価と教師評価より

四半期の終わりに、全児童と学級担任が、設定した資質・能力の達成状況について評価した。児童はキャリア・パスポートを活用し、よさに目を向けるための肯定的な3段階評価を、教師は指導に生かすための4件法による評価をした(資料20)。図12のとおり、1年間の終わりの第4四半期に、児童、教師の肯定的な評価の割合が共に高まることから、各四半期で育てたい資質・能力を、年間を通して系統的に育成したことの有効性が伺える。

児童自己評価(%)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
3 よくできた	50	51	61	72
2 できた	41	43	35	25
1 少しできた	9	6	4	3
教師評価(%)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
4 そう思う	24	30	41	56
3 ややそう思う	53	56	52	39
2 あまり そう思わない	21	13	7	3
1 そう思わない	2	1	3	2

図12 四半期評価(児童 n394 教師 n19)

(5) 令和4年度学校評価から

12月に、全児童394名とその保護者、全職員を対象に実施した。全14項目のうち、児童、保護者が共に高い割合で肯定的な回答をしている4項目を精選して図13に示した。

これらは、全教職員が児童のなりたいたい自分に肯定的・対話的に関わったことにより、自己の表現を否定されない心理的な安全性が保証され、温かな学級の雰囲気醸成することができ、児童の目標達成への意欲を育てることができたためと考える。このような児童のよさを保護者自身が見取るとともに、通知表や三者面談等において共有できたことが保護者の評価につながったと考える。

項目	児童(%)	保護者(%)
学校や学級で楽しく過ごしている	94	97
目標をもって取り組んでいる	96	94
落ち着いて話を聞いている	92	95
先生方は親身に心配事の相談にのってくれる	96	97

図13 学校評価(児童 n394 保護者 n394)

2 研究の成果

(1) 育てたい資質・能力の設定と四半期制評

価値サイクルの確立

四半期ごとに育てたい資質・能力を1つずつ、年間で4つ全ての能力を設定(資料23)できたことは、児童を見取る視点が明確となり、資質・能力育成に有効であった。資質・能力の設定においては、学校経営ビジョンで示す児童の姿を具現化するためにルーブリック規準表(資料22)を作成活用したことで、学校教育目標と学年が育成する資質・能力、児童が意思決定したなりたいたい自分が共に同じ軸となり、資質・能力を効果的に育むことができた。児童は、教師や児童同士の肯定的・対話的な関わりを通して、四半期という緊張感をもって主体的になりたいたい自分を意思決定できた。さらに、四半期ごとに成果を全教職員で共有したことは、指導力向上の研修の機会となり、児童の成長を振り返り、学びをつなぐために有効であった。加えて、系統的な指導の充実、レバレッジ効果等が確認できた。

(2) 「ほめポイント」4つの化

四半期ごとに設定した資質・能力「ほめポイント」を、教職員、児童、保護者等が同じ視点で見取るために「見える化」「共有化」したことで、常に「ほめポイント」を見取り育てようとする「意識化」が図られた。学年の創意工夫により児童同士が「ほめポイント」を伝え合う機会を設けたことは、資質・能力を「強化」することに留まらず、自己肯定感や学力の向上につながる有効な取組であった。四半期ごとにキャリア・パスポートを活用して「ほめポイント」を価値付けたり、通知表(資料21)や三者面談等において保護者と共有したりしたことは、教師と保護者が共に肯定的・対話的に関わる機会を増やし、児童の資質・能力の「強化」につながった。

(3) 設定した資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント

四半期ごとにカリキュラム・マネジメントを行い、キャリア教育関連表を作成活用したことで、「ほめポイント」を意識したり、学

習への見通しをもったりすることができた。

キャリア教育関連表に、教師や児童が見取った「ほめポイント」を記入したことは、児童が成長を自覚したり、なりたい自分のPDCAサイクルを主体的に回したりすることにつながる有効な取組であった。学びを振り返る力も高まった（資料 24）。四半期末に、資質・能力の達成状況とあわせて、全教職員でキャリア教育関連表をもとにカリキュラム・マネジメントの有効性について振り返ったことで、学びをつなげることができた。

（4）キャリア教育の視点を生かす授業改善

学びのつながりや「ほめポイント」の位置付け等を重視した3つの柱（資料 25）をもとに主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に努めたことは、児童が学びの価値を実感し、学習意欲や自己マネジメント力を高め、各教科等で育みたい資質・能力を確実に身に付けることにつながる有効な取組であった。あわせて、「語らせる」「つなぐ」「復唱・肯定」「（解決のプロセスに寄り添う）部分肯定」等の肯定的・対話的な関わりは、主体的・対話的で深い学びの実現につながる大きな成果と考えている。加えて、授業研究会や互見授業等を意図的・計画的に設定したことは、互いのよさを学び合い、授業改善につながる取組となった。さらに、教科担任制やコース別指導等、児童の実態に合ったきめ細かな指導を充実したことは、学力向上に大きな効果をもたらした。

（5）特別活動を要としたキャリア教育の充実

教育活動全体を、設定した資質・能力「ほめポイント」でつなぎ、キャリア教育の充実を図ったことで、学級活動（3）において、個々と集団の成長を「価値付ける」「つなぐ」「語らせる」等の肯定的・対話的な関わりを実現することができた。児童が自己や集団の成長を自覚し、次のなりたい自分への意欲をもつ等、なりたい自分のPDCAサイクルを回すことができる有効な取組であった。地域

人材等を活用した学習においても、「ほめポイント」を明確にして行ったことで、児童のキャリア形成を促し、職業・勤労に対する見方・考え方を広げることができた。

加えて、なりたい自分になるための大事な学びの記録であるキャリア・パスポートを、児童理解を深め、学びをつなぐためのツールとして、新担任や中学校につないだことで、なめらかな接続につながった。さらに、学級づくりの時間（資料 19）を教育課程に位置付けて共通実践したことは、児童の多くが「友達といい関係をつくるための方法がわかった。」等と振り返る有効な取組であった。

3 研究の課題と今後の見通し

本研究を通して見えてきた課題は、①全ての教師が実践できるための肯定的・対話的な関わりの技法の習得、②各教科等で育みたい資質・能力とキャリア教育で育みたい資質・能力の重なりが大きい単元や領域等の洗い出し、③設定した資質・能力をより意識して育成するためのカリキュラム・マネジメント、④卒業までに身に付けさせたい資質・能力を踏まえたルーブリック規準表の見直しである。本校職員の強みは、経験年数に関係なく児童のよさを語る教育愛、課題解決に向けた協働性と向上心、そして最も誇れる組織力である。これらの強みをフルに生かして、全ての児童のなりたい自分のために課題解決を目指したい。

以下は、3年生児童が縦割り清掃班の6年生に書いた手紙である。

Hさんのいいところは、掃除のやり方が分からない時に優しく教えてくれるし、列がずれていたら優しく注意して直してくれるのが、いいところです。あと、掃除の時間が過ぎても、やり残しがあったらやってくれるし、本当にすごいと思いました。私も高学年になったら、優しく教えたいです。

肯定的・対話的に関わり、「よさに目を向ける」教育が、児童にも具現化された姿である。次年度も児童一人一人のなりたい自分に、肯定的・対話的に寄り添い、学び続けることができる「一生ものの力」を育てていきたい。

校内研修資料「キャリア・カウンセリング」

～キャリア・パスポートを活用した肯定的・対話的な関わり～

資料1

キャリア・パスポートを活用し、肯定的・対話的に関わる2 「ほめポイント」を伝える視点と文例

1 自己の経験を肯定的に捉え直すことができるメッセージ

児童の振り返り	先生からのメッセージ
漢字・算数コンクールの練習では、特に算数をがんばった。でも、本番では合格できなかった。残念だった。	算数コンクール、悔しかったね。でも、〇〇さんが自分で計画を立てて、毎日、自主学習ノートにがんばっていたことを、先生は覚えてます。あなたは、算数コンクールで、グリーンと成長しましたよ。

2 子どもが気づいていないよさや成長を伝えるメッセージ

児童の振り返り	先生からのメッセージ
委員会で、朝の仕事を先生に言われなくても、友だちと声をかけ合って、忘れずにできた。委員長として、責任をもってできた。	さすが委員長さん!でも、先生がもっとすばらしいなと思ったのは、同じ委員会の友だちが困っているときには助けたり、友だちの意見を取り入れたりしながら、全体のことを考えて取り組んでいた姿ですよ。

3 子どもが価値を置いていることをきっかけにして、さらなる自己理解へつなげるメッセージ

漢字コンクール前の児童の振り返り	先生からのメッセージ
昨日は久しぶりにバスケットボール部の練習がなかったの、B君と夕方まで遊んだ。夜は前々から楽しみにしていたテレビ番組を見ました。とても楽しかったです。	Aさんはいつも部活動がんばっていますものね。部活動がないときに思いきり羽を伸ばせてよかったですね。ただ、漢字コンクール1週間前なので、先生は勉強もしてほしかったです。好きなバスケットボールに関わる仕事したいという大切な夢をかなえるために、思いきり勉強するのも必要ですね。持ち前の集中力と粘り強さを勉強でも発揮すれば、きっと夢にまた一歩近づくはずですよ。

児童の振り返り
・運動会では負けちゃって悔しかったけど最後までがんばった。
先生のメッセージ
・悔しかったんだね。〇〇さんが気づいているように、最後まで走りぬきましたね。先生は、それ以上に、そのあきらめない力をかけ算九九や水泳の学習にもつなげ、粘り強くがんばる姿にとっても感動しました。

児童の振り返り
・毎日、登校班で行けるようになって、うれしかった。
先生のメッセージ
・さすがです。自分で決めたことをがんばる〇〇さん、いいですね。でも、先生がもっといいと思ったことは、登校の時に班長さんの言うことをよく聞いて、町の人にもあいさつをしていた姿です。

児童の振り返り
・話し合っでは、自分から進んで話すことができた。
先生のメッセージ
・目標に向かってがんばりましたね。ただ話すだけではなく、教室のみんなが分かるようにはっきりとした声で発表する力もついていますね。それ以上に、ペアの話し合っでは、友だちがドキドキしていることに気づいて、自分から先に話している姿を何度も見て、感心しました。

児童の振り返り
・苦手な教科を少し得意にすることができた。
先生のメッセージ
・まず、先生がすごいと思ったことは、〇〇さんは自分の得意や苦手が分かっているということです。苦手を得意にするために、友だちと積極的に考えを交流したり、ノートを見やすくまとめたりしていましたね。もつと、成長を感じたことは、目標に向かってがんばる力を、自分で学習の計画を考えて取り組むことにつなげていた姿です。
<参考資料>
文部科学省 国立教育政策研究所「語る語らせる語り合わせるで変える!キャリア教育」
広島県教育委員会「キャリア・ログ」

資料2

第2学年 第1四半期 キャリア教育関連表 ～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第2学年 第1四半期キャリア教育関連表	
育てたい資質・能力	自己理解・自己管理能力
目指す姿	いつでもどこでもあいさつができ時間を守ることができる
学年テーマ	1年生のお手本になろう!
月	4 5 6
体験等	交通教室 避難訓練 運動会
学びの場	スタートダッシュ学級開き ルール徹底 ハッピー&ハッピーT 異年齢交流
教科	QU
特別活動	学級活動「約束を守って学習しよう」
生活	「はるだ!きょうから2年生」
道徳科	「学校たんけん」(親切・思いやり)

資料3

2年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート ～なりたいたい自分になるためのPDCAサイクル～

(2)年生 4～6月のめあて

1年生のお手本になろう

目標の全体の振り返り

まあまあできた	できた	とてもできた
1	2	3

ふりかえり (できたこと・がんばったこと)

おうちの人から

いろいろなことができるようになったと褒められてうれしい。2年生の学年テーマのあいさつは、こころから学校生活を楽しんでほしい。

先生から

学びも生活も見えないところの、この力があつたから、できるようになったと褒められてうれしい。そして、1年半の学びが、成長につながり、自分にとってうれしいです。2年生は、2年生らしく、できることをがんばって、がんばりました!!!

第6学年 第2四半期 キャリア教育関連表
～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第6学年 第2四半期キャリア教育関連表				
育てたい 資質・能力	自己理解・自己管理能力			
目指す姿	これまでの様々な経験を生かし、 自分のよさを発揮することができる			
学年テーマ	発揮しよう！自分の力！			
	月	7	8	9
体行 験事		夏休み	修学旅行	
つくり 学級		・ルール確認(時間管理) ・1年生のお手伝い ・朝清掃 ・学年集会		
教科		体育科 水泳		学級活動 自分の役割って 何だろう 学級活動 振り返りと第3 四半期の目標
特別 活動		学級活動 男子と女子、 力を合わせて		
総合				チャレキッズ
道徳 科			道徳科 いらなくなった きまり	

6年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート
～なりたいたい自分になるためのPDCAサイクル～
周囲に友達からのメッセージも添えられた

(6)年生 7～9月のめあて

学年テーマ
発揮しよう！自分の力！

自分の目標
学習では分からない問題は自分で図解して自分の考えをもつ。
生活では持ってきた手紙は自分で配ったり、時間を見て行きたりできるようにする。
チャレキッズでは自分から疑問に思ったことを質問する。
家庭学習では自分から宿題をやったり、自分の苦手な勉強をやる。

みんなの目標
7月(3) 1つ上げるために
分からない問題を解くことや自分で行きたりできるようにする。
8月(3) 1つ上げるために
自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。
9月(3) 1つ上げるために
持ってきた手紙を自分で配ることができるようになり、得意な得意なことをやる。

PDCAサイクル
自分から宿題をやったり、自分の苦手な勉強をやる。
みんなの目標
7月(3) 1つ上げるために
分からない問題を解くことや自分で行きたりできるようにする。
8月(3) 1つ上げるために
自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。
9月(3) 1つ上げるために
持ってきた手紙を自分で配ることができるようになり、得意な得意なことをやる。

お家の人から
自分から宿題をやったり、自分の苦手な勉強をやる。
みんなの目標
7月(3) 1つ上げるために
分からない問題を解くことや自分で行きたりできるようにする。
8月(3) 1つ上げるために
自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。
9月(3) 1つ上げるために
持ってきた手紙を自分で配ることができるようになり、得意な得意なことをやる。

第6学年 第2四半期 夏休み学習計画表

～夏休みもなりたいたい自分になるために、中学校との連携を図った学習計画表を作成活用～
／で消したり、✓を入れたりして、終わったことを見える化したことが、計画的に学習するためのポイント

夏休み学習計画表

夏休みの学習計画：目標
宿題を言いついで早めに終わらす。8月15日までに。

国語	算数	理科	社会	英語	児童作文 or 読者感想文	理科自由研究 or 図工コンクール	ふくしまっ子 ご飯コンテスト	その他	自主学習	整理すること 持ち物
①	③	①	①	①				十七字のふれあい	古本	筆入れの中身をそろえる
②	④	②	②	②	スタート!!! 7月25日	スタート!!! 7月25日	スタート!!! 7月26日	南産き染め出しチェック	お道具箱	お道具箱の中身掃除・ほじゆう
③	⑤	③	③	③	本を読む	写真	買物	元気づきカレンダー	天竺の回	絵の具バック掃除・絵の具ほじゆう
④	⑥	④	④	④	文章録	資料作り	写真のふれあい	鼓笛の練習	BC	習字セットの整理
⑤	⑦	⑤	⑤	⑤	見直し	絵	完成!!! 7月26日	鼓笛の練習		ぞうきん2枚
⑥	⑧	⑥	⑥	⑥	訂正	絵	完成!!! 7月26日	鼓笛の練習		漢字算数コンクール合格証
⑦	⑨	⑦	⑦	⑦	完成!!! 7月25日	完成!!! 7月30日	完成!!! 7月26日	鼓笛の練習		健康チェックカード
⑧	⑩	⑧	⑧	⑧				鼓笛の練習		夏休みの課題
⑨	⑪	⑨	⑨	⑨				鼓笛の練習		スケジュールプランナー
⑩	⑫	⑩	⑩	⑩				鼓笛の練習		運動着・紅白帽子
⑪	⑬	⑪	⑪	⑪				鼓笛の練習		マスク・歯ブラシ・コップ
⑫	⑭	⑫	⑫	⑫				鼓笛の練習		国語・算数 修学旅行のおしり
⑬	⑮	⑬	⑬	⑬				鼓笛の練習		筆記用具・タブレット
⑭	⑯	⑭	⑭	⑭				鼓笛の練習		お道具箱(机の中身)

～夏休みの過ごし方をふりかえろう～ 第②四半期の学年スローガン「発揮しよう！自分の力」(自己理解・自己管理能力)
ドリルを早めに終わらせて、他の言葉集は日寺間をわけてできた。
なので、1日早い4日に終わらせることができた。頑張った成果がうれしかった。
自分の力を発揮できた。

学級活動(3)棚小モデル 「振り返りと第○四半期の目標」

<p>棚小モデル</p> <p>学級活動略案 (振り返りと目標設定)</p> <p>＜実施時期＞ 第1末～第2初、第2末～第3初、第3末～第4初</p> <p>1 題材名 「振り返りと第○四半期の目標を決めよう」</p> <p>2 本時の指導</p> <p>(1) 目標 自分や友達のよさを全体で共有し、目標達成に向けて努力してきたことを振り返ることを通して、次の四半期の目標を決めて、学校生活への希望や目標をもつことができる。</p> <p>(2) 第○四半期の賞賛・能力を育てるためのほめポイント</p> <p>(3) 展開</p>	<p>※評価</p> <p>○ 事前に行った自己評価と第○四半期のほめポイント(写真等があるよ!)を提示し、目標に向かって前向きに取り組んできたことを想起させ、本時への学習意欲を高める。</p> <p>○ 事前に、キャリア・パスポートの「最後の月」と「全体の振り返り」を記述させておいたり、毎日ちよこちよこ振り返りしたりしておくこと、児童の実態に合った導入がしやすく、大事な目標設定に時間がかかられる。</p> <p>○ キャリア・パスポートをもとに目標に向かってがんばってきたことを共有するとともに、次の四半期にがんばりたいことをみながら話し合うことで、次の目標であるなりたい自分をイメージすることができるようになる。</p> <p>○ 次の目標を記述している児童のキャリア・パスポートに○をつけて励ましたりすることで、粘り強く考えることができるようになる。</p> <p>○ 児童のなりたい自分が実態と合うように肯定的、対話的に関わるとともに、全体で交流すること、なりたい自分を見つめ直すことができるようになる。</p> <p>※ 次の四半期の目標を立てている。 (キャリア・パスポート、発表)</p> <p>○ これまで身に付けた力をつけて次の力を身に付けていくことは自己の成長につながることを(具体的な場面等)伝えることで、実践意欲を高める。</p>
<p>学習活動・内容</p> <p>1 第○四半期のめあてについて振り返り、学習課題を確認する。 (例) がんばったことを振り返り、これからがんばることを決めよう。</p>	<p>2 課題を解決する。 (1) めあてに向かってがんばってきたことを振り返り、次の目標について話し合う。 (2) なりたい自分を考える。 (3) なりたい自分を見つめ直す。</p>
<p>3 本時の振り返りを行う。 (1) なりたい自分を決める。 (2) ペアや全体で交流し、励まし合う。</p>	<p>なりたい自分を意識決定したら、児童同士の肯定的な関わり(「いい目標だね」「○○ちゃんに合ってるね」、「一緒にがんばろう!」)等を促すことが大事。</p>

資料8

第5学年 第3四半期 キャリア教育関連表 ～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第5学年 第3四半期キャリア教育関連表				
育てたい 賞賛・能力	課題対応能力			
目指す姿	困難なことでも失敗を恐れず最後まで取り組むことができる			
学年テーマ	殻を破れ!自分の一歩を踏み出そう!!			
体験行事	10月	11月	12月	
	音楽会	持久走記録会	冬休み	
学年級	ハッピー&ハッピーT 朝マラソン			
	新たな自分の一歩発見		新たな友達の一歩発見	
教科	音楽科 「わたしたちの表現 ルパン三世」	国語科 「やなせたかし アンパンマンの 勇気」	社会科 「これからの工業生 産とわたしたち」 算数科「割合」	
	後期係活動		学級活動 「冬休みの計画を立てよう」 「振り返りと目標設定」	
特別活動	学級活動 「音楽会を成功させよう」			
	棚倉町の工業			
総合	稲刈り・脱穀			
道徳	「働く幸せ チョコレート工場の本田さん」			

資料9

5年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート ～なりたい自分になるためのPDCAサイクル～

(5)年生 10～12月のめあて

学年テーマ
「殻を破れ!自分の一歩を踏み出そう!!」

自分の目標

めあて
お家の人から
行事はがんばる事が出来て目標達成できたけど、学校で休んでしまった事があったから、1月は休まず行こう!

めあて
お家の先生から
1日、学校を休んでしまつたから、成長している証です。この気持ちを持ちながら、次の目標に向かってがんばっていきましょう。心が成長していますよ。

10月(3) 1つ上げるために音楽会を練習がんばった

11月(3) 1つ上げるために持久走記録会がんばった

12月(1) 1つ上げるために学校から色々な力あって学校を休んでしまった事、新しい目標達成できたからがんばっています。

自分の目標

めあて
お家の人から
行事はがんばる事が出来て目標達成できたけど、学校で休んでしまった事があったから、1月は休まず行こう!

めあて
お家の先生から
1日、学校を休んでしまつたから、成長している証です。この気持ちを持ちながら、次の目標に向かってがんばっていきましょう。心が成長していますよ。

10月(3) 1つ上げるために音楽会を練習がんばった

11月(3) 1つ上げるために持久走記録会がんばった

12月(1) 1つ上げるために学校から色々な力あって学校を休んでしまった事、新しい目標達成できたからがんばっています。

振り返り(できたこと・がんばったこと)

お家の先生から
お家の先生から
お家の先生から

第5学年しみずコース 算数科学習指導案「割合」

資料10

第5学年コース別 算数科学習指導案				
日 時：12月9日(金) 5校時 場 所：5年1組教室 指導者：				
1 単元名 「割合」				
2 単元の評価規準				
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
① ある二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。		① 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、場面にあった比べ方を判断している。		① 二つの数量の関係に着目し、割合を用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。
② 百分率の意味について理解し、百分率を用いて表すことができる。		② 日常生活の問題(活用問題)を、割合を活用して解決している。		
③ 比較量と基準量から割合を求めたり、基準量と割合から比較量を求めたり、比較量と割合から基準量を求めたりすることができる。				
3 単元計画(総時数12時間)				
時	学習活動・本時の目標	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○割合を用いた二つの数量関係の比べ方を図や式を用いて説明することができる。	・知①(行動観察、ノート)	・思①(行動観察、発言、ノート)	・態①(行動観察、発言、ノート)
2				
3	○百分率や歩合の意味とその表し方を理解する。	・知②(行動観察、ノート)		
4				
5	○比較量の求め方を説明することができる。	・知③(行動観察、ノート)	・思①②(行動観察、発言、ノート)	
6	○活用問題を解く。			
7	○基準量の求め方を説明することができる。	・知③(行動観察、ノート)	・思①(行動観察、発言、ノート)	
8	○問題に取り組むことで、学習内容の定着を図る。	○知①(行動観察、ノート)	・思②(行動観察、発言、ノート)	
9	○和や差を含んだ割合の場合について、比較量を求めることができる。		○思②(行動観察、発言、ノート)	
10				
11	○これまでの学習に関連して新たな問題を設定し、解決するとともに、統計的な問題解決の方法を理解する。	・知③(行動観察、ノート)	○思①②(行動観察、ノート)	
12		○知①②③(ワークテスト)		

4 キャリア教育との関連			
(1) 第3四半期で育てたい資質・能力			
殻を破れ!!自分の一歩を踏み出そう!!(課題対応能力)			
(2) 資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導			
第3四半期では、困難なことでも失敗をおそれず最後まで取り組む力を育てるために、第2四半期で見つけた自分のよさを生かしながら、自分で決めたことを一つずつ達成し、やり遂げる力を高める。			
(3) 本単元での学びと将来とのつながり			
本単元で二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いることや百分率について学ぶことにより、日常生活の場面で割合を活用して判断する力を高めることを見通して指導する。			
5 本時の指導 (5/12)			
(1) 目標			
数や式と日常の具体的な場面を関連付けながら考えることで、比較量の求め方を説明することができる。			
(2) 展開			
学習活動	指導上の留意点	個への対応	※評価
1 問題場面を把握する。 (1) 問題を確認する。 果汁は何mLですか。 (2) 本時の課題をもらえ見通しもつ。 どうやって考えたいのかな。	○指導上の留意点	◇個への対応	※評価
2 課題を解決する。 (1) 自力解決をする。 (2) 全体で話し合う。	○ 日常の具体的な生活場面を取り上げることで、本時の学習への興味関心を高める。 ○ 問題場面を図に表し「果汁が20%含まれる」という言葉の意味や何を求めればよいかを理解することを通して、解決への見通しをもつことができるようにする。		第3四半期の資質・能力を育てるためのポイント 今まで習ったような考え方が使えるか、様々な視点から考えている姿 数や式を用いて、考えを伝えている姿
3 本時の振り返りをする。 (1) まとめをする。 数や式に表すことで、何を求めればよいか分かりやすくなる。 (2) 学習感想を書く。	○ 数や式、言葉で自分の考えを表現している児童のノートに丸を付け称賛することで、粘り強く取り組めるようにする。 ◇ 考えが進まない児童には、図に表すことで何を求める問題なのか分かるようにする。 ○ 数や式を用いて説明することを通して、比較量の求め方について理解を深めることができるようにする。 【備かせたい数学的な見方・考え方】 数や式を用いて基準量、比較量の数値の関係を表したり、関係を適切に読み取ったりする。 ※ 数や式と日常の具体的な場面を関係付けながら考えることで、比較量の求め方について説明している。(行動観察、発言、ノート)		
	○ 本時の学びが実生活に生かされていることを問いかけることで、割合の考え方が生活につながっていることに気づくことができるようにする。		

資料11

第4学年 第3四半期 キャリア教育関連表 ～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第4学年 第3四半期キャリア教育関連表				
育てたい資質・能力	課題対応能力			
目指す姿	自分が興味をもったことに、粘り強く納得するまで取り組むことができる			
学年テーマ	「はてな？」をプラス！納得するまで続けよう。			
月	10		11	
	12			
体験	終業式 音楽会	始業式 持久走記録会	冬休み	
学習	・ルール確認 ・ハッピー&ハッピーT ・異年齢交流			
教科	国語 みんなで楽しく過ごすために 理科 とじこめた空気と水	漢字・算数 コンクール		
特別活動	学級活動 音楽会を成功させよう			
総合	「棚倉で働く人たち」 探究活動2 (役場見学、発表会)			
道徳	「たいこの音」 希望と勇気、努力と強い意志			

資料12

4年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート ～なりたい自分になるためのPDCAサイクル～

(4)年生 10～12月のめあて

学年テーマ
「はてな？」をプラス!
糸内得おまで続けよう

自分の目標

＜目標の全体の振り返り＞

まあ	できた	とてもできた
1	2	3
学習		
分からないことを辞典とかで調べる		
生活		
朝マラソンを朝月、行かためにじゅんびを速くする。		

どんな自分になったかな

0月(2) 1つ上げるために朝マラソンをがんばりました。これを続けたいです。思います。

11月(3) 1つ上げるために辞典を使

3つが実現しました!!じゅんびを速くする。

12月(3) 1つ上げるために分からない漢字があたし国語辞典で意味と読み方を知りました。音楽も持久走も自学で工夫してポイントを取ることができました。

お家の人から何もチャレンジして工夫して結果が出たおめでとうです。

先生から花壇さんが自分の本音を受け取ってくれて先生もうれしかったです。音楽も持久走も自学で決めたとしかりやり通すじゅんびの強さがあつきました。自学の工夫。(おのお友だちも取り入れてくれました。)

しやるとちゃんと覚えれるからこれからも続けたいです。

自己マネジメント力向上の取組 ～スケジュールプランナー(学習計画表)の活用～

- ・先を見通して自主学習の内容を決めて取り組む
- ・なりたい自分のPDCAサイクルを回す
- ・スケジュールプランナーから見取る児童のよさを日々の振り返りと学級活動(3)でつなぐ

上は4学年のもの。

下は5学年のもの。

高学年では、小中接続の観点で一週間を見通せる形式にしている。

日付	やること	評価	ふり返り	
10/12 水	音読		5-4-3-2-1	れんらく 明日は3校時です。 家の人から 先生から
	読み上げ	㊦四捨五入 整数		
	宿題			
	自学			
10/13 木	音読		5-4-3-2-1	れんらく 明日はろうかのワークスがけがります。 家の人から 先生から
	読み上げ	㊦		
	宿題			
	自学			
10/14 金	音読		5-4-3-2-1	れんらく 家の人から 先生から
	読み上げ	㊦		
	宿題			
	自学			
今週のGood action ～自分のがんばりをほめよう～ お休み中はアクションしたかな？くわしく教えてね！				

四年生 第三四半期の目標は「はてな？をプラス！納得するまでやりとけよう。」

第3四半期(10～12月) 「～般を破れ！自分の一歩を踏み出そう！！～」						
週の計画(P)	月 日(月)	月 日(火)	月 日(水)	月 日(木)	月 日(金)	今週の振り返り(C) (よかったことや、自分をほめたいこと)
第3四半期のめざす自分 今週の当番	音読 宿題 自学	音読 宿題 自学	音読 宿題 自学	音読 宿題 自学	音読 宿題 自学	
今日のめあて(D)						
今日の大事な学校の予定(P)						来週がんばること(A)
(持ち物)						
帰ってからの予定(P)						1週間を振り返って先生から
今日の振り返り 今日のめあてや第3四半期の自分に対する振り返りを書こう						1週間を振り返ってお家の方
家の人から						連絡欄(家庭⇄学校)
先生から						

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案「棚倉で働く人たち」

資料14

第4学年 1組 総合的な学習の時間学習指導案		
日時：12月9日(金) 5校時 場所：4年1組教室 指導者		
1 単元名 「棚倉で働く人たち～棚倉町のために～」		
2 単元の評価規準		
知識・技能 ○ 棚倉町で働いている人たちが、棚倉町のために様々な工夫や努力をしていることに気付いている。 ○ 役場見学に向けて質問内容を精選したり、見学中の状況に合わせてメモの取り方を変えたりするなど、相手や場面に応じて適切に活動している。 ○ 棚倉町役場に勤めている人たちの仕事が自分たちの生活と関わっていることに気付いている。	思考・判断・表現 ○ 役場見学での質問を、自分の関心をもとに、課題に沿った内容に決めている。 ○ 調べたことをもとに、棚倉町で働く人たちと自分たちの生活を関連付けて考え、棚倉町や学校生活の中で自分たちができることについて考えたことをまとめ、表現している。	主体的に学習に取り組む態度 ○ 課題解決に向けた自己の取り組みを振り返ることを通じて、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ○ 探究的な活動を通して、自分の考えをもつとともに、自分と違う友だちの考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ○ 棚倉町で働く人たちの仕事に対する思いについての探究活動の中で、自分にできることを見つけようとしている。
3 単元計画(総時数63時間)		
<ul style="list-style-type: none"> ・(課題設定) 子どもたちの「気づき」からの課題設定……………2時間 ・(探究活動1) 棚倉町で働く人の仕事内容……………12時間 ・(探究活動2) 棚倉町で働く人の思い……………19時間 ドリームマップ出張授業……………6時間 ・(探究活動3) 棚倉町のために自分たちができること……………14時間(11/14本時) ・(まとめと発表) 活動報告……………10時間 		
4 キャリア教育との関連		
(1) 第3四半期で育てたい資質・能力		
「はてな？」をプラス！納得するまで続けよう。(課題対応能力)		
(2) 資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導		
第3四半期では、自分が興味をもったことに、粘り強く納得するまで取り組むことができる力を育てるために、漢字・算数コンクールや理科「とじこめた空気と水」等において、自ら課題を見つたり、できるようにするための改善点を考えたりしながら繰り返し取り組む姿を見取り、称賛している。粘り強く課題と向き合い、自ら調べたり友だちと話し合ったりしながら解決することができるよう、意図的・計画的に指導している。		
(3) 本単元での学びと将来とのつながり		
本単元で職業観や郷土愛を深めることにより、5・6年生で行うチャレキッズを充実した体験活動につなげるとともに、働くことの喜びややりがいを見出しながら自分の将来について考えることができることを見通して指導する。		

5 本時の指導(11/14)		
(1) 目標 役場見学で学んだことをもとにして、働くことよさについて考えることを通じて、職業観や郷土愛を深めることができる。		
(2) 展開		
学習活動	○指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価	第3四半期の資質・能力を育てるためのほめポイント
1 学習課題を確認する。 働くことよさは、何だろう。	○ 年度当初の児童の職業観を提示することで、これまでの役場見学について振り返るとともに、本時への興味関心を高める。	課題解決に向けて自分が納得するまで考えている姿
2 課題を解決する。 (1) どの課で働いてみたいかを話し合う。 ① ワークシートに選んだ課とその理由を書く。 ② 考えを発表し合い、全体で共有する。	○ 班ごとに作成した課のパンフレットを全体で確認し、各課の特徴やよさを共有することで、解決への見通しをもつことができるようにする。 ○ 自分が選んだ課の理由について記述してあるワークシートに丸を付け称賛することで、粘り強く取り組めるようにするとともに、発表への意欲を高める。 ◇ 困っている児童には、課のパンフレットから、働く人の心情に注目させることで、自分の考えをもつことができるようにする。	自分の考えを表現したり、友だちの考えのよさに気付いたりする姿
(2) 働くことよさについて話し合う。 ① 自分の考えをもち、友だちと交流する。 ② 考えを発表し合い、全体で共有する。	○ 児童一人一人の考えの根拠を引き出すことで、働くことに対する多様な考えに気付くことができるようにする。 ※ 働くことよさに気付くとともに、自分の将来について考えようとしている。(発表・ワークシート)	
3 本時の振り返りを行う。 (1) インタビュー動画を視聴し、感想をもつ。 (2) 働くことよさについての自分の考えをまとめる。	○ 役場で働く保護者のインタビュー動画を視聴することを通して、働くことをより身近に感じるとともに、自分の将来について考えることができるようにする。 ○ 本時で働くことよさについて考えたことが、今後の学校生活や社会生活等に生かされることを伝えることで、学びのつながりに気付くことができるようにする。	

資料15

第6学年 第3四半期 キャリア教育関連表

～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

左は第3四半期の初めのもの。右は第3四半期終わりのもの。学びの足跡がまっている。

第6学年 第3四半期キャリア教育関連表				
育てたい資質・能力	課題対応能力			
目指す姿	苦手な学習や行事に対しても諦めずに取り組むことで、自己のさらなる成長を実感できるようにする。			
学年テーマ	失敗しても何度でも！ ～よりよい自分へワンアップ～			
	月	10	11	12
体験		音楽会	持久走記録会	町交流学习
学び		・ルール確認(時間管理)	・1年生のお手伝い	・朝清掃
教科			体育科 体の動きを高める運動	国語科 みんなで楽しく過ごすために
特別活動		学級活動 中学校へ向けて	学級活動 振り返りと第4四半期の目標	
総合		地域の伝統を受け継ぐ人の考えに触れよう(和太鼓)		
道徳科		誠実な人ー吉田松陰ー 正直、誠実		

この表には、音楽会、持久走記録会、町交流の各活動に関する写真と、生徒の感想が記入されています。赤字の矢印は「失敗しても何度でも」というテーマを指しています。

音楽会に関する感想：

- 「途中で持たれなかった楽器も、最後まで演奏し終ることができた。練習の成果が発揮できた。」
- 「自分も客観的に振り返り、修正したところがある。自分も頑張った。」

町交流に関する感想：

- 「伊藤さん含め、地域のの方に沢山の世話のおかげで、音楽会にいられた。感謝の気持ちを忘れず、頑張りたい。」
- 「1年生の成長が、自分たちも成長したように感じた。みんなは頑張った。」

第6学年 学級活動(3) 「よりよい自分へワンアアップ」

第6学年3組 学級活動(3) 学習指導案

日時：12月9日(金)5校時 場所：6年3組教室 指導者：東城 瞳

題材名 「よりよい自分へワンアアップ」

キャリア教育との関連

(1) 第3四半期で育てたい資質・能力
失敗しても何度でも！～よりよい自分へワンアアップ～(課題対応能力)

(2) 資質・能力を育てるための各教科、各種等の指導
第3四半期では、自分の行動を内省し、工夫改善できる力を育成するために、日常生活を基盤として、国語科「みんなで楽しく過ごすために」や音楽会、持久走記録会等において、意図的・計画的に指導し、自己の成長を振り返り、次の活動に向けて工夫や改善の姿を見取り称賞している。

(3) 本題材での学びと将来とのつながり
本題材で、様々な経験をすることで培ってきた力は、中学校そして自己の将来において、生きて働く大切な力である。卒業までの数か月間をどのように過ごすかについて意思決定し、実践できるようにする。

本時の指導 (1/1)

(1) 目標
自覚達成に向けて努力してきたことを振り返ることを通して、中学校への進学を見据えながら、卒業までの数か月間をどのように過ごすかについて意思決定し、実践できるようにする。

(2) 展開

学習活動
1. 学習課題を確認する。
どこでもワンアアップ!
中学校へ向けて、今から準備!
2. どんなことをがんばっていたのかについて考え、意思決定する。
(1) 成長場面を振り返り、今後の見直しをもつ。
(2) 今後の目標を立てる。
・ペアや全体で交流。
3. 本時の振り返りを行う。

学習活動	指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価	第3四半期の資質・能力を育てるためのほめポイント
1. 学習課題を確認する。 どこでもワンアアップ! 中学校へ向けて、今から準備!	○ 第4四半期の学年テーマを提示し、中学校生活に向けた準備期間がスタートすることを共有することを通して、本時の学習への興味関心を高めることができるようようにする。	○ 第3四半期の成長の力を育めること、これまでの自分たちを成長の力と、これまでも高めたいという思いを互いに結び付け、ワンアアップし続けることに意欲を高める姿
2. どんなことをがんばっていたのかについて考え、意思決定する。 (1) 成長場面を振り返り、今後の見直しをもつ。 (2) 今後の目標を立てる。 ・ペアや全体で交流。	○ 自分たちの成長場面を振り返ることを通して、様々な経験の中で培ってきた力は、中学校にもつながる大切な力であることに気付くことができるようになる。 ○ 卒業まで残り数か月となった小学校生活に目を向け、今後の見直しをもたせることを通して、目標であるなりたい自分について考えることができるようになる。 ○ 教師または児童同士が肯定的・対話的に関わることを通して、なりたい自分の姿を前向きに検討し、意思決定すること、書き出せない児童には、なりたい自分についての具体的な場面を一緒に考えることを通して、意思決定すること、なりたい自分を通して、意思決定すること、なりたい自分を意識生活の過ごし方を考える、なりたい自分(ワーキングシート・発表)	○ 中学校への進学を見据え、残された学校生活をどのように過ごすか、意図的にか考え、意思決定している姿
3. 本時の振り返りを行う。	○ これまでの経験は、今後の自分をつくっていく大きな学びであることを伝え、自己の成長や目標達成に向けて意欲を高める。	

資料17

第3学年 第4四半期 キャリア教育関連表 ～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第3学年		第4四半期キャリア教育関連表		
育てたい資質・能力	キャリアプランニング能力			
目指す姿	自分のよさを理解して 自己の目標に意欲的に 取り組む やればできる! やらなきゃできない! よさを生かして 未来まで!			
学年テーマ	やればできる! やらなきゃできない! よさを生かして 未来まで!			
	月	1	2	3
体験行事			6年生を送る会	
学びの振り返り		<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のルール確認 ・ハッピー&ハッピータイム ・異年齢交流 ・友達のいいところみつつけ(サンサンキッズ) 		
教科	体育科 多様な動きを作る運動 なわとび記録会	国語科 わたしたちの学校じまん	漢字・算数 コンクール	
特別活動		学級活動 6年生を送る会を成功させよう	学級活動 振り返りと3年生のまとめをしよう	
総合	探究活動 棚倉の食べ物のよさを発表しよう	南中ソーランを伝えよう		
道徳科	「こまったときは お互いさま」(伝統文化の尊重・国や郷土を愛する態度)	「しんぱんは自分たちで」(公正、公平、社会正義)	「すきなことから高橋尚子物語」(希望と勇気、努力と強い意志)	

資料18

3年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート ～なりたい自分になるためのPDCAサイクル～

3年生 1～3月のめあて

学年テーマ
やればできる! やらなきゃできない! よさを生かして未来まで!

自分の目標 <目標の全体の大まか振り返り>

自分のよさの やさしいところをいかしてえがおになれるようにがんばる。
えがおになれたら友達にえがおを伝えてあげよう。
えがおになれたら友達にえがおを伝えてあげよう。
えがおになれたら友達にえがおを伝えてあげよう。
えがおになれたら友達にえがおを伝えてあげよう。

次で学んで楽しみなこと
四年生になったら自分のよさをいかしてまたえがおをたくさんつくりたいよ。

1月 (お) かなりのよさをいかして友達にえがおを伝えてあげよう。
2月 (お) 南中ソーランをいっしょに楽しもう。
3月 (お) 振り返りをして、自分のよさをいかして友達にえがおを伝えてあげよう。

お家の人から
自分の良い所をいかして、えがおを友達にいかして生活できたらね。
四年生になったら、自分の良い所をいかして、えがおをたくさんつくりたいよ。
かなりのよさをいかして友達にえがおを伝えてあげよう。

先生から
えがおを友達にいかして生活できたらね。
えがおを友達にいかして生活できたらね。
えがおを友達にいかして生活できたらね。
えがおを友達にいかして生活できたらね。

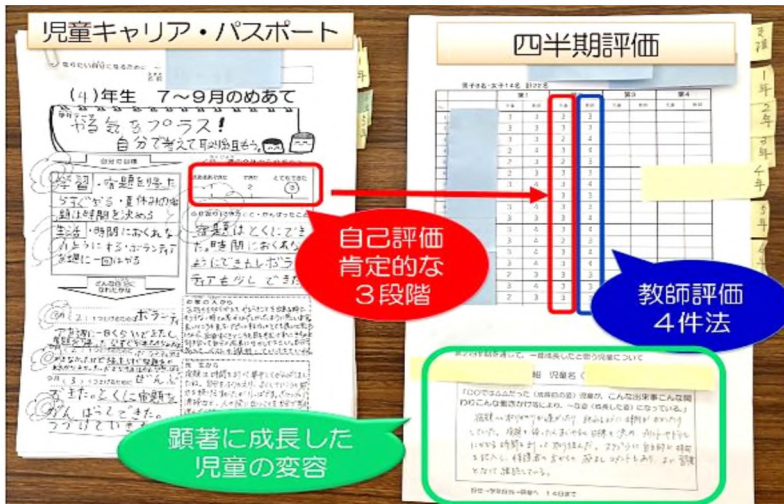
全校学級づくりの時間の計画

資料19

ハッピー＆ハッピータイム(全16回)活動計画			
1 キャリアとの関連			
・親和的な学級づくりのために、子どもたち一人一人が友だちとよりよい関係を築くスキルを育てるとともに、そのスキルを安心して発揮することができる学級集団を醸成する一助とする。 ・今年度の重点:肯定的、対話的に関わる力(≒対立を仲裁できる力)の育成			
2 留意点			
・ハッピー＆ハッピータイムの名前の通り、体験を通して楽しく笑顔で行うながらスキルを身に付けることができるようにする。学年間で共通理解を図りながら行う。 ・活動後に振り返りの時間を確保し、子どもたちが感じたことや気づいたことを全体で共有し、深める。			
月	日	テーマ	内容
4	18	①心の絆づくり	・あいさつリレーor積み木自己紹介・質問ジャンケン
4	25	4月の振り返り	・サイコロトークで振り返り・登場じゃじゃーん
5	2	自分も相手もハッピーになる聴き方	・共感的、受容的に聴こう
5	9	②心の絆づくり	・いいとこ見つけ!
5	30	5月の振り返り	・サイコロトークで振り返り・連想クイズ
6	6	自分も相手もハッピーになる話し方	・3つの話し方を知ろう
6	13	仲間の誘い方と入り方	・「一緒にやろう」「まげて」
6	27	6月の振り返り	・サイコロトークで振り返り・4つの窓
7	11	③心の絆づくり	・パースデーチェーン
8	29	8月の振り返り	・サイコロトークで振り返り・質問じゃんけん
9	12	上手な断り方	・ごめんね、〇なんだ
10	3	困っている友だちには	・相手の困り感を聴こう
10	17	④心の絆づくり	・新聞パズル
10	24	10月の振り返り	・サイコロトークで振り返り・山手線ゲーム
11	7	ケンカの仲裁	・二人の気持ちをつなぐ橋渡し
12	5	⑤心の絆づくり	宝物さがし

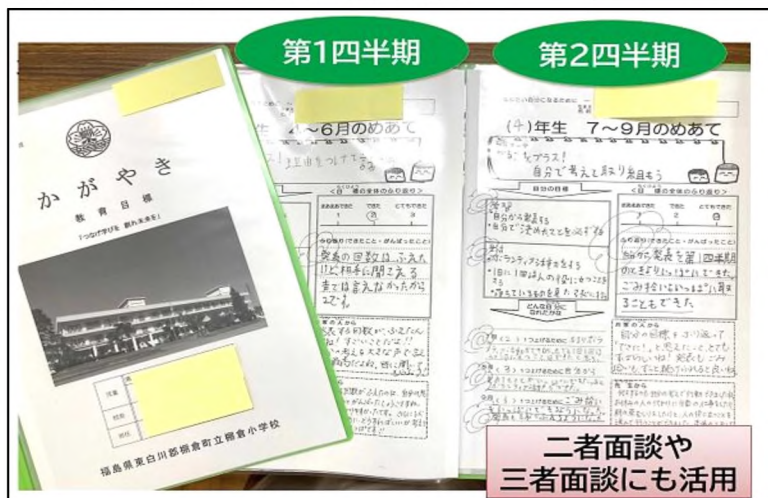
四半期末の評価を全教職員で共有

資料20



キャリア・パスポートの有効活用

資料21



資料22

学校経営ビジョンのキャリア教育で目指す子どもの姿を具現化するルーブリック規準表

資質・能力	レベル	ゼロベース		レベル1	レベル2	レベル3
		習得以前	単独習得	複数組み立て	関連付け・発展・応用	
自己理解・自己管理能力	長所・短所の理解と個性の伸長を図る。	メタ認知	自己の長所・短所が分からない	自分の長所・短所が言える	自分の長所・短所を言え、得意なことを意識できる	自分の長所・短所を理解して、自分の得意分野を伸ばし、苦手を克服しようと努力できる
	規則正しい生活習慣を身に付ける。	自制心	自分自身の感情や欲望がコントロールできない	自分の感情によらず、あいさつができ、時間を守ることができる	自分の感情をコントロールし、あいさつ、集団ルールの遵守、規則正しい生活ができる	自分の感情や欲望をコントロールし、集団の中でルール遵守の規則正しい生活ができる
	自分に自信、自己肯定感を持つ。	自己肯定感	自分を肯定できず、自信がない	よいことをした時の気持ちよさに気づく	よいことをした自分を認め、自分を肯定できる	他者へ思いやりをもって接し、自己肯定感を高め、自信をもつことができる
	何ごとにも主体的に取り組む。	主体性	自分で決められない	自分の意思を表現できる	自分で考えて選んだり決めたりできる	自らやってみたり、自分で考えてみたりという気持ちで行動し充実感を得る
課題解決能力	自分で疑問を持ち、追求する。	探究心	疑問をもたない	興味関心を示すことができる	興味関心をもったことに、粘り強く納得いくまで取り組める	興味関心をもったことに、粘り強く、工夫しながら集中して最後まで取り組める
	困難なことでも失敗を恐れず最後まで取り組む。	挑戦意欲	難しいことには取り組まない	自分には難しいと思っても、取り組むことができる	失敗を恐れず、何ごと自分から取り組める	失敗してもめげず、何度でも意欲をもって取り組み、最後までやりとげる
	自分で工夫し学習・行動する。	創造力	工夫できない	自分なりの工夫ができる	学習や日常生活を、よりよくしようとする考えを基に行動できる	学習や日常生活で、自分で考えた効果的なやり方で行動できる
	自己の行動を評価、改善する。	問題解決力	自分を振り返ることができない	自分を振り返ることができる	自分を振り返り、次の行動を考えることができる	自分の行動を内省し、工夫改善できる
人間関係形成・社会形成能力	相手に分かりやすく考えを伝える。	伝える力	相手に分かるように話せない	自分の言葉で考えや気持ちを話すことができる	他者に自分の考えや気持ちがかかるように理由をつけて話せる	他者に自分の考えや気持ちがかかりやすく伝えるように、言葉を遣って話せる
	先生や友達と対話ができる。	調整力	話を最後まで聴けない	話を最後まで静かに聴ける	疑問をもったり、自分の考えと比べながら聴くことができる	聴いた話に、質問や自分の意見を言える
	他者と協力・協働できる。	協調性	一緒に行動できない	一緒に行動できる	自分の考えを譲りながら、他者と協力できる	他者と折り合いをつけながら、協力、協働できる
	他者の個性を理解できる。	気づき	他者を責める	他者の良い行いが分かる	他者の良い行いを認め、感謝できる	他者の特徴を理解し、認め、許容できる
キャリア・パスポート・ハンディカード活用	夢や目標に向かって努力する。	行動力	努力しない	目標をもって、行動できる	夢や目標のために、継続して努力できる	夢や目標達成のために、粘り強く努力できる
	計画的に物事を進める。	自立心	予定を立てられない	物事を進める順序が分かる	先を見通して、計画を立てて実行できる	他者任せせず、計画的に、順序立てて修正しながら物事を進めることができる
	目標を持って、意欲的に取り組む。	意欲	目標をもてない	夢や目標をもてる	夢や目標をもって意欲的に取り組もうとする	具体的な目標をもって、自分を理解しながら意欲的に取り組む続ける
	自己の役割、働く意義を理解する。	責任感	役割を果たせない	自分の当番を知り、自ら当番の仕事ができる	自分の役割を責任持って果たすことができる	自分の役割を責任持って果たし、役割を果たす充実感を感じることができる

四半期ごとに各学年が設定した資質・能力の一覧

年間を通して、4つ全ての能力を高めることにつながった。

目指す姿を分かりやすくおろした「学年テーマ」をもとに、児童はなりたい自分を意思決定した。

第1四半期							
学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第1四半期 育てたい資質・能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力	人間関係形成・ 社会形成能力	人間関係形成・ 社会形成能力	キャリア プランニング能力
目指す姿	自分の感情によらず あいさつができ 時間を守ることが できる	最後まで話を 聞くことができる	いつでもどこでも あいさつができ 時間を守ることが できる	相手のよさに 気づくことが できる	自分の考えや気持ち が伝わるよう 理由をつけて 話すことができる	友だちと折り合いを つけながら 協力・協働すること ができる	6年生としての 役割を理解して 意欲的に取り組む ことができる
学年テーマ	何てだって 新学年 自分もみんなも 笑顔のスタート	「きく」に 全集中！ ゴールまで	1年生の お手本に なろう	相手の いいところを 発見しよう	ひとことプラス 理由をつけて 話そう	みんなで動こう One Team 5年	ゴールを イメージし 動こう
第2四半期							
学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第2四半期 育てたい資質・能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力
目指す姿	自分よさや 友だちのよさを 進んで見つける ことができる	規則正しい 生活習慣を 身に付ける ことができる	自分の言葉で 考えや気持ちを 伝えることができる	自分のよさに気づく ことができる	自分で考えて、 選んだり決めたりして 行動することができる	友だちのよいところを 見つけたり、自分を 見つめ直したりして、 自分にはよいところ があると思うことができる	今までの様々な経験 を生かし、困難な課題に 対しても計画を立てて 自己管理することができる
学年テーマ	よいところに 目を向けて 自分もみんなも レベルアップ	「みる」ことに 全集中！ そこに気づき がある！！	伝えよう！ 自分の思いを！	見つけよう 自分のよさを 育てよう みんなのよさを	やる気をプラス！ 自分で考えて 取り組もう	大発明！ 大発見！ 自分の いいところ！	発揮しよう！ 自分の力！
第3四半期							
学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第3四半期 育てたい資質・能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力
目指す姿	困難なことでも失敗 を恐れず、最後まで 取り組むことができる	困難なことでも失敗 を恐れず、最後まで 取り組むことができる	失敗してもめげず に、最後までやり遂 げることができる	自分のよさをいかし て何事も最後までや り遂げることができる	自分が興味をもった ことに、ねばり強く 納得するまで取り組 むことができる	困難なことでも失敗 を恐れず、最後まで 取り組むことができる	苦手な学習や行事に 対してもあきらめず 取り組むことで、自 己のさらなる成長 を実感できるように する
学年テーマ	レッツ トライ！ しっばいしても へっちゃらさ！	「やる」ことに 全集中！ あきらめないぞ！	さい最後まで あきらめないで やりとげよう！	やってみよう！ よさをいかして さいごまで	「はてな？」を プラス！ 納得するまで 続けよう	殻を破れ！ 自分の一歩を 踏み出そう！	失敗しても 何度でも！ よりよい自分へ ワンアップ
第4四半期							
学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第4四半期 育てたい資質・能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	人間関係形成・ 社会形成能力
目指す姿	夢の実現に向け て努力を継続す る	目標に向かって 意欲的に取り組 む	夢や目標をもっ て意欲的に取り組 む	自分のよさを理 解して自己の目 標に意欲的に取 り組む	自分の役割に責任 をもって果たすこ とができる	具体的な目標をも って自分を理解し ながら意欲的に取 り組み続ける	他者の特徴に 気付き、認め、 許容できる
学年テーマ	できるを 重ねて！ ステップアップ	「のびる」こと に全集中！ ちょうせんするぞ	3年生に むかって ステップアップ	やればできる やらなきゃできない よさを生かして 未来まで！	自覚をプラス！ 責任をもって やりとげよう	超覚醒 ～最高学年に 向けて最高の 準備を！～	どこまでも ワンアップ！ 中学校へ向けて 今から準備！

キャリア教育関連表を活用して学びを振り返る ～3年生～

教師だけではなく、児童も振り返りを記入。教育活動に参画する児童の姿が見られた。

4 キャリア教育との関連

(1) 第3四半期で育てたい資質・能力

殻を破れ!! 自分の一歩を踏み出そう!! ～(課題対応能力)

(2) 資質・能力を育てるための各教科、各領域等での指導

第3四半期では、困難なことでも失敗をおそれず最後まで取り組む力を育てるために、第2四半期で見つけた自分のよさを生かしながら、学習や持久走記録会等の行事において自分で決めたことを一つずつ達成し、やり遂げる力を高めている。失敗を恐れずに挑戦した姿やあきらめずに最後まで取り組む姿を見取り称賛している。特に社会科では、日本の産業において見出した課題を自分事として捉え、解決に向けた

(3) 本単元での学びと将来とのつながり

本単元でこれまでの学習を生かして日本の工業生産の課題をどのように解決していくかを考え、学ぶことにより、社会をより多角的に見つめ直し、課題を解決していく力を高めることを見通して指導する。

5 本時の指導 (5/5)

(1) 目標

日本の工業生産の学習について振り返り、我が国の工業生産の特色についてまとめることを通して、これからの工業の発展について考えることができる。

(2) 展開

学習活動

○指導上の留意点 ◊個への対応 ※評価

第3四半期の資質・能力を育てるためのほめポイント

1 問題場面を把握する。

これから日本の工業生産の課題を解決するにはどうすればよくなる?

見通し (資料や掲示物などから)

① 日本の工業生産のよさ
② 外国との関わりや貿易の様子
③ 現在行われている取り組みの

2 課題を解決する。

(1) 自力解決をする。
資料をもとに解決策を考える

(2) グループで解決策を共有し、案をまとめる。

(3) 全体で話し合う。

3 本時の振り返りをする。

(1) まとめをする。

日本の工業生産がこれから発展していくためには、様々な考え方で工業のあり方を考えていく必要がある。

(2) 学習感想を書く。

○前時で学習した工業生産の課題と児童自身のこれからの生活とのつながりを示すことで、本時の学習への興味関心を高める。

○ 日本の工業生産の長所と短所を示すとともに見学学習で行った環境創造センターでの展示等を想起することを通して、解決への見通しをもつことができるようにする。

○ 机間指導しながら資料の読み方やアイデアのヒントを提示することで、具体的な解決策を粘り強く考えることができるようにする。

○ S児が自力解決できるように、前時の学習からヒントを示し、自分なりの考えをもつことができるようにする。

○ 観点や視点ごとに児童の提案を黒板に整理し、日本の工業生産の課題について理解を深めることができるようにする。

【働かせたい社会的な見方・考え方】

日本の工業生産について日本の位置や環境、人々の相互関係等の視点で捉え、課題解決に向けて考えたり判断したりする。

※ 工業生産について学習したことを振り返り、工業生産の課題や解決策について考え、適切に表現している。(行動観察、発言、ノート)

○ 本時の学びを振り返り、今後の日本の工業生産について考えたことが数年後の選挙や、主権者としての姿につながっていくことに気付くことができるようにする。

課題を自分事として捉え、難しいことでも最後まであきらめずに考えている姿

さまざまな考えを受け止めて、課題解決に向けて、よりよいものを試行錯誤しながら考え出そうとする姿

授業づくり3つの柱を指導案にも位置付け、授業改善に取り組んだ。



【主な参考文献】

- 小学校学習指導要領 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- 小学校学習指導要領 特別活動編 文部科学省
- 小学校学習指導要領 算数編 文部科学省
- 小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 文部科学省
- 小学校キャリア教育の手引き 文部科学省
- キャリア教育フォービギナーズ 藤田 晃之
- 小学校だからこそ!キャリア教育!世田谷区立尾山台小学校の挑戦 世田谷区立尾山台小学校 (編者) 長田 徹 (監修)
- 資質・能力を迫るキャリア教育 キャリア教育の町“棚倉”の挑戦 棚倉町教育委員会・棚倉町立棚倉小学校 (著) 長田 徹 (監修)

研究主題

開かれた特別支援学級から

自分らしさを大切にする児童を育てる
～ICF の考え方に基づいた個人因子と
環境因子へのアプローチの視点から～

南会津町立南郷小学校 教諭 横田 みなみ



I 研究の概要

1 特別支援教育の今日的な動向

特別支援教育とは、『特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申)』において、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」と定義づけられている。(中央教育審議会 2005)

そして、『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)』の中で、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の「共生社会」の実現は、私たちが最も積極的に取り組むべき重要な課題であるとされている。その中での学校教育の役割として、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進についての基本的考え方が、学校教育関係者をはじめとして国民全体に共有されることが求められている。(文部科学省 2012)

2 障がいの捉え方の変化

WHO は、平成13年に、障がいのある人だけでなく、障がいのない人も含めた生活機能分類として、「国際生活機能分類(ICF: International Classification of Functioning, Disability and Health)」を採択した。ICFでは、

人間の生活機能を「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」の3つの要素に分類し、それらの生活機能に支障がある状態を「障がい」と捉えている。また、ICFでは、障がいの状態は、疾病等によって規定されるだけでなく、健康状態や環境因子と相互に影響し合うものとして説明されている。新たに加わった「環境因子」と「個人因子」の考え方は、多面的に子どもの実態を捉え、総合的に理解していくことが指導・支援の充実につながっていくことを示唆している。『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)』においても、ICFの障がいの捉え方を踏まえて、指導を行うよう明記されており、ICFに基づいた指導・支援の在り方の重要性が伺える。【資料1】

3 南会津の特別支援教育について

近年、義務教育段階の児童生徒数は減少する一方、特別支援教育を受ける児童生徒数は全国的に増加している。【資料2】

南会津管内においても、特別支援学級に在籍している児童生徒や通級による指導を受けている児童の人数は、年々増加している。ニーズの高まりにより、特別支援教育への理解は進んできているものの、特別支援教育や障がいそのものについての誤解はまだ多いのが現状である。

南会津では、『南会津教育事務所令和5年度学校教育指導の重点』【資料3】の中で、特別支援教育については、「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進し、「個別の指導計画等を

活用した個々の学習状況の明確化、学年・学校間の円滑な接続「教育的ニーズの3つの観点を踏まえた適切な教育の提供」「卒業後の姿をイメージし、地域・関係機関等と連携を図るキャリア教育の充実」の3つの指針を示している。南会津の特徴である、少人数や複式学級の中で、丁寧に一人ひとりの児童生徒と関わるができるよさを生かし、垣根のない多様な学びの場を整備していくことが重要である。

4 本校の特別支援教育の現状

本校は、児童数67名の小規模校である。多様な学びの場として、特別支援学級（自閉症・情緒障がい）が1学級（在籍数2名）、通級指導教室（利用児童6名）が設置されている。また、通常の学級で特別な支援が必要と教員が認識し、指導にあたっている児童が20名おり、校内の中で特別支援教育のニーズは非常に高い。

本校では、特別支援教育の「特別」を特別優待という意味でなく、そもそも一人ひとり違っているのだから、その違いに合わせるという意味と捉え、教育活動を行っている。子どもの可能性を信じて、その子がそのらしく育ていけるように、「ないものではなくあるものを見ようとする」「たできないではなく、どうしたらできるのか考える」「環境調整の方法を一緒に探していく」「みんなの場所でもある開かれた特別支援学級」の4つの視点を大切に全職員で共通理解を図りながら、指導・支援を進めている。

5 主題設定の理由

令和3年1月にまとめられた『新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（報告）』では、インクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援教育をさらに進展させていくため、「①障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられる条

件整備、②障害のある子供の自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備」と示された。また、「これにより、障害の有無に関わらず誰もがその能力を発揮し、共生社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りを持って生きられる社会の構築を目指す」こととしている。

【資料4】

本研究では、「障害の有無に関わらず誰もがその能力を発揮し、共生社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りを持って生きられる社会の構築」の基盤をつくる小学校の教育活動の中で、特別支援学級担任と特別支援教育コーディネーターの立場から、特別支援学級に在籍する児童の個人因子と環境因子に適切なアプローチをすることを通して、障がいの有無に関わらず、一人ひとりが自分らしさを大切にする児童を育てたい。そのことが、共に学び合う条件整備と多様な学びの場の一層の充実・整備にもつながるであろうと考えた。

6 研究仮説

特別支援学級担任と特別支援教育コーディネーターの立場から、ICFの考え方に基づいた個人因子と環境因子に適切なアプローチをしていけば、特別支援学級が開かれた場所になり、障がいの有無に関わらず、一人ひとりが自分らしさを大切にする児童が育つであろう。

7 研究仮説の具体化に向けて

(1)「特別支援学級担任と特別支援教育コーディネーターの立場から」とは共に学び合う条件整備と多様な学びの場の

一層の充実・整備を目指すにあたって、学級担任としての実践だけでなく、組織的に学校全体で共通の認識をもって取り組んでいくことが大切である。特別支援学級担任の立場からは主に「個人因子」に、特別支援教育コーディネーターの立場からは主に「環境因子」に、2つの立場のよさを生かしたアプローチをしていくことが効果的であるのではないかと考える。

(2)「ICFの考え方に基づいた個人因子と環境因子に適切なアプローチをする」とは一人ひとりの児童に合った指導・支援は、適切なアセスメントの上で成り立つ。日頃の学校生活の様子を観察して記録することや、やり取りを通してラポールを築き、思いを引き出すことを通して、児童の実態を整理し、アセスメントすることが効果的な指導・支援を行うことの土台となる。特に、ICFで示されている「個人因子」と「環境因子」に着目し、双方の視点から、適切に関わっていくことが、児童の行動により変化をもたらすと考える。

(3)「開かれた特別支援学級」とは児童の中には特別支援学級は、「違う」場所と捉えている児童も少なからずいる。特別支援学級を特別な場所ではなく、児童全体が自分達の居場所でもあると捉えられるような実践を行うことで、特別支援学級の敷居をなくしていきたい。開かれた特別支援学級にすることが、障がいのある子にとってもない子にとっても、社会性や豊かな人間性を育むことにより影響を与えるであろうと考える。

(4)「障がいの有無に関わらず、一人ひとりが自分らしさを大切にできる児童が育つ」とは自分らしさを追求することは、障がいの有無に関わらず、大切なことである。特別支援学級に在籍する児童の人的環境を整える関わりを通して学校全体のコミュニケーション能力を高めていくことにつながる。そして、自

分の気持ちを適切に表現できたコミュニケーションの心地よさは、自分も相手も大切にできる児童の育成につながっていくと考える。

II 研究内容

本研究は、特別支援学級（自閉症・情緒障がい）に在籍する児童を対象に、ICF（国際生活機能分類）の背景因子である個人因子と環境因子の2つの柱と5つの実践をもとに研究を行う。

- 1 個人因子へのアプローチ
 - (1) 自立活動の充実
 - ア 時間における指導と教育活動全体との密接な関連を図った実践
 - イ 心と体をほぐすストレッチや呼吸の継続的な実践
 - (2) 「願い」を生かすかわり
 - ア 願いに寄り添った行動分析
- 2 環境因子へのアプローチ
 - (1) 全校ソーシャルスキル教育の実施
 - ア 全校ソーシャルスキル教育集会
 - イ 理解啓発授業
 - (2) 特別支援教育だよりの発行
 - ア 紙面を通しての共通理解の実施
 - (3) くつろぎルームの設置
 - ア 関わりの広がり場
 - イ 個別の教育的ニーズに応じた使用

III 研究の実際

- 1 個人因子へのアプローチ
 - (1) 自立活動の充実
 - ア 時間における指導と教育活動全体との密接な関連を図った実践
- 自立活動の目標は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達のための基盤を培う」ことである。自立活動の目標と児童の実態を踏まえ、「自分も相手も大切に」「わからないとき

は聞く」「1人でできないときはSOSを出す」「失敗したときは何が悪かったか考えて言葉で説明できるようにする」の4つを学級目標に設定した。学習指導要領にも明記されているように、自立活動の指導は、教育活動全体を通じて行うものであることから、自立活動の時間における指導を教育活動全体と密接に関連させていけるように、朝の会と帰りの会に今日のソーシャルスキルを確認する活動を取り入れた。

伊藤（2019）の「ソーシャルスキルのアイテム化」の支援法を参考に、自立活動の中で学習したソーシャルスキルを、今週のソーシャルスキルアイテムとして朝の会で確認し、帰りの会で振り返りを行った。活用できている場面を見つけ、即時評価をして認め、児童自身でもう一度できていた場면을帰りの会で振り返ることで、自立活動の時間における指導で学習した内容が、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を持つものとなった。

継続していく中で、児童から「今日の授業ではこのアイテムが使えるよだね。」とこれまで取り組んできたソーシャルスキルアイテムを振り返り、活用しようとする姿が見られるようになったり（写真1）、「オリジナルのアイテムを自分で考えてみたい。」とメタ認知につながる視点が育ったり（写真2）【資料5】と、児童の主体性を促すことができた。

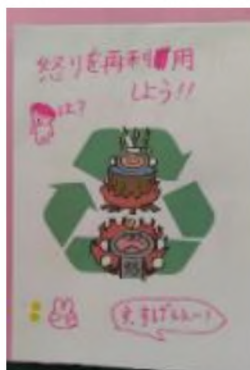


写真1：児童が名前を決めたソーシャルスキルアイテム



写真2：考えを伝え合いながら、モンスターを考えている様子

イ 心と体をほぐすストレッチや呼吸の継続的な実践

不安や緊張を感じやすいという自閉スペクトラム症の特徴からくるストレスの軽減を目的に、朝の会に太田（2019）で提唱された活動を朝ヨガとして継続して取り入れた。ストレッチや呼吸を通して、心と体がほぐれることを体感できるようにした。「なんか落ち着く」「気持ちいい」「今までのヨガをつなげてやってみよう」などのつぶやきが児童から聞かれ、自分の心と体への気づきにつながったといえる。普段の生活の中でも、イライラしているクラスメイトの様子を見たときに、「こんなときに朝ヨガでやった呼吸を使ってみればいいんじゃない。」という言葉かける様子や自分がイライラしたときに、大きく鼻から息を吸い、口からゆっくり吐き出す風船の呼吸を使っている様子が見受けられ、自分や相手を大切にするための方法の1つとして、日常生活の中で児童自身がヨガを活用できるようになってきていると捉えている。（写真3）



写真3 朝ヨガの様子

保護者とのやり取りの中でも、「宿題に取り組んでいるときに自立活動で学習した内容を活用していた。」と報告があるなど、学校生活だけでなく家庭でも活用できる力が育っていることがわかった。

（2）「願い」を生かす関わり

ア 願いに寄り添った行動分析

井上（2020）が提唱する「ストレングス・トーク」では、①本人への良い影響・強み、②周囲への良い影響、③願望、④不器用な対処の4つの「隠れた強み」に着目して関わる

ことで、ポジティブなやり取りが増え、良い相互作用につながっていくとしている。

今回の実践では、4つの「隠れた強み」の中から「願望」に着目し、行動分析を行った。児童 A（小学校5年生女兒）の行動問題について、どのような願いからその行動が出ているのかを表に整理した。（表1）

行動	願い
体育の授業でうまくプレイできないときに泣いて怒る。	うまくできるようになりたい。
授業中、音や気になることがあると「うるさいと声を荒立てる。	静かに学習したい。早く課題が終わった人がうらやましく、自分もそうしたい。

表1 児童 A の行動と願い

行動の裏にある願いを整理したことによって、児童に寄り添った問い返しを行いながら、児童と一緒に解決策を探っていくことを繰り返すことができた。自分の願いを分かってもらえたという安心感から、出会った当初と比べて、行動問題が起きる前に自分から相談をしてくれたり、自分の気持ちを言葉にして伝えたりすることができるようになるなど、よい変化が見られるようになった。その結果、以前まで見られていた行動問題が減少し、適切な対処法を身に付けられるようになったことで、児童自身も学校生活を送りやすくなった。

このことから、児童の願いに寄り添った関わりは、指導・支援の基本であるラポールの形成につながり、結果として、児童の自己肯定感や生きやすさにつながっているといえる。

2 環境因子へのアプローチ

(1) 全校ソーシャルスキル教育の実施

ア 全校ソーシャルスキル教育集会

本校の児童のさらに伸ばしたい力として、「自分で考え、行動する」「つまずいたときに上手に対処する」が学校経営・運営ビジョンに挙げられている。また、本校の現状として、

自分の気持ちを適切に伝えたり、人間関係を形成することが不得手だったりする児童が多くなってきている。ソーシャルスキルは、身近な人とのふれあいを通して自然に見つけていくものであるが、子どもたちの遊びが変化していることも影響し、近年は自然にソーシャルスキルを身に付けていくことが難しくなっている。そのため、特別支援学級に在籍している児童だけでなく、学校全体にソーシャルスキル教育を行うことが必要であり、そのことが「自分で考え、行動する」「つまずいたときに上手に対処する」力を伸ばすことにもつながると考えた。また、学校全体で共通のソーシャルスキルを学ぶことで、コミュニケーションの苦手さを抱える自閉スペクトラム症の特別支援学級の児童にとっても、自立活動で学んだスキルを生かしやすい環境づくりになると考えた。

学校生活の中での般化の場との関連を考えながら、全校ソーシャルスキル教育（以下、全校 SSE）の年間指導計画を作成【資料6】し、月に1回、月曜日の朝に学びの場を設定した。上野・岡田（2006）が示している「教示」「モデリング」「リハーサル」「フィードバック」「般化」を1つのセッションとし、毎回ターゲットスキルを示し、学習を行った。（写真4）モデリングを提示するときには、特別支援学級の児童に協力してもらうことで、児童の自己有用感の向上と自立活動の学びの伸張につなげた。（写真5）また、取り組んだターゲットスキルは、廊下に掲示し、日常生活の中で児童が目に触れることができるようにした。（写真6）



写真4 全校 SSE の様子



写真5 児童が参加している場面



写真6 廊下の掲示物

その結果、第6学年学級活動「学級の問題を話し合おう」の「陰口をなくしたい」というテーマの中での、児童から「自分に合った解決方法を見つけてストレス発散をすることも大切」「無理にため込まないで言い方を工夫して言うのが大切」などの自他を大切にする心が感じられる意見が出たり（写真7）、特別支援学級の児童からも「みんながコツが分かってうれしい」という感想（写真8）が聞かれたりした。

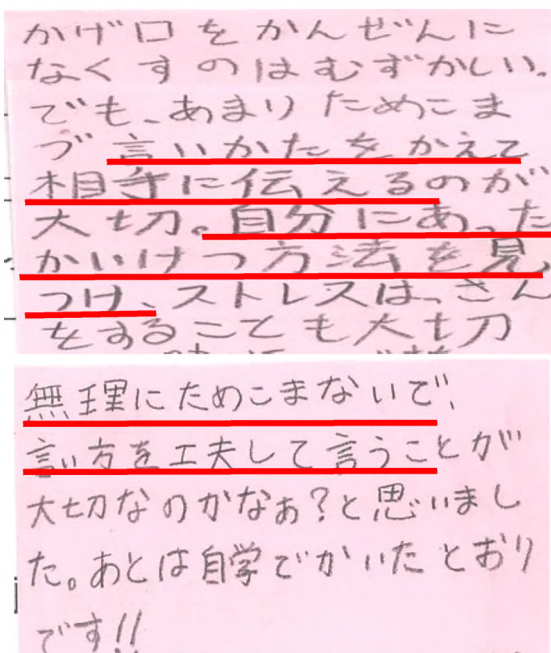


写真7 6年生の児童の付箋への記述

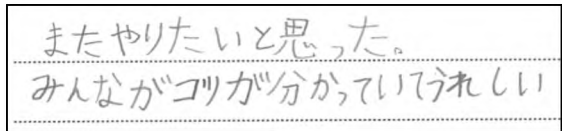


写真8 全校 SSE についてどう思うかという問いに対しての特別支援学級の児童の感想

このような児童の様子から、少しずつコミュニケーションのコツが根付き、日常生活でお互いを大切にする姿勢が育ってきているといえる。

イ 理解啓発授業

また、学級活動の時間において、各学年の発達段階に応じた理解啓発授業を年1回ずつ特別支援教育コーディネーターとして行った。第2学年では、「感じ方の違いを知ろう」という内容で、特別支援学級コーディネーターと学級担任と一緒に授業を行った。行動の背景には理由があり、その背景に目を向けて相手の気持ちを考えることが大切だということを学習した。振り返りでは、みんなが気持ち良く過ごすためにはどんなことに気を付ければいいのかを話し合い、「困っていることは何かを考え、自分達にできることをする」や「協力して助ける」などの意見が出された。（写真9）授業を通して、改めて相手の気持ちを考えて行動することの大切さを伝えることができた。



写真9 理解啓発授業の様子

(2) 特別支援教育だよりの発行 ア 紙面を通しての共通理解の実施

Iの1で前述したように、インクルーシブ教育システムの構築のためには、特別支援教

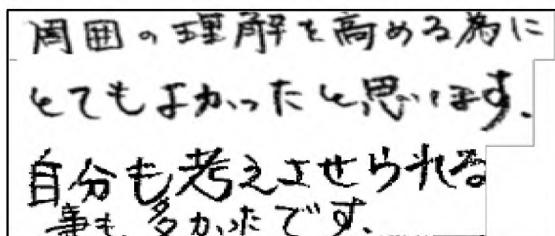
育の推進についての基本的考え方を、学校教育関係者をはじめとして、児童に関わるすべての人が共有していくことが必要である。

そこで、児童や保護者一人ひとりの願い、思い、悩みに寄り添いながら、家庭、地域、学校が力を合わせて児童の成長を応援していただけるようにすることを目的として、月1回特別支援教育だより『Colorful』を発行することとした。

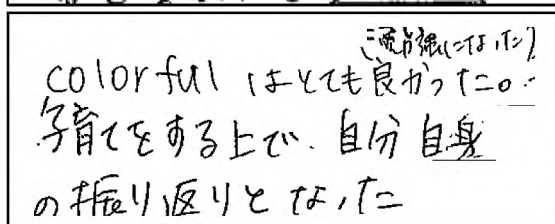
「援助要求スキルの重要性」「苦手をサポートするアイデア」「IメッセージとYOUメッセージ」「継次処理と同時処理」「全校SSEでの実践内容」「気分転換の仕方」「声かけの工夫」「多様な学びの場の共通理解」など、多岐にわたるテーマで情報の発信を行った。テーマの選定においては、本校の児童や保護者の実態、学校行事との関連、季節性との関連などに考慮した。【資料7】

定期的に発信を続けたところ、授業参観の際に、「子どもと一緒に読んでいます。次も楽しみにしています。」と声をかけてくださる保護者がいたり、廊下ですれ違った際に、「この前のカラフルの気分転換の方法、家族でやってみました。」と声をかけてくれる児童がいたりするなど、口頭だけでなく視覚情報として発信することの効果を感じた。

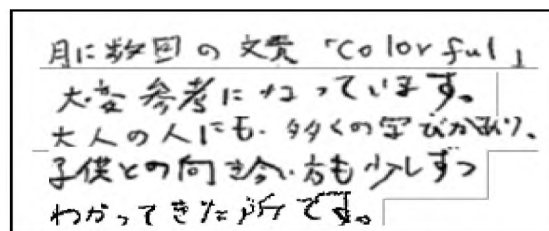
教職員と保護者を対象に行った特別支援教育についてのアンケート回答においても、特別支援教育だよりについて肯定的な意見が多く見られた。(写真10)



周囲の理解を高める為にも
よかったと思います。
自分も考えさせられる
事も多かったです。



Colorful はとても良かった。
子育てをする上で、自分自身の
振り返りとなった。



月に数回の文集『Colorful』
を参考にしています。
大人の人にも、多くの学びがあり、
子供への向き合い方も少しずつ
わがってきた所です。

写真10 アンケートの記述より抜粋

学校生活の中に留まらず、家庭を巻き込んで人的環境を整えていくことで、学校と家庭で一貫性をもって子どもと接することができた。共通理解を図る上で、特別支援教育だよりの発行は有効だったといえよう。

(3) くつろぎルームの設置

ア 関わりの広がりの方

アメリカの教育現場では、1つの教室の中で個々の子どもの学び方に合った内容で複数の学習活動が展開されている。障がいのない子どもが障がいのある子どものことや、個々に応じた学び方について自然に理解する機会が日常の学習環境の中にあることは、非常に重要である。このような学習環境が早期からあることは、障がいに対する態度にも影響を及ぼす。

障がいの有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指し、障がいの有無にかかわらず、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となる交流及び共同学習の実施は、本校でも行っているところである。それに加えて、上記で述べた自然な交流が生まれる場所を休み時間などを含めた教育活動全体を通して設置することは、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む上で、さらなる効果を生むのではないかと考えた。

また、場づくりの工夫によって、特別支援学級と通常学級の間にある見えない境界線をなくすことは、児童の中の違いの意識にも変化をもたらすのではないだろうか。交友関係が固定されがちな特別支援学級の児童にとっ

ても、様々な児童と関わる機会を提供することで、コミュニケーションの広がりを見せる一助となると考えた。

そのため、特別支援学級に隣接している空き教室に「くつろぎルーム」を設置することとした。特別支援学級とつながっている教室を利用することによって、特別支援学級の生活の様子や環境も、自然と他の児童の目に触れられるようにした。

校内の共通理解として、休み時間は誰でも自由に過ごしていい場所として開放するとともに、授業中は落ち着いて学習したい児童やクールダウンに活用したい児童が使用できる場所とした。

また、コミュニケーションのきっかけとなるようなボードゲームをいくつか用意したり、大きめのテーブルを用意したりすることで、児童が足を運びやすくなるような環境整備を行った。(写真11) くつろぎルームの約束を目に見える位置に掲示することで、ソーシャルスキルも意識して関わり合うことができるようにした。(写真12)



写真11

くつろぎルームに用意したボードゲーム

写真12

くつろぎルームでの約束の掲示

設置当初は、特別支援学級の児童と仲のよい児童や通級指導教室を利用している児童が中心の来室だったが、現在では、様々な学年の児童が来室し、関わり合う場所となっている。今まで関わりのなかった異学年の児童同士の交流が増えたことで、人間関係の広がり

が見られるようになった。その中で、一人遊びが多かった特別支援学級の児童も、自立活動で学習したソーシャルスキルをいかしながら、自然にボードゲームなどの遊びに参加することができるようになり、良好なコミュニケーションの成功体験を積むことができた。児童の言葉からも、関わりが増えたことへの喜びが感じられる。(写真13)

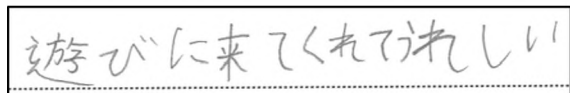


写真13 くつろぎルームについての特別支援学級の児童の感想

イ 個別の教育的ニーズに応じた使用

クールダウンの場所の1つとしたことによって、これまで日によって様々な場でクールダウンをして教師の目から逃げるようにしていた児童も、「くつろぎルーム」が安心して落ち着ける場となり、「落ち着いたので戻ります」と、自分の気持ちと折り合いをつけるスキルの高まりが見られるようになった。(写真14)



写真14

クールダウンスペース

そして、学習面で困難さを抱える児童にとっても、フレキシブルな学びの場として機能している。例えば、他の児童の様子が気になって集中できない児童がテストをくつろぎルームで受験したり、不登校傾向の児童が登校した際に安心して過ごせる場としてくつろぎルームを利用し、担任や通級指導教室担当の教員と安心して学習を進めたりしている。

このような関わりの変化を通して、多様な学びの場があることの理解が児童の中で育ってきている。(写真15・写真16)



写真15 特別支援学級の児童が作った工作で遊ぶ様子



写真16 くつろぎルームでの休み時間の様子

IV 研究の成果と課題

本実践を通して、次の成果と課題が明らかになった。

〔成果〕

- 自立活動において学習した内容を、教育活動全体を通して意識できるようにする活動を取り入れたことは、児童の自己の理解を高める上で有効であった。自立活動を通して個人因子に丁寧にアプローチすることの有効性は、児童の「ソーシャルスキルアイテムが楽しかったです。」「自立の学習が楽しみです。」「次の自立ではどんな学習をするんですか。」という発言からも、自立活動が児童にとって重要な学びになっていることが判断できる。
- 児童の願いに寄り添った関わりは、「自分を大切にしてもらえている」、「自分のことを分かってくれている」という児童の思いにつながった。児童の願いに着目すること

は、ラポールを形成する上で有効であった。ラポールの形成が行動変容にもつながった。

- 全校ソーシャルスキル教育の場で、特別支援学級の児童が前に立ってモデルを見せる場面を設定したことは、特別支援学級の児童が学んだことを生かせるようにするための一助とする上で有効であった。全校の前での活躍は、児童の自信になり、自己有用感の向上にもつながった。
- 特別支援教育だよりの発行は、特別支援教育の理解啓発だけでなく、障がいの有無に関わらず、児童のメンタルヘルスを学校と家庭で考えていく上で、有効であった。
- くつろぎルームの設置は、特別支援学級と通常学級の間にある見えない境界線をなくす上で有効であった。また、特別支援学級の児童のコミュニケーションを広げていく上でも有効な場となり、自然な関わりの中でソーシャルスキルを生かすことができていた。

〔課題〕

- 全校ソーシャルスキル教育は、人間関係を形成する中で必要なスキルについて全職員で共通理解を図って指導を進めていく上で有効であった。しかし、定着を目指す般化の段階に各学年によっての差が見られた。教職員に般化を促すためのアクティビティを紹介するなどの手立てが不十分であった。
- 特別支援教育だよりの発行は、家庭を巻き込んで人的環境を整えていくための共通理解を図る上で、有効だった。理解を地域全体に広げていくためには、情報発信の工夫が不十分であった。今後は、学童保育や放課後子供教室のスタッフにも情報を発信し、理解を地域全体に広げていけるようにしていく必要がある。
- 教職員間で、支援や指導の共通理解を図っていくには、研修や伝達だけでなく、教職員同士の信頼関係の構築を基盤とした日頃の取り組みの共有が重要である。

V おわりに

私の座右の書である『はじめに子どもありき（平野朝久著）』の中に、「子どもが自分の頭で考え、自分の感覚で感じ、自分の心で思い、自分の意志で行動して、自分の持てる力を発揮した時に、その子どもの個性が発揮される」という記述がある。子どもの持てる力を発揮できる環境づくりには、アセスメントにより適切に子どもの姿を捉えることが、出発点である。その上で、障がいの有無に関わらず、ICF の考え方を生かして子どもを見立てていくことは非常に重要である。目の前の子どもと真摯に向き合い、子どもの可能性を信じる実践を今後も大切にしていきたい。

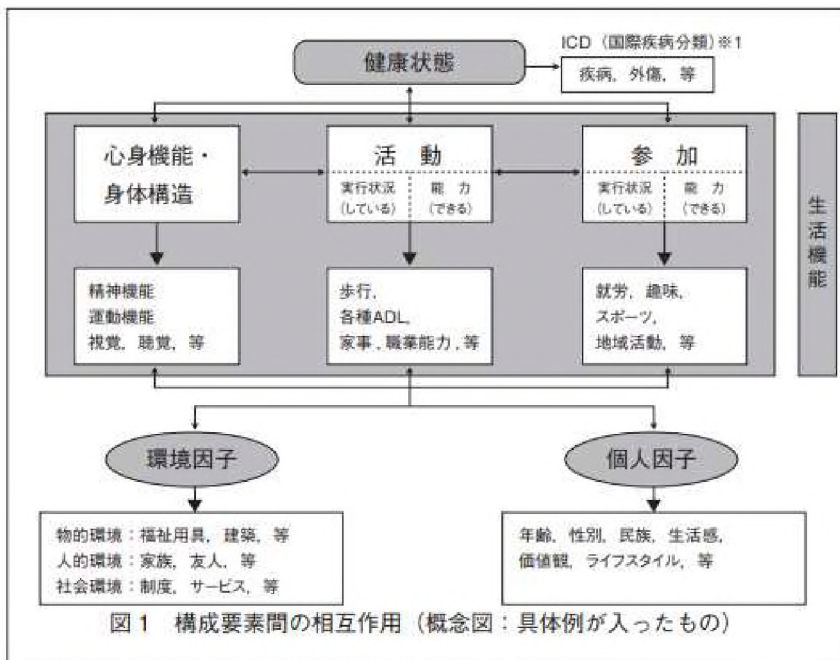
【参考文献】

- ・文部科学省（2005）『特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）』
- ・文部科学省（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』
- ・文部科学省（2012）『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』
- ・文部科学省（2023）『特別支援教育の充実について』
- ・文部科学省（2021）『新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（報告）』
- ・文部科学省（2021）『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』
- ・伊藤健太郎（2019）『子ども・クラスが変わる！ソーシャルスキルポスター 通常学級でもできるソーシャルスキルトレーニング』
- ・太田千瑞（2019）『イラスト版子どもの発達サポートヨガ気持ちを整え集中力を高める呼吸とポーズ』
- ・井上祐紀（2020）『ストレングス・トーク 行動の問題をもつ子どもを支え・育てる』
- ・伊佐貢一（2014）『学級づくりがうまくいく

全校一斉方式ソーシャルスキル教育 小学校』

- ・上野一彦・岡田智（2006）『【特別支援教育】実践ソーシャルスキルマニュアル』
- ・文部科学省（2019）『諸外国における特別支援教育の状況について（新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 資料）』

【資料1】



(出典) 厚生労働省大臣官房統計情報部編「生活機能分類の活用に向けて」

※1 ICD (国際疾病分類) は、疾病や外傷等について国際的に記録や比較を行うためにWHO (世界保健機関) が作成したものである。ICD が病気や外傷を詳しく分類するものであるのに対し、ICF はそうした病気等の状態にある人の精神機能や運動機能、歩行や家事等の活動、就労や趣味等への参加の状態を環境因子等のかかわりにおいて把握するものである。

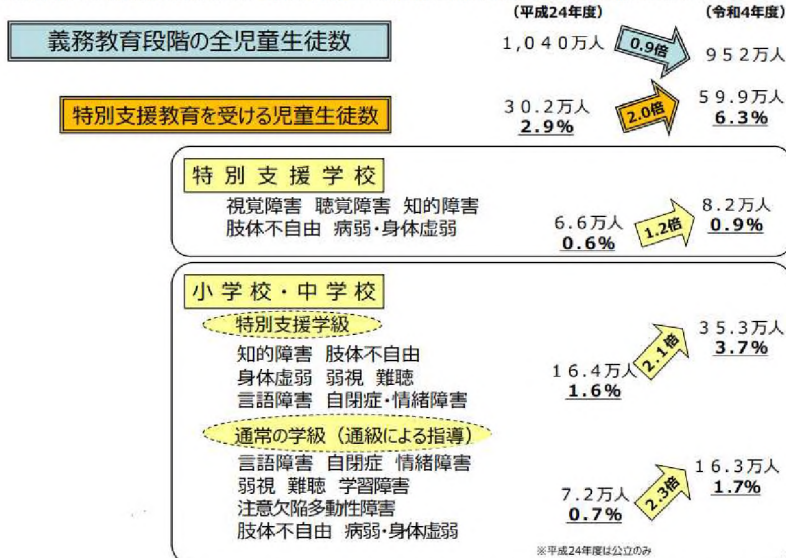
文部科学省(2018)『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』

【資料2】

特別支援学校等の児童生徒の増加の状況(H24→R4)



- 直近10年間で義務教育段階の児童生徒数は1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数は倍増。
- 特に、特別支援学級の在籍者数(2.1倍)、通級による指導の利用者数(2.3倍)の増加が顕著。



※通級による指導を受ける児童生徒数(16.3万人)は、R2年度の値。H24年度は5月1日時点、R2年度はR3.3.31時点の数字。

文部科学省(2023)『特別支援教育の充実について』

【資料3】

南会津教育事務所 令和5年度 学校教育指導の重点

「令和5年度 学校教育指導の重点（福島県教育委員会）」に基づき、その全般的な推進を図りつつ、南会津域内の課題を踏まえて、次の重点を置きます。

南会津が目指す教育の基本理念
自立と共生～南会津がつむぐ『南会津ならではの』学校教育～

生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育

- 【県指針1】 生きる力の基礎を育む教育・保育の充実と幼児期における資質・能力の育成
→南会津： 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を小学校教員と共有していく幼児教育から小学校教育への円滑な接続
【県指針2】 園種、年齢や発達のプロセスを踏まえた教育課程の編成と指導計画の作成
→南会津： 園の実態や幼児一人一人の発達の実情を踏まえた長期的・短期的に見通しをもった指導計画の作成と改善
【県指針3】 家庭や地域社会等との連携を生かした特色ある園づくりの推進
→南会津： 家庭との連携を図り、地域資源を積極的に活用した豊かな生活体験活動の展開

児童生徒一人一人が未来の創り手となる小・中学校教育

- 【県指針1】 急激な社会の変化の中でも通用する資質・能力の育成を図る学習指導の工夫・改善
→南会津： 「自ら学ぶ子供の育成リーフレット」の8つのポイントを意識した授業改善
【県指針2】 道徳や体験活動を重視した豊かな人間性・社会性の育成と体育・健康に関する指導の充実
→南会津： 児童生徒、学校や地域の実態を踏まえた道徳教育重点目標の設定と指導内容の重点化
→南会津： 「自分手帳」を活用し健康マネジメント能力を育むための組織的・総合的な指導・取組の推進
【県指針3】 「社会に開かれた教育課程」の実現と家庭や地域社会とともにある学校づくり
→南会津： 地域社会と「目指す姿」を共有し連携・協働して児童生徒を育成する体制づくり

生徒一人一人の進路実現を図る高等学校教育

- 【県指針1】 教育内容・方法の改善・充実
→南会津： 指導内容を精選し、個に応じた指導などの指導方法の工夫改善による基礎的・基本的な内容の確実な定着
【県指針2】 ICT活用などによる学びの変革
→南会津： 紙とデジタルの双方のよさを取り入れた個別最適化された学びの充実
【県指針3】 自己指導能力の育成を目指した生徒指導の充実
→南会津： 適応指導の充実並びに人間としての在り方生き方に関する指導の充実
【県指針4】 キャリア教育の視点に立った進路指導の推進
→南会津： 望ましい勤労観・職業観の育成並びに将来を見通した進路意識の啓発
【県指針5】 体育・健康に関する指導の充実
→南会津： 小・中学校での学びを生かし自らの健康を適切に管理・改善していく資質・能力の育成

連携・交流

連携・交流

「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進する特別支援教育

- 【県指針1】 連続性のある多様な学びの場を重視した対応
→南会津： 個別の指導計画等を活用した個々の学習状況の明確化、学年・学校間の円滑な接続
【県指針2】 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実
→南会津： 教育的ニーズの3つの観点（①障がいの状態等、②特別な指導内容、③教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容）を踏まえた適切な教育の提供
【県指針3】 自立と社会参加に向けた教育の充実
→南会津： 卒業後の姿をイメージし、地域・関係機関等と連携を図るキャリア教育の充実

福島県教育庁南会津教育事務所『令和5年度学校教育指導の重点』

【資料4】

新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告

令和3年1月

I. 特別支援教育を巡る状況と基本的な考え方

- ・障害者権利条約批准に基づく障害者基本法、障害者差別解消法等の関連法の整備も進み、インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の取組が進展。
・特別な支援を受ける子供の数が増加する中で、特別支援教育をさらに進展させていくため、
① 障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられる条件整備
② 障害のある子供の自立と社会参加を見通し、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備
を着実に進める。これらを更に推進するため、それぞれの学びの場における各教科等の学習の充実を図るとともに、
・障害のある子供と障害のない子供が、年間を通じて計画的・継続的に共に学ぶ活動の更なる拡充
・障害のある子供の教育的ニーズの変化に応じ、学びの場を変えられるよう、多様な学びの場の間で教育課程が円滑に接続することによる学びの連続性の実現
これにより、障害の有無に関わらず誰もがその能力を発揮し、共生社会の一員として認め合い、支え合い、誇りを持って生きられる社会の構築を目指す。

II. 障害のある子供の学びの場の整備・連携強化

- 1. 就学前における早期からの相談・支援の充実
・乳幼児健診や5歳児健診の活用など早期からの相談・支援
・就学相談における保護者への情報提供の充実
・就学相談や学びの場の検討等を支援する教育支援資料の内容を充実
2. 小中学校における障害のある子供の学びの充実
・特別支援学級と通常の学級の子供が共に学ぶ活動の充実
・自校で専門性の高い通級による指導を受けるための環境整備
・通級による指導等の多様な学びの場の在り方の更なる検討
3. 特別支援学校における教育環境の整備
・学習指導要領の着実な実施のための文部科学省著作教科書（知的障害者用）の作成
・ICTを活用した在宅就労など新たな職域に係る人材育成の強化
・副次的な種やICTを活用した児童生徒の居住する地域の学校との交流促進
・集中的な施設整備、特別支援学校に備えるべき施設等を定める設置基準の策定
・特別支援学校のセンターの機能（他の学校への支援）の強化
4. 高等学校における学びの場の充実
・通級による指導の充実等に向けた指導体制の確立
・個別的教育支援計画等を活用した義務教育段階との丁寧な引継ぎによる、合理的配慮の提供など特別支援教育の充実
・特別支援学校や就労関係機関と連携した発達障害等のある生徒の就労支援等の充実

III. 特別支援教育を担う教師の専門性の向上

- 1. 全ての教師
・全ての教師が発達障害等の特性を踏まえた学級経営・授業づくりを明確、校内人材を活用したOJTによる支援体制の充実
・特別支援教育に係る資質を教員育成指標に位置付け
・小・中・高等学校と特別支援学校間の人事交流の推奨
2. 特別支援学級、通級による指導の担当教師
・OJTやオンラインなど参加しやすい研修の充実
・小学校等教職課程において、特別支援学校教職課程の一部単位の修得を推奨
・特別支援学校教諭免許取得に向けた免許法認定講習等を活用した担当教師の専門性向上
3. 特別支援学校の教師
・重複障害や発達障害等への対応を含む特別支援学校教職課程の見直し、コアカリキュラムの策定
・特別支援学校教諭免許取得に向けた優良事例の収集・周知、免許法認定通信教育の実施主体の拡大の検討

IV. ICT活用等による特別支援教育の質の向上



- 1. ICT活用の意義と基本的な考え方
・指導内容の充実、障害者の社会参画促進、QOLの増進、教師の負担軽減・校務改善等の幅広い観点で踏まえて着実に対応
2. 指導の充実と教師の情報活用能力
・オンラインを活用した自立活動の実践的研究
・文部科学省著作教科書のデジタル化等の推進
・教師のICT活用スキルの向上
3. ICT環境の整備と校務のICT化
・学校におけるICTの利活用体制の整備
・特別支援教育の校務のICT化（項目の標準化に向けた参考となる資料の提示）
4. 関係機関の連携と情報の共有
・セキュリティ等に配慮しICTを活用した情報連携

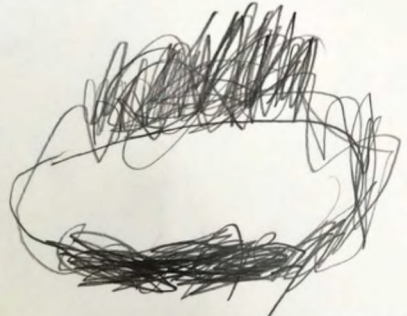

V. 関係機関の連携強化による切れ目ない支援の充実

- 1. 就学前からの連携
・地域で切れ目ない支援を受けられる連携体制の整備
2. 在学中の連携
・就労関係機関と連携した早期からのキャリア教育の実施、小中学校等と関係機関との連携促進
3. 卒業後の連携
・教育、福祉、労働等の個別支援計画を活用した一体的な情報共有
4. 医療的ケアが必要な子供への対応
・医療的ケアを行う看護師の配置拡充と法令上の位置付けの検討
・中学校区に医療的ケア実施拠点を設置
5. 障害のある外国人児童生徒への対応
・「外国人児童生徒等の教育の充実について（令和2年3月）」を踏まえた取組の推進

文部科学省(2021)『新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告』

【資料5】児童が考えたオリジナルソーシャルスキルmonsterとアイテム

<p>ソーシャルスキルmonsterネーム イラッコ</p>	<p>ソーシャルスキルアイテム イライラストップ(にこにこスマイル)</p>
	
<p>いたずらフォースによる^{こうりょく}効力 心の中をイライラさせる</p>	<p>^{せいりょう}性能・^{こうか}効果 イライラを止めさせる</p>
<p>^{しゅつげんばめん}出現場面 イライラしてる時</p>	<p>^{しやうじやう}使用上の^{ちゆういてん}注意点 いつもおだやかにいこう!</p>

<p>ソーシャルスキルmonsterネーム けむし</p>	<p>ソーシャルスキルアイテム つりがお</p>
	
<p>いたずらフォースによる^{こうりょく}効力 すたれすが^かまる</p>	<p>^{せいりょう}性能・^{こうか}効果 はりごぶさず</p>
<p>^{しゅつげんばめん}出現場面 いらいらしたとき</p>	<p>^{しやうじやう}使用上の^{ちゆういてん}注意点 ふりまかせない</p>

【資料6】

全校SSE（ソーシャルスキル教育）年間指導計画

日程	SSEのねらい	具体的なスキル	留意事項	全共通版化の場
4/17	ソーシャルスキルを学ぼう ○ソーシャルスキルとは何か、なぜソーシャルスキルを学ぶのかを理解する。 ○時・場のよいあいさつをしよう ○あいさつは、人と人をつなぐ大切な言葉であることを理解する。 ○場と場に応じたあいさつの仕方をつける。	○オオカミの言い方（攻撃的な言い方） ○わたしの言い方（主張的な言い方） ○リスの言い方（消極的な言い方） ○だれにでも ○相手の目を見て ○ちやうどよい声ではっきりとあいさつする	・オオカミやリスの言い方をしなないように気をつける こと もソーシャルスキルである。 ・用語を用いる場合は、その意味を説明する。 ・好ましいあいさつをする中で心地よさを味わう。 ・3つのスキルについて、自分の行動を振り返る。 ・言葉をかけても、適切に対応しないことをモデリングし、よくない行動であることを気付かせる。	☆登下校時 ☆来校者 ☆生活科、総合的な学習の時間 ☆運動会 ☆授業中 ☆なかよしタイム
5/15	友達の話を上手に聴こう ○「聴く」ことは積極的な活動であり、人間関係を築く上で大切であることと理解する。 ○上手な聴き方の4つのスキルを身につける。	○今していることをやめる ○相手の目を見る（目を見る） ○応答する（うなずき、相づち、返事） ○最後まで話を聴き、関係のあるコメントを返す ○目標を決める ○方法を考える ○やってみる ○見直しをする	・相手の話を聴くことは、能動的な作業であり、受動的に話を聴いてももう心地よさを感じさせる。 ・授業場面だけでなく、日常の友達との会話でいかされるようにする。	☆夏休みの計画
7/10	目標を大切にするためのやり方を身につけよう ○PDCAサイクルの手順を理解する。 ○目標を達成するまでの取り組み方を身につける。	○近づく ○きちんと見る ○聞こえる声で言う ○笑顔で言う ○相手の言うことを受け止める ○「わかったよ」「やってみます」などの前向きな言葉を返す	・「自分も相手も大切にしたい伝え方」について理解する。 ・具体的な場面を取り上げて、その場に応じた適切な伝え方や仲間への入り方を考え、適切なスキルを身につける。	☆休み時間 ☆なかよしタイム ☆授業中
8/28	仲間に入り方・誘い方のスキルを身につける。 ○自分の気持ちの伝え方と友達を誘うことの大切さや誘い方を理解する。 ○仲間の入り方・誘い方のスキルを身につける。	○相手の言うことを受け止める ○「わかったよ」「やってみます」などの前向きな言葉を返す	・「上手な話の聞き方」との関連を図る。	☆授業中
9/11	相手がうれしくなる反応の仕方を身につけよう ○どんな反応をすれば相手が増しよくなるかを理解する。 ○アドバイスをもらったときの反応の仕方を身につける。	○ほめる「上手だね」「すごいね」 ○感謝する「ありがとうございます」「助かったよ」	・あなたがいいメッセージを言うこと以上に、冷たいメッセージを言わないことが大切であることを理解する。 ・冷たいメッセージのリハーサルは、原則として行わない。	☆学習発表会 ☆授業中
10/23	あなたがいいメッセージと冷たいメッセージが相手に与える影響を理解する。 ○あなたがいいメッセージの伝え方を身につける。 ○あなたが冷たいメッセージの伝え方を身につける。	○気づかう「どうしたの」「だいじょうぶ」 ○前まず「がんばってね」「心配ないよ」 ○冷たいメッセージを回避する	・あなたがいいメッセージを言うこと以上に、冷たいメッセージを言わないことが大切であることを理解する。 ・冷たいメッセージのリハーサルは、原則として行わない。	☆長縄 ☆授業中
11/13	友達の気持ちを伝えて、あなたがいいメッセージを伝え合おう ○気持ちを分かち合うことの大切さや気持ちを伝えることの大切さを理解する。 ○相手の気持ちを察し取り、相手の気持ちを伝えてあなたがいいメッセージを伝える。	○気持ちを分かち合う ○相手の気持ちを考える ○あなたがいいメッセージを送る	・「あなたがいいメッセージ」と「上手な聞き方」との関連を図る。 ・ハイタッチや笑顔などの非言語的なスキルについてもかかれる。	☆6年生を送る会 ☆卒業式
12/11	不平不満の言い方を身につけよう ○不平や不満があるときは、自分の考えや気持ちを「わたしの言い方」で伝えることが大切であることを理解する。 ○不平や不満の言い方を身につける。	○深呼吸をする ○不平・不満の事実を伝える ○気持ちや困っていることを伝える ○提案があれば述べる	・自分のわかままと不平や不満を伝えることを混同しないように、具体的な場面でよく考えるように伝える。	☆日常生活の中
1/15	場に応じた行動を考えよう ○場面ごとの行動を考える練習をする。 ○場面に応じた行動を考える練習をする。	○近づいていきかける ○場合によっては静かに離れる	・相手の状況や気持ち、場面によって、適切な行動は変わってくることを伝える。	☆日常生活の中
2/5	1年間で学んだスキルを振り返ろう	・学年の実態に応じて、実施する。	・般化の場面を大切に、教員と児童によるフィードバックを行う。	
3/4				

○ その他
 ・全校での学びとして「言語的指示（言ってみせ）」「モデリング（やってみせ）」を、学級での学びとして「リハーサル（させてみて）」「フィードバック（ほめる）」を行う。そして、学んだスキルを日常生活の中で実践できるようにし、定着化を促す。
 ・全校SSEで取り組んだターゲットスキルは、順下に掲示する。

【資料7】特別支援教育だより「Colorful」の一部

令和5年度
南郷小学校特別支援教育通信
令和5年3月号 No.10
文責 横田 みなみ
1年間 お言葉かけが
ありゆたうだと思います。

Colorful

心の緊張をほぐす

今年度も残りわずかとなりました。いろいろな変化に交錯しながら過ごさる月4月は、普段より緊張を感ずやすい時期です。心をリラックスさせたいときは、まず身体をゆるめましょう。体の緊張がほぐれると、自然とハモリ、グスでます。今回は、手車塾にできる「緊張をほぐす法(さんしゅうほぐす)」を紹介し、ぜひ家族でやってみてください。

腕の緊張
①両手を前にまっすぐ伸ばす。
②手のひらを前に向け、背筋を伸ばす。
③この動きを繰り返す。
④肩甲骨を動かす。
⑤肩甲骨を動かす。
⑥肩甲骨を動かす。
⑦肩甲骨を動かす。
⑧肩甲骨を動かす。
⑨肩甲骨を動かす。
⑩肩甲骨を動かす。
⑪肩甲骨を動かす。
⑫肩甲骨を動かす。
⑬肩甲骨を動かす。
⑭肩甲骨を動かす。
⑮肩甲骨を動かす。
⑯肩甲骨を動かす。
⑰肩甲骨を動かす。
⑱肩甲骨を動かす。
⑲肩甲骨を動かす。
⑳肩甲骨を動かす。
㉑肩甲骨を動かす。
㉒肩甲骨を動かす。
㉓肩甲骨を動かす。
㉔肩甲骨を動かす。
㉕肩甲骨を動かす。
㉖肩甲骨を動かす。
㉗肩甲骨を動かす。
㉘肩甲骨を動かす。
㉙肩甲骨を動かす。
㉚肩甲骨を動かす。
㉛肩甲骨を動かす。
㉜肩甲骨を動かす。
㉝肩甲骨を動かす。
㉞肩甲骨を動かす。
㉟肩甲骨を動かす。
㊱肩甲骨を動かす。
㊲肩甲骨を動かす。
㊳肩甲骨を動かす。
㊴肩甲骨を動かす。
㊵肩甲骨を動かす。
㊶肩甲骨を動かす。
㊷肩甲骨を動かす。
㊸肩甲骨を動かす。
㊹肩甲骨を動かす。
㊺肩甲骨を動かす。
㊻肩甲骨を動かす。
㊼肩甲骨を動かす。
㊽肩甲骨を動かす。
㊾肩甲骨を動かす。
㊿肩甲骨を動かす。

4月は、新しく靴ひもを糸結び気分です。まずはのんびり立ち上がり、春の空気を楽しみましょう。
健康第一！体と心の安全に
まずは今日安全に

令和4年度
南郷小学校特別支援教育通信
令和4年11月号 No.7
文責 横田 みなみ

Colorful

全校SSEに取り組んでいます

2学期から新たに「全校SSE」に取り組んでいます。SSEとは、社会技能(ソーシャルスキル)を学ぶ取り組みです。1回目は、「上手な聞き方」、2回目は、「やさしい頼み方」について学びました。先生方の演じるモデルを見て、大切なポイントを子ども達に考えてもらいました。1回目と2回目目で学んだポイントを紹介いたします。

上手な聞き方
○今していることをやめる。
○相手を見る。
○反応する。
○最後まで聞き、最後にあなたの言葉を返す。

やさしい頼み方
○理由を言う。
○頼みたいことを伝える。
○原真う気持ちを伝える。
○感謝の言葉を伝える。

研究主題及び副主題

レジリエンスを身につける生徒の育成

～保健室での個別指導と集団指導を関連させた

メンタルヘルス教育を通して～

猪苗代町立猪苗代中学校 養護教諭 松本 冴加



I 研究の構想

1 主題設定の理由～生徒の実態から～

近年、核家族世帯の増加やSNSの普及、コロナ禍での感染予防を意識した生活などにより子どもを取り巻く人間関係や生活環境は大きく変化している。そして、その中で生きる子どもたちは、日々様々な問題やストレスを抱え、心身の健康を維持することが難しい状況にある。児童生徒の心身の健康については、第7次福島県総合教育計画にも示されているように、心のケアが必要な子どもが存在していること、不登校児童生徒が増加していること、肥満傾向児の割合が増加していることなどが課題となっている。本校においても不登校生徒の増加、肥満傾向児の割合の増加は課題である。加えて、不登校に至らないまでもそれぞれの家庭環境、人間関係等の問題に直面するたびに自身でうまく対処できないことにより、そのストレスが健康状態にまで影響を及ぼしている生徒がいる。以下に養護教諭が着任した令和2年度からの保健室来室件数を示す(図1)。

	令和2年度 (全校生 206名)	令和3年度 (全校生 203名)
病気	1633 1人当たり 7.92回/年	1338 1人当たり 6.59回/年
健康相談 活動	352 1人当たり 1.7回/年	342 1人当たり 1.68回/年
けが	624 1人当たり 3.02回/年	928 1人当たり 4.57回/年
合計	2609 1人当たり 12.66回/年	2608 1人当たり 12.84回/年

図1 保健室来室件数

けがの項目には体育や部活動等での受傷だけではなく、リストカットをはじめとした自傷行為も数件含まれる。また相談内容は身体面・精神面・家庭環境等、多岐にわたり、それらが複雑深刻化し、頭痛や腹痛などの身体症状にまで及んでいるケースもあった。このような現状に加え、令和4年度に猪苗代中学校、東中学校、吾妻中学校の3校が統合され、生徒たちを取り巻く環境が著しく変化した。この統合によって、新しい人間関係や生活環境といった大きな変化や問題に柔軟に対処できない生徒が増加することが予想された。

これらのことを踏まえ、保健室経営における個別指導や対応にとどまらず、講演や授業等を含めた集団へのメンタルヘルス教育を推進することにより、問題解決のために柔軟に適応することのできる生徒を育成することができると考え、本主題を設定した。

2 研究主題について

近年、教育現場において「レジリエンス」という概念が注目されている。齊藤ら(2009)は、「レジリエンス」を「心理学的な意味においては、“弾力性・回復力”などと訳されることが多く、心理的ホメオスタシス(psychological homeostasis)として、ストレスに曝露されても心理的な健康状態を維持する力、あるいは一時的に不適応状態に陥ったとしても、それを乗り越え健康な状態へ回復していく力」と述べている。

本研究ではレジリエンスを「しなやかに適応する力、回復する力、打たれ強い心」といった意味と解釈し使用する。アメリカ心理学会 (American Psychology Association: APA) は、レジリエンスについて「回復力が高まると、困難な状況乗り越えるだけでなく、途中で成長し、人生を改善することもできる」と述べている。加えて、小林ら(2019)は、「発達的にも小学4年生から中学にかけてレジリエンスが低下しやすい」こと、中嶋(2018)が「1人1人が、些細なことではビクともしない強い心を持ち、困難な状況も前向きに捉えて切り抜けていくしなやかさを持ち合わせることができれば、ひきこもりやいじめ、暴力や犯罪につながる行為などは、おのずと影を潜めていく」、「今、子どもたちに必要なのは、折れない心やがんばり通す力、回復力」と述べている。これらのことから、様々なストレスにしなやかに適応する力や打たれ強い心であるレジリエンスを学校教育で身につけさせることが重要なのは明らかである。また、石田ら(2022)が、レジリエンス向上のための指導について「学校現場でこの指導の役割を中心的に果たしていくのが養護教諭」であり、「養護教諭の日常活動がレジリエンスを高めるための関わりになっている」と述べている。養護教諭の保健室の機能を生かした個別指導や保健学習・保健指導等の集団指導といった積極的な保健教育活動がレジリエンスを身につけるためには有効であると考えられる。加えて、養護教諭として県教育委員会主催の教育相談コーディネーター研修会等にも参加し、個別指導や健康相談活動に関しての知識を得ている。そして、アメリカ心理学会はレジリエンス育成のための10の方法として、「他者との関係性を築くこと」「危機を乗り越えられない問題であるとは捉えないこと」「自分に対してポジティブな認知をもつこと」「希望に満ちた見方をもつこと」「自分自身を大切にすること」等を提唱

している。

II 研究仮説

養護教諭による積極的な個別指導と、他の教職員や専門医と連携した集団指導を実践し、レジリエンスを身につけるためのメンタルヘルス教育を学校の教育活動全体で行えば、心身ともに健康な生徒を育成することができるであろう。

III 研究内容・方法

1 保健室経営を通じた個別指導(年間)

学校保健活動のセンター的役割を果たしている保健室の機能を最大限に発揮できるように、担任教諭との情報共有や連携はもちろんのこと、週に1時間設定されている生徒指導委員会においても各生徒の情報共有とその対応について協議し、全教職員が保健室の機能や個別指導の内容を理解し、組織的に連携をとることができる体制を整える。個別指導を充実させるための関わりには、養護教諭と対象生徒との信頼関係の構築を前提とし、本人の希望又は介入が必要と判断した生徒や担任教諭に了解を得て、介入する時間を決めて個別指導や健康相談活動を行う。また、週に1回来校するスクールカウンセラーとも情報共有やコンサルテーションを行う。そうすることで、様々な視点から対象を捉え、養護教諭だけでは困難なケースでも支援の幅が広がり、組織的な対応が可能となる。

2 外部講師を活用した集団指導(1学期)

メンタルヘルス教育は、専門性の高い内容もあり、教職員自身が知識理解を深めるための研修も必要である。そこで、生徒と保護者に加え、教職員の研修機会を設けるため、メンタルヘルスを専門とした精神科医を外部講師として協力を仰ぐことを考えた。本計画の実施にあたっては、PTAの協力(予算等)も必要となるため、年度当初のPTA総会にて管理職より学校の現状や本計画の趣旨等を説明し、PTAからの賛同を得た上で進める。

3 T・T授業での集団指導(2学期)

生徒がレジリエンスを身につけていくために、教育活動の中で、教科との連携をもたせることが有効である。そこで第1学年保健体育・保健分野「心身の発達と心の健康」の単元を養護教諭が保健体育科教諭とともに連携を図りT・T授業を実施することを計画した。

4 地域学校保健委員会を通した町内での連携・強化(2学期)

町内6校すべての小学校が本校に進学することから、小中連携の観点を踏まえ中学校の現状や取組について理解してもらい、情報共有や連携を進めていくことがメンタルヘルス教育を進める上で有効である。令和4年度、猪苗代町の養護教諭が中心となって第1回猪苗代町地域学校保健委員会を立ち上げた。この会をきっかけにして、学校三師(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)、町保健福祉課や教育委員会を含めた関係機関、PTAとの情報共有や連携を強化し、レジリエンスを身につけるためのメンタルヘルス教育の重要性について理解を得て指導助言をもらいつつ学校での集団指導につなげる。

5 家庭や地域への普及啓発活動(年間)

保健日よりや学年日より、学校のホームページなどを通して、生徒たちの健康状態等の実態や学校での保健指導・保健教育などの取組を周知したり情報提供をしたりすることで家庭や地域の協力や理解を得ながら、学校・家庭・地域と継続した集団指導につなげる。

6 生徒会保健委員会活動の活性化(年間)

生徒が自らのレジリエンスを身につけることの必要性を理解し、主体的に学んでいくためには、教師側がきっかけをつくり、実態に合わせた集団指導を行うことが有効である。したがって、養護教諭と生徒会保健委員会の話合いや取組をきっかけにして、学校全体のレジリエンスについての意識を高め、活動を広げていくことを計画する。

IV 研究の実際・結果

1 保健室経営を通した個別指導(年間)

本校の保健室の利用について、原則1時間とし、休み時間や昼休み、放課後等は基本的に誰でも利用できるようにした。生徒の保健室来室時には、問診やバイタルサインの測定等を含め、総合的なアセスメントを行う。そして内科的・外科的などの要因に合わせて対応する際に、個別指導が必要であると判断した生徒や健康相談活動を希望する生徒には、生徒の希望や指導の内容に合わせて、パーテーションやカーテンを利用し仕切りを作り、プライバシーにも配慮しながら、自身の考えや話をきちんと聞いてくれる養護教諭や教職員と安心して話をするができる場を設定した。また、対応する時間を決めて、養護教諭と生徒が感情や思考の整理を行いながら、生徒自身が落ち着いて問題に対処ができるように介入を試みた(図2)。

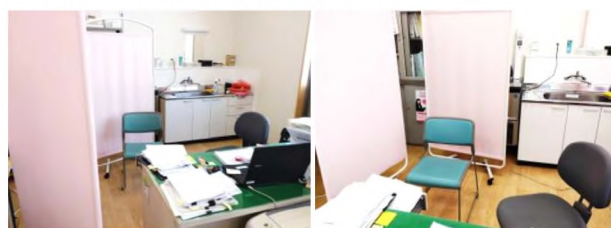


図2 健康相談活動の実際

個別指導や健康相談活動を行うにあたり、保健室の来室者数が多い場合には、紙に自身の主訴や感情などを自由に記入させ、文章や文字に表出させることで思考の整理を促しつつ、短時間でも記録を残し、情報共有や個別指導が行えるように工夫した(図3)。

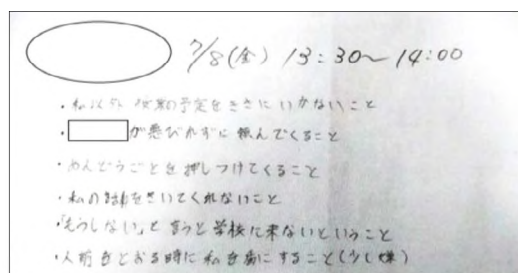


図3 対象生徒が作成する資料(主訴など)

個別指導の内容はゲーム依存や食生活の偏り等の生活習慣の乱れ、家庭環境に関するも

の、学校生活や人間関係に関するもの(SNSの使用によるもの等)など多様であり、生徒指導上の問題にもつながるケースが多かった。そのため、記録をもとに担任教諭や学年教諭、生徒指導主事等につなぎ、介入を要請した。

また、個別指導の関わりとしては、①人間関係について自分や他人の感情の理解と伝え方、②生徒が偏った思考やネガティブな思考に気づき問題の解決に向けて自身で意識を転換すること又は見方を変えること、③サポートできる環境(場所や人)の存在を再認識し、危機を乗り越えられる問題であると捉えること、④自己肯定感や自己有用感を高めること等を目標にし、対象に応じた指導を行った。

休み時間や昼休みには他学年間の交流もあることを利用し、それぞれの悩みを共有したり趣味の話をしたりしながら、養護教諭がコーディネーターとなって小さな人間関係構築の場を意図的につくり介入した。加えて、うつ、適応障害、不安障害、発達障害等をはじめ、他者との交流が不安、苦手を感じている生徒も来室しているため、養護教諭が疾患の特性、本人の状況をみて周囲との関わりをもつ場にもなるよう配慮した。12月以降の個別指導の際には、ふくしま子どもの心のケアセンターによる「心のサポート」アドバイスシートも利用し、対象生徒が自身を振り返りながら、適切な解釈や行動ができるように働きかけた。

保健室での個別指導や健康相談活動の内容は、生徒指導委員会で管理職や保健主事、担任等、全教職員に周知し、継続的な観察や指導につながるようにした。保健室での対応にとどまることのないよう、様々な生徒と教職員が関わることのできる開かれた保健室を目指し、担任教諭と生徒や保護者、カウンセラーなどをつなぐコーディネーターの役割も担い、適時関係職種と情報共有しながら、管理職の助言と指導の下で組織的に対応した。

結果として、保健室も自身の居場所の一つであると認識する生徒や話を聞いてほしい、安心したい、自身で解決できるように見守ってほしい等という生徒の発言が聞かれるようになった。特に女子生徒の人間関係の問題が多い現状にあったが、途中より各学年の女性教諭の介入もあり、複数教職員での継続した観察や対応につなげることができた。

2 外部講師を活用した講演会の実施

(1) 全校生徒対象 メンタルヘルス講演会 令和4年6月29日(水) 5校時目

外部講師は令和3年度の福島県医師会主催のメンタルヘルスシンポジウム(本校の教職員複数参加)にて実践報告をされていた会津こころと脳のクリニック院長、後藤氏に協力を依頼した。事前の後藤氏と養護教諭が直接面談し、学校の生徒の実態とメンタルヘルス教育の必要性、その中でもレジリエンスを身につけさせたいという本計画の賛同を得た。

会津こころと脳のクリニック院長 後藤氏を招聘し、演題「レジリエントマインド(※)」と打ち込み力」として講演会を実施した。内容は、養護教諭との事前の打ち合わせをもとに、精神保健指定医という専門的な立場から、出来事と気持ちの関係性、メンタルヘルスを学ぶことの大切さ、夢に近づくためのマインドセット等についての講演だった。またビデオ録画の許可も得て、欠席した生徒も後日視聴できるようにし、学校での継続した指導にも活かすことができるようにした(図4)。※「レジリエントマインドとは、後藤氏によると「回復力のあるところ、落ち込みにくいところ、しなやかで柔軟なところ」であると意味づけて生徒へ説明していた。



図4 生徒対象講演会の様子

(2) 保護者・教職員対象 講演会
令和4年7月13日(水)

P T A 教養厚生委員会の協力の下、保護者宛てに「開催のお知らせ(チラシ)」(資料1)を作成し、保護者全体に参加を呼びかけた。また町校長会や養護教諭部会を通して、猪苗代町内の小学校の教職員にも参加を呼びかけた。当日はP T A 教養厚生委員会と教職員が共同で会の運営にあたり、計100名弱が参加した。講師は、6月同様に後藤氏に依頼し、演題「ほめ力で子育てを楽しむーレジリエントマインドをはぐくむためにー」として、大人が子どもと接するときの声のかけ方や考え方、年々増加傾向にある精神疾患とそれが社会問題につながる現状、早期からの精神保健教育の重要性や他地区での実践例等、教育的な部分に焦点を当て、講演を行った。子どもとの関わり方について、保護者と教職員が理解を深めることのできる有意義な講演内容であった(図5)。今回もビデオ録画の許可を得て、出席できなかった保護者・教職員も後日視聴できるようにした。



図5 保護者対象講演会の様子

(3) 第3学年対象 がん教育講演会
令和4年11月17日(木)

学校医の今田氏を講師として招聘した。年度当初の健康診断で来校した際に、健康的な生活習慣が「がんの予防」には重要であるということについて養護教諭と打ち合わせを行ったが、精神的な安定はがん予防にもつながること、自身の健康に関心に向け、息抜きをしながら生活をしていくことの大切さ等といったメンタルヘルスの重要性についても講演内容に加えるよう依頼した。そして当日、自身の健康は自身で回復させるというレジリエ

ンスに関する内容にも触れたことで、子どもたちがメンタルヘルス教育の重要性を再認識する機会となった(図6)。



図6 第3学年対象がん教育講演会の様子

3 T・T授業での集団指導

保健体育科教諭と連携を図り、第1学年を対象に保健分野・心の発達(1)についてT・T授業を行った。思春期における心の発達と大脳、知的機能・情意機能の発達などについて、視覚教材を作成し、有効に活用できるような教材研究を重ねながら、養護教諭の専門的な視点も取り入れて各学級へ指導を行った。保健体育科教諭が各学級の生徒の反応に合わせた導入、養護教諭が展開と終末を主に実施した。また授業の中で、今までの自分の経験を振り返らせながら、自身の心の成長に目を向け、同時に他者の経験にも関心を寄せ、互いの考えを尊重し認め合うことができるよう、グループでの活動や全体での話し合い活動を意識的に取り入れた(図7、資料2)。



図7 授業の実際

4 地域学校保健委員会による町内各所での連携・強化

令和4年度10月26日(水)、猪苗代町養護教諭部会が中心となり、第1回猪苗代町地域学校保健委員会を開催した。こども園(2園)・小学校(6校)・中学校・高等学校・特別支援学校の代表者(管理職・保健主事・養護教諭・P T A会長)、町教育委員会の担当

者、町役場保健福祉課保健師、学校三師が子どもたちの健康課題について情報共有し、取組や対応についての話し合いがなされた。協議の内容には、メンタルヘルス教育に関する項目も挙げ、令和2年度からの本校生徒の実態や保健教育の取組等を紹介した。また協議の中では、小学校や高等学校でも、問題に直面するたびに自身でうまく対処できず、ストレスを抱え、健康状態にまで影響を及ぼしている児童生徒が増加している現状にあり、メンタルヘルス教育の必要性を認識していることも明らかになった。そして令和5年度は本校に続き小学校や高等学校でもレジリエンスを身につけるためのメンタルヘルス教育を推進していくことが検討された。学校三師の指導・助言をいただきながら、学校・家庭・地域での情報共有や連携の強化につながる機会となった。中学1年生が小学校までとは異なる環境になじめないという「中1ギャップ」によって、人間関係をうまく構築できず精神的に落ち込んだり、身体症状を呈し休みがちになったり(不登校にも移行)する現状もあり、それらがうまく解消されないまま進級すると身体・精神症状も重くなり、心療内科に通院する生徒が増えるという実態もあるため、小学校から高等学校まで継続してメンタルヘルス教育を進めることは、地域の子どもの心身の健康の保持増進のために大変有効であると考え(図8)。



図8 地域学校保健委員会

5 家庭や地域への普及啓発活動

毎月の保健だよりや学年だより、学校のホームページ、地域学校保健委員会だよりを発行し、家庭や地域への啓発活動を行った。その中で本校の実態や取組を紹介したり、生徒たちの様子を伝えたりすることで、学校の教育活動への理解や関心も深まり、家庭との情

報共有や家庭での継続した保健指導にもつながることができた。講演会や生徒会保健委員会の活動の内容や実際の様子など、学校の保健教育の取組を知ってもらうことで、学校保健委員会や保護者会等では、学校の取組についてPTAの協力や理解を示す発言があり、教職員と家庭との協力体制の構築にもつながったと考える。(資料3、4、5)

6 生徒会保健委員会活動の活性化

生徒自身が本校の実態を把握し、関心を持ちながらメンタルヘルス教育を推進することができるよう、生徒会保健委員会の生徒たちと健康課題について話し合う機会を設けた。その中で保健室来室者や些細なことにもストレスを感じる生徒、体調不良や不登校傾向の生徒等が多いと感じているといった話が挙げられた。それを1つのきっかけとして、メンタルヘルス教育を推進するにあたり、保健委員会の3年生の生徒を中心に実態調査のためのアンケートを作成し、令和4年5月下旬、全校生徒282人に実施した。アンケートの項目は、「①今悩みごとがあるか、②どんな内容の悩みか、③普段悩みごとがあったときに誰に相談するか、④自身のストレス解消法は何か」とした。(資料6)

アンケート結果は、保健委員会と全教職員で共有し、レジリエンスを身につけるためのメンタルヘルス教育の重要性についての理解と協力を得た上で、以下の点に絞って指導につなげるようにした。

- ・ 282人中105人(37.2%)の生徒が何らかの悩みを抱えて生活している。
- ・ 悩みを抱えている生徒は、男子よりも女子の方が多い。
- ・ 悩みの内容は「勉強・学習」「人間関係」「心身の不調」「部活動」と多岐にわたる。
- ・ 悩みごとの相談相手は、「同級生」「家族」が多いが、誰にも相談しない生徒も全体の17%程度いる。(282人中48人)

講演会前の事前指導は、各学年の集会や学級活動等の中で10～15分程度の時間を利用して6月中旬に実施した(図9)。指導内容は以下の①～③についてである。

- ①本校生徒の実態(アンケート結果から)
- ②「レジリンス」とは何か
- ③6月下旬の講演会の目的や内容



図9 事前指導の様子

また、生徒たちが協力して各学級の健康課題や必要な保健活動を考え、啓発ポスターを作成し、それを使って啓発活動を行った。感染症予防とメンタルヘルス教育等を関連させたり、人間関係や個性について個人に考えさせたりする内容のものもあった。また各学級や各学年フロア、保健だよりの中にも生徒たちが作成したポスターを掲載し指導につなげたり、保健委員会の活動の様子を発信したりして保護者の関心も高められるよう努めた。卒業前には保健委員会の3年生が中心となって保健だよりを作成し、それをもとに各学級での指導につなげることもできた(図10、資料7)。



図10 生徒会保健委員会作成ポスター

V 研究のまとめと考察

1 成果

(1)保健室利用の状況から(図11)

	令和3年度 (全校生 203名)	統合:令和4年度 (全校生 304名)
病気	1338 1人当たり 6.59回/年	1930 1人当たり 6.34回/年
健康相談活動	342 1人当たり 1.68回/年	149 1人当たり 0.49回/年
けが	928 1人当たり 4.57回/年	884 1人当たり 2.9回/年
合計	2608 1人当たり 12.84回/年	2963 1人当たり 9.74回/年

図11 保健室利用の状況

保健室の来室者数の割合は前年よりも(1人当たり-3.1回/年)減少した。特に自傷行為を含めた「けが」の割合(1人当たり-1.67回/年)や「健康相談活動」の割合(1人当たり-1.19回/年)の減少は顕著であった。これは1年間のメンタルヘルス教育を通してレジリエンスを身につけるための取組を行った成果というだけでなく、管理職のリーダーシップの下、教職員による生徒や保護者への丁寧な関わりや生徒指導主事の介入等、組織的な対応の成果でもあると推察される。

(2)講演会後の感想から

各講演会後には、感想を記述させた。以下は内容の一部である。

全校生徒対象 メンタルヘルス講演会
令和4年6月29日(水) 生徒の記述より

- ・ 同じ状況に置かれても置かれた人によって状況の捉え方が異なることがわかった。
- ・ 結果ではなく、そこに至るまでの過程が大事だということがよくわかりました。結果がどうだろうとそこに行くまでの過程を大切にできるように努力していきたい。
- ・ 時には弱音を吐いてもいいということがわかった。心のケアはしっかりしようと思う。
- ・ 私は結果だけを見て悔しくなったり、落ち込んだりすることがよくあるけど、そんなときは挑戦することを楽しんで、今まで頑張ってきたことを認められるようになればよいと思いました。
- ・ 自分の状態にいち早く気づき自分を大切にします。助けを求めるといことは悪くないということを学びました。

保護者・教職員対象 講演会

令和4年7月13日(水)保護者・教職員より

- ・ 親の立ち位置の大切さがわかりました。
- ・ 子どもたちを育てている大人のメンタルヘルスを時々取り入れていくことが今大事だと思います。子どもの目線で物事を見ることができれば、もっと意欲的な子どもが育つと思いました。
- ・ 最近子どもの何事に対するやる気のなさが気になっていたが、講演を聞き、自信を無くしているのではないかと思った。私たちの接し方を変えていかなければいけないと感じた。
- ・ 子どもが変わるのではなく、親が変わる。一番大切なことを学びました。
- ・ 今まで自分が子どもに対して言っていた褒めている言葉も、言い方によっては良くなかったこともあったと思いました。今回のお話を聞いて自分が今からできることを行動していきたいです。
- ・ 精神疾患は本人や家族も大変苦しい状況に置かれる。家庭が安全基地となり、学校でもスキルの育成等を行う重要性が分かりました。

第3学年対象 がん教育講演会

令和4年11月17日(木)第3学年生徒より

- ・ 笑顔でいることがとても大切だとわかったので、これから心がけようと思います。
- ・ 受験勉強もありますが、適度に運動し、ストレス発散もしていきたいです!
- ・ 自分の体は自分にしかわからない。今からでもがんにならないように気をつけていきたい。
- ・ 笑顔を忘れずに、時々息抜きをしながら、受験勉強を頑張っていきたい。
- ・ がん予防には心の健康も大切だ。私は気に病みやすい性格なので、ストレスを溜めない生活を心がけたい。

本校の実態を理解している外部講師を活用し、専門的な講話を聞かせたことが生徒たちの自分自身を見つめ直す1つの機会となり、メンタルヘルス教育においてレジリエンスを身につけることへの理解が深まった。またPTAや教職員向けの講演会を企画し、保護者と教職員がともに学ぶ機会を設定したことは、保護者と教職員それぞれの立場で子どもを理解しようとしていたり、子どもに関わる大人の接し方を見直したりする機会として、効果的に働いた。加えて、保護者や教職員がレジリエンスを身につけるためのメンタルヘルス教育の重要性についても考える機会になり、学校での集団指導で終わることなく、保護者においても家庭での継続した指導や子どもへのサポート力の向上にもつながったと考える。

(3)心のアンケート結果から

令和4年5月(282/306人)実施したアンケートに⑤の項目を追加し、令和5年3月(264/304人)に再度実施した。

[回答の変容] (増加△ 減少▼)

①今悩みごとが「ある」と回答した生徒

令和4年5月	令和5年3月
105人(37.2%)	92人(34.8%)▼

②どんな内容の悩みか(複数回答)

	令和4年5月	令和5年3月
勉強・学習	49(17.3%)	51(19.3%)△
人間関係	42(14.9%)	43(16.3%)△
部活動	29(10.3%)	18(6.8%)▼
心身の不調	38(13.5%)	30(11.4%)▼

③普段悩みごとがあったときに誰に相談するか(複数回答)

	令和4年5月	令和5年3月
家族	145(51.4%)	145(54.9%)△
同級生	151(53.5%)	179(67.8%)△
後輩や先輩	30(10.6%)	44(16.7%)△
先生や大人(家族以外)	31(11%)	57(21.6%)△
誰にも相談しない	48(17%)	41(15.5%)▼

④自身のストレス解消法は何か(複数回答)

	令和4年5月	令和5年3月
誰かに話して発散する	95(33.7%)	94(35.6%)△
遊ぶ・運動する	119(42.2%)	126(47.7%)△
好きなことをする	198(70.2%)	199(75.4%)△
寝る	117(41.5%)	138(52.3%)△

⑤嫌なことや辛いことなど、ストレスがかかった際に自分で対処したり、誰かに助けを求めたりして対応していくための力(レジリエンス)を身につけていると思うか

	令和5年3月
身につけている	85(32.2%)
少しは身につけている	133(50.4%)
あまり身につけていない	32(12.1%)
身につけていない	14(5.3%)

③の項目においては、「家族(+3.5%)」「同級生(+14.3%)」「後輩や先輩(+6.1%)」「先生や大人(+10.6%)」の項目で割合が増加した。このことから、1年間の中学校生活を通して、生徒たちが様々な人のサポートを受けながら生活を送ることができるようになったということが推察される。④の項目においては、すべての項目で割合が増加した。このことから、様々なストレス対処方法を見つけ、自身で対処することができるようになった生徒が増えたことが推察される。⑤の項目においては、「①身につけている」「②少しは身につけている」と回答した生徒は218名(82.6%)と8割を超える。一方「③あまり身につけていない」「④身につけていない」と回答した生徒は46名(17.4%)と2割程度いる。よってその生徒に向けては、日常的な観察を注意深くする中で教育相談のように本人が安心して話すことのできる場をつくり、hyper-QUテストや「心のサポート」アドバイスシートを活用しながら個別サポートの必要性の有無を検討するなどの対応も必要であると考え。

(4) 地域学校保健委員会の活動から

地域学校保健委員会を通して、学校やPTA、学校医、教育関係者等との情報の共有や連携の強化を図ることで、中学校だけでなくこども園・小学校・高等学校・特別支援学校とも健康課題を把握することができた。さらに、講演会を含めた生徒・保護者・教職員への働きかけについての成果や課題を共有でき、メンタルヘルス教育の関心を高め、次年度以降の各学校でのメンタルヘルス教育の取組を推進することにつながった。また学校だけではなく家庭・地域と輪を広げ、様々な視点や方法で町の子どもたちの健康について考え活動していくための有効な機会になった。

2 課題と今後の見通し

心のアンケートにおける数値の変容や講演会の感想から一定の成果を見ることはできた。

しかし、不登校生徒又は不登校傾向生徒、別室登校生徒が未だ一定数存在しており、レジリエンスを高めていく必要がある。レジリエンスを身につけるためには、教員と生徒との信頼関係の構築や学校全体での連携協力体制の充実等を含め継続した介入が必要であるが、生徒が抱えるストレス要因や対応は多様化しており、簡単に成果が表れるものではない。今後、生徒の実態の把握や生徒と教職員との信頼関係の構築をより一層強化し、問題を抱える生徒がレジリエンスを身につけられるようにしていきたい。

また、心のアンケートの「普段悩みがあったときに誰に相談するか」という質問に対し、「誰にも相談しない」と回答した生徒が、全体の15%程度存在している。この結果から、相談する手段を知らない場合や相談できる人間関係の構築がなされていないために助けを求めることができないということも考えられる。このような生徒に対しては、今後、他者との関係性を築くためのソーシャルスキル・トレーニングなどの計画的、継続的な支援が必要である。

また、本研究の実践を通して、教職員や保護者がレジリエンスにおける意義や重要性を知り、諸実践の契機となったことは大きな成果である。しかし、子どもたちがさらに質の高いレジリエンスを身につけていくためには、我々教職員や保護者がレジリエンスを高めるための知識やスキルをより一層深めていく必要がある。今後、継続して教職員や保護者向けの専門的な研修会を開催し、より有効な実践としていきたい。

地域学校保健委員会は、町内のこども園から高等学校・特別支援学校までの健康課題やその取組を情報共有し、関係機関との連携強化にもつながる有効な組織である。出席者への事後アンケートからメンタルヘルス教育に関する関心が一番高い結果であったことから、中学校のメンタルヘルス教育の取組を発

信し続け、今後猪苗代町の保健教育の目標を統一したり、取組を充実させたりすることにより、子どもたちの生涯の健康にも有効的に関わる組織として発展に寄与していきたい。

生徒がメンタルヘルス教育を通してレジリエンスを身につけるためには、生徒の性格的特性、個人差、性差、家庭環境、ソーシャル・サポートの有無や種類等も考慮し、配慮や工夫をする必要性があり、養護教諭の情報収集能力やカウンセリング能力、総合的なアセスメント力等も問われる。組織の一員として、研究と修養に励み専門性を高めつつ、メンタルヘルス教育を推進していきたい。

引用文献

齊藤和貴 岡安孝弘「最近のレジリエンス研究の動向と課題」明治大学心理社会学研究、4：72-84、2009

American Psychology Association
<https://www.apa.org/topics/resilience/building-your-resilience>

小林朋子 東山書房『しなやかな子どもを育てるレジリエンス・ワークブック』2019

中嶋郁雄 明治図書『教師のためのレジリエンス-折れない心を育てる、回復力を鍛える-』2018

石田敦子 田中清子 出川久枝 村松常司「レジリエンスと養護教諭と健康教育」瀬木学園紀要 19号、3-11、2022

American Psychology Association
<https://www.apa.org/topics/resilience/guide-parents-teachers>

小塩真司 平野真理 上野雄己 金子書房「レジリエンスの心理学」2021

参考文献

福島県・福島県教育委員会 第7次福島県総合教育計画 令和3年12月

文部科学省 学校における子供の心のケアサインを見逃さないために-平成26年3月

文部科学省 現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～平成29年3月

福島県学校保健会 健康教育のてびき 平成30年3月

財団法人 日本学校保健会 学校保健の課題とその対応-養護教諭の職務等に関する調査結果から-平成24年3月

文部科学省 改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引 令和2年3月

公益財団法人学校保健会 保健室経営計画作成の手引 平成26年度改訂

池田誠喜 芝山明義 後藤正彦「レジリエンスと関連する心理学的概念の特徴と学校教育への適用」鳴門教育大学研究紀要 第33巻 2018

石毛みどり 無藤隆「中学生における精神的健康とレジリエンスおよびソーシャル・サポートとの関連-受験期の学業場面に着目して-」教育心理学研究、2005、53、356-357

石毛みどり 無藤隆「中学生のレジリエンスとパーソナリティとの関連」パーソナリティ研究 2006 第14巻 第3号 266-280

石田敦子 村松常司 田中清子 出川久枝「子どもたちのレジリエンスと養護教諭」東海学園大学研究紀要 第3号：4-11、2017

大坪 岳「青年期のコミュニケーション・スキルとソーシャル・サポートがレジリエンスに及ぼす影響」追手門学院大学心理学論集 2017、第25号、pp.13-25

小林朋子「学校教育を活かした子どものレジリエンスの育成-学校危機の予防と回復を支えるアプローチ-」The Annual Report of Educational psychology in Japan、2021、Vol.60、155-174

小林朋子 渡辺弥生「ソーシャルスキル・トレーニングが中学生のレジリエンスに与える影響について」教育心理学研究、2017、65、295-304

— 中学生の時期って難しいですね —

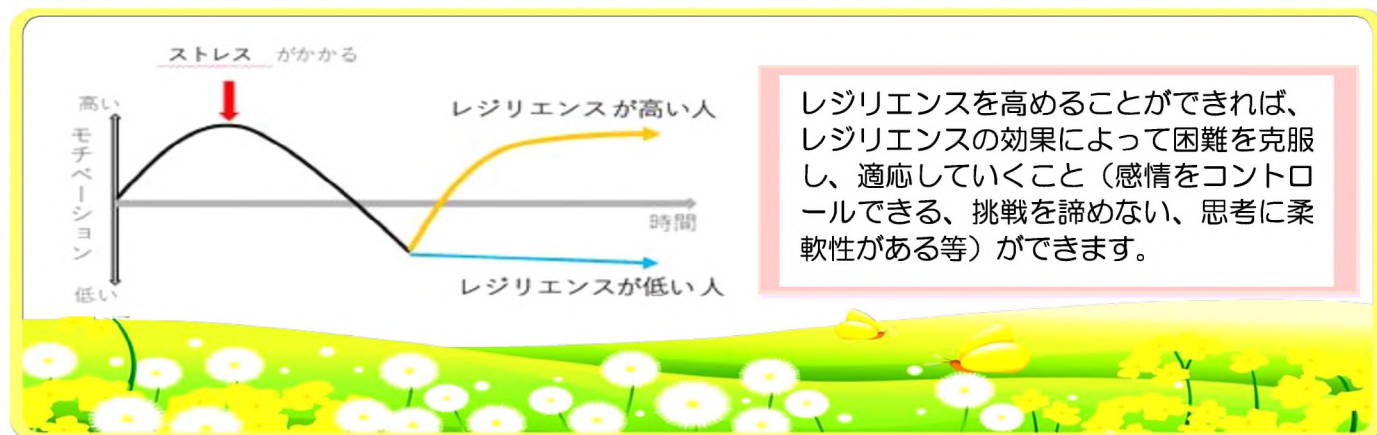
お子さんとの関わり方に困っていませんか？



心の教育講演会開催のご案内

統合中学校となり、3ヶ月が経ちました。新しい校舎でいきいきと生活する姿が見られる一方で、人間関係での心配や悩み等の問題、又は生徒指導上の問題も増えてきています。昨年度の猪苗代中学校の保健室来室状況では、年間約2600件の来室があり、そのうちの400件は精神的に落ち込んだり悩んだりして、頭痛などの身体症状が出てきたり、その内容を相談するための来室でした。ストレスを感じることや人間関係の問題は、どの年齢でもあるかもしれません。そして、問題が起きたときに自分自身で解決したり、ストレスがかかって落ち込んだでも立ち直ろうとしたりする力、「レジリエンス」という力を身につけることができればまたさらなる成長につながると思います。

レジリエンスとは「柔軟に対応する力、自身で回復する力、へこたれない心」



このたび、福島赤十字病院精神科部長および同院認知症疾患医療センター長、福島県災害派遣精神医療チーム (DPAT) 等様々な現場で活躍され、出身の会津若松市で開業、現在は会津若松市内での心の教育にも尽力されている、会津こころと脳のクリニックの後藤大介先生をお迎えしてご講演をいただく機会に恵まれましたので、保護者と教職員を対象にご案内申し上げます。

中学生という時期にどう接したらよいかわからない、関わり方に困っている…。今は大丈夫だが、さらに子どもを理解して良い関係を築いていきたい…。等。保護者の方の気持ちに寄り添ったお話が聞けると思います。この機会にぜひご参加ください。(なお、6月29日に生徒対象のご講演もいただきました。)

記

日 時： 令和4年7月13日 (水) 14:00~15:30

※ 終了後に各学年懇談会があります

場 所： 猪苗代中学校 多目的教室

内 容： 演題：「ほめ力で子育てを楽しむーレジリエントマインドをはぐくむためにー」
講師：会津こころと脳のクリニック院長 後藤 大介 先生

対 象 者： 保護者、教職員

第 1 学年 3 組 保健体育科学習指導案

日 時：令和 4 年 1 2 月 2 日（金）3 校時

場 所：1 年 3 組 教室

T1：横山永哉 T2：松本冨加

1 単元名（題材名） 心身の発達と心の健康 心の発達（1）

2 授業の構想

(1) 単元の位置づけ

① 生徒観（1 年 3 組男子 1 9 名・女子 1 7 名／計 3 6 名）

明るく元気で授業中の発言等も多い学級である。にぎやかな反面、中には精神的に未熟な生徒もあり、人間関係でのトラブル等から個別の指導が必要な生徒もいる。思春期にあたるこの時期は、同級生・先輩後輩・先生など様々な人と日々関係性を築きながら、心身ともに成長していく時期である。本時の学習で思春期の自分の心身の変化に気づき、自身だけでなく変化する他者も認め、これからの成長につながる行動選択や良好な人間関係が構築できるように知識や理解を深めたいと考える。

② 教材観

「保健体育科（保健分野）」の学習指導要領の内容、(2)の『ウ 知的機能，情意機能，社会性などの精神機能は，生活経験などの影響を受けて発達すること。また，思春期においては，自己の認識が深まり，自己形成がなされること。』を受けた教材である。小学校 5・6 年体育科（保健）において心の発達の概要は学習し、中学校で具体的な脳の機能やその発達について学び、さらに理解を深めることで、自己形成に向けて有意義な生活経験や学習等を積み重ねていくことができると考える。

③ 指導観

心と脳の働きの関係性について、自身の成長に伴う心の変化を振り返らせながら、写真等の視覚教材を使用し、知的機能・情意機能・社会性など心の働きと発達について専門的な視点も踏まえ、説明することで理解を深めたい。特に展開では、心と脳の関係について、脳の模型を使用し具体的に機能を説明し、知的機能や情意機能が生活経験や学習によって発達していくことについて理解を促したい。なお T1 は導入、終末部分で主に指導し、T2 は展開部分の専門的な指導を中心に行う。

3 単元の目標

- (1) 心身の機能の発達と心の健康について理解しているとともに、ストレスの対処について技能を身に付けることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その課題に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 心身の機能の発達と心の健康に自主的に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画（総時数 1 0 時間）

時間	学習内容	時間	学習内容
1	体の発育・発達	6（本時）	心の発達（1） 知的機能と情意機能の発達
2	呼吸器・循環器の発達	7	心の発達（2） 社会性の発達
3・4	生殖機能の成熟	8	自己形成
5	性とどう向き合うか	9・10	欲求やストレスへの対処

5 本時の目標

心の働きは脳で営まれており、思春期は脳が急速に発達する重要な時期であることを理解する知的機能や情意機能は、さまざまな経験や学習によって発達することを理解することができるようにする。
(知識及び技能)

6 指導過程

段階	学習内容・活動	時間	形態	○教師の支援 評価(方法) ◎授業の重点 ・留意点
導入	<p>1 今までの既習事項を確認し、課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数枚の写真から感情を想像する。 ex) 涙する人物・動物 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>心と大脳の関係と、知的機能・情意機能の発達について理解しよう</p> </div>	5	全体	<p>T1 ○ 1枚ずつ写真を提示し、その表情から読み取れる感情を自由に発言させる。人物だけでなく、動物の写真も提示することで、人間には感情だけでなく、様々な表情があることにも気づかせる。</p> <p>T2 ○ 自分のことを想起しつつ、自由に考えることができるように、声をかける。</p>
展開	<p>2 心と大脳の関係、知的機能や情意機能について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の働き＝大脳の働き 大脳の働き ①知的機能（認知・記憶・言語・判断） ②情意機能（感情・意識） ③社会性 	15	全体	<p>T2 ○ 既習事項を確認しながら、心と大脳の関係性と大脳の働きを説明し、心と大脳の関係性を学ばせ、課題につなげる。</p> <p>◎具体的な模型や掲示物を提示しながら説明することで、理解を深める。</p> <p>T1 ○ 提示や板書の補助を行う。</p> <p>T2 ○ 自分の生活経験が心の発達にどのように関係しているかについて考えさせる。自身の経験だけでなく、他者の生活経験と心の変化を聞くことで自他の理解につなげる。また、相手の感情への理解や共感をするのが、情意機能の発達につながることも説明する。</p>
	<p>3 知的・情意機能の発達は経験や学習によって促されることについて、自身の生活と関連づけて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活経験（行事や出来事）から、自分が心の面で成長したと思うこと（考え方が変わったこと）等を思い出し、グループで話し合う。 ex) 充実感 感動体験 ・各グループの意見を全体で共有する。 	5	個人	<p>↓</p> <p>グループ</p> <p>↓</p>
	<p>10</p>	個人	<p>・一人一人生活経験の環境が異なるように心の成長は人それぞれで異なることについても触れる。</p>	
<p>10</p>	全体	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>心の働きと大脳の関係性や心の働きである知的機能や情意機能は、様々な経験や学習によって発達することを理解している。 (観察、発表、プリント)</p> </div>		
終末	<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で本時のまとめを行う。 	5	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・板書事項やプリントを確認し、学習の振り返りをプリントに記載させる。

7 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>心と大脳の関係と、知的機能・情意機能の発達について理解しよう</p> <p>この時の感情は？泣いている理由を想像してみよう</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>乳児期、幼児期、成人期にあたる人等が涙を流している写真</p> </div> <p>∴ ∴ ∴ ∴</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>心の働き＝大脳の働き</p> </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="font-size: 2em; color: red;">←</div> </div>	<p>大脳の働き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的機能 <ul style="list-style-type: none"> 認知 理解する 記憶 する 言語 言葉を話す 判断 する ・情緒機能 <ul style="list-style-type: none"> 感情 嬉しい悲しい楽しい復立たい等の気持ち 意思 何かをしようとする時の気持ち ・社会性・・・次の時間のお話 <p>さまざまな経験や学習を通して大脳に刺激を与えることで心は豊かに発達していく</p>	<p>自分の心が成長した経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ <p>まとめ</p> <p>心は大脳の働きによるもの 大脳の働きには知的機能や情意機能がそれぞれあって、たくさん経験したり、学習したりすることで心は発達する</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7月13日(水)メンタルヘルス講演会では大変お世話になりました

7月13日(水)、学年末保護者会とともにメンタルヘルス講演会にご参加いただき、ありがとうございました。町内の教職員も含め、延べ100名ほどの方々にご参加いただきました。

保護者の方々からいただいた感想とともに講演会の内容を少しまとめてご報告させていただきます。

ほめ力で子育てを楽しむーレジリエント・マインドをはぐくむためにー

後藤 大介 氏

◆私たち(大人)が、
自らの一日についてよいこと探しをする。
…私たちの脳を、小さな良いことに気づきやすくなるようトレーニングすることが、子どものよいところを探すことにつながる。

◆努力を認める、ほめる。
…結果がでてからほめるのではない。結果ではなく、傾けることができた努力を賞賛する。

◆ごほうびは、モノより
「言葉と係わり」が大切。

◆とらえ方次第で欠点は長所に。
欠点は直すより活かす。
…このとらえ方が、子どもとの信頼関係を強化する。
例) 自己中心的 ⇒ 人に流されない、消極的 ⇒ 謙虚
集中力が無い ⇒ 新しいことを発想しやすい
飽きっぽい ⇒ 好奇心が旺盛

◆「ほめ力」は、親や大人が
自身をトレーニングすることで高まる。

◆ほめどころを具体的に示してあげる。
…子どもの頑張りどころを観察し、「〇〇がよいね」と具体的にほめる。

◆他者との比較ではなく、
以前と比べてほめる。
…比較されると挑戦しにくくなる。本人の過去から現在への歩みをほめる。

◆ダメだししていると、本当にダメになる。

◆「ちゃんとして」と言うより、
具体的な行動を話し合う。

◆子どもの知的好奇心に向き合う。

◆子どもを、親が大人が信頼する。
子どもの脳が、楽しくなる、元気になる声かけができるようになることが、すなわちほめるということ。

【 保護者の方々からの感想 】

- 日々生活していく中で我が子を褒めるよりつい怒ってしまうことが年々多くなってきているような気がします。今後我が子とミーティングしながら自分自身も子どもと一緒に生活していけるよう努力していきたいと思いました。本日は大変勉強になりました。
- 完璧主義の息子で失敗することから逃げがちですが、失敗することが自分の力につながるということを知ったので、失敗を恐れないでほしいと思いました。
- 子どもたちを育てている大人のメンタルヘルスを時々取り入れていくことが今大事なのではないかと思います。子どもの目線で物事を見ることができれば、もっと意欲的な子どもが育つと思いました。
- 最近子どもの何事に対するやる気のなさが気になっていたが、講演を聞き、自信を無くしているのではないかと思った。私たちの接し方を変えていかなければいけないと感じた。
- 子どもが変わるのではなく、親が変わる。一番大切なことを学びました。
- 扱いの難しい思春期の子どもに向き合うことに、親も多少なりのストレスを感じているところですが、「ほめる」ことでお互いに楽に前向きになれるのかも希望が持てるお話でした。
- 自分にも生きづらさを抱える小中学生の子どもがいます。親子で苦しい時期を過ごしています。大変ためになりました。家族で情報共有をしたいと思います。
- 今まで自分が子どもに対して言っていた、褒めているような言葉も、言い方によっては良くなかった事もあったなと思いました。今回のお話を聞いて自分が今からできることを行動していきたいです。
- 他者との比較や結果をみての言葉しかかけていなかった部分があるなあと反省しています。
- 「ねぎらい寄り添おうとする大人に対して心を開いてくれるのではないだろうか」という言葉が心に響きました。

※ なお、講演会の内容はビデオ撮影の許可をいただきましたので、ご覧になりたい場合は学校までご連絡ください。またDVDソフトへのダビングや貸し出し等はできませんのでご了承ください。

3学年通信

Polaris

～ ポラリス ～

第14号

令和4年7月1日

文責：佐治 浩明

メンタルヘルス講演会が行われました。

6月29日(水)の6校時に「会津こころと脳のクリニック 後藤大介医師」をお招きして、現代社会を生き抜くための重要なスキル『レジリエンス』についてご講演をいただきました。

『レジリエンス』とはもともと経済用語ですが、人間にあてはめると

- 困難な状況にもかかわらず適応できる力
- 病気へのなりにくさ・病気からの回復力
- 精神的回復力

のことを指します。

また、精神的回復力を身近な言葉で表わすと「こころの回復力」とも言えます。何かできごとが発生したときに、しなやかで柔軟に対応したり受け止めたり、心の落ち込みを最小限にとどめたり、その落ち込みからできるだけ早く回復できたりすることは、今現在もこれからの未来においてもとても重要です。また、老若男女を問わず、私たち大人も中学生のお子さんも身につけておきたいスキルです。

後藤先生は様々な例を挙げて詳しく説明してくださり、「だれにでもレジリエントマインド（レジリエンスの高い心）があり、だれもがそれを鍛えていける。ネガティブな考えを抱いても早く解消されたり、そういう考え方の癖を修正していったりすれば、生きやすくなる。」とおっしゃっていました。

講演の内容すべてをお伝えできませんので、本日配付の保護者対象の講演会の案内をご覧ください、足をお運びいただければと思います。

講演後の生徒の感想を紹介します。今回は無記名でしたので、生徒名はありません。

人と比べてもいい。なぜそう考えるのかを考える。好きなことを見つけて、自分の感情と向き合うことが大切と学んだ。

自分の心の状態にいち早く気づき、自分を大事にします。そして、助けを求めるということは悪くないということを学びました。

高い目標を立ててもいいけど、すぐにはかなうとは思わずに段階を踏んで進めることが大切と分かった。失敗をしても「まだ行ける」と思って前に進みたい。

レジリエントマインドをうまく活用するのが大事。同じものを見ても、着目する点を変えると見方が変わる。ゲーム以外の方法で自分をリラックスさせられるようにしていきたい。

今日の内容は自分によくあてはまる。自分もよく負の感情を抱くことがある。でも、今回の話を聞いて、つまらないようにするのではなく、楽しむように行動していきたいと思う。

印象に残っているのは「ネガティブになるのは悪いことじゃない」という言葉です。自分はみんなにポジティブと思われていますが、案外ネガティブになることが多いです。ネガティブってみんなを心配させるし不安にさせるので嫌でしたが、少し気持ちが軽くなった気がします。また、私には信頼できる、愚痴が言える友達があります。いてくれてよかったと心から思います。

最後に、後藤先生の言葉ではないのですが、次の言葉で今週号を締めくりたいと思います。

心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる

習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる

へるしいな

11月吉日

祝 第1回 猪苗代町地域学校保健委員会 が開催されました

10月26日（水）猪苗代中学校にて猪苗代町地域学校保健委員会が開催されました。中学校が統合し、猪苗代中学校区になって初めての開催となります。この会の委員は、各学校の学校医、学校歯科医、学校薬剤師の先生方、猪苗代町の2つのこども園、6つの小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、町の保健福祉課、教育総務課の各方面の保健や食育など健康に関する担当者の方々です。今回はその初めて開催された猪苗代町地域学校保健委員会での様子をお届けします。

そもそも「地域学校保健委員会」とは・・・地域の子どもたちの健康増進のために、学校・家庭・地域が連携して、健康課題や手立てについて話し合う組織です。

まずは、各学校（子ども園含）の健康課題を情報共有！

各学校の養護教諭や担当の先生が学校の健康課題と課題解決に向けた取組みについて意見交換をしました。

そこで各校の健康課題に共通した内容として、

- ①視力低下（裸眼視力B以下）が進んでいる子どもが多い
- ②う歯（むし歯）が未処置のままの子どもが多い
- ③肥満傾向（肥満度20%以上）の子どもが多い

ということが分かりました。

またメンタルヘルス（心の健康）についても、中学校・高等学校・特別支援学校では懸念されているところですが、小学校からその教育の必要性を感じ、対応を検討しているといった話もありました。

加えて、子ども園では眼鏡をかけている園児が多く、ゲームやYouTube を見せる時に、制限等の家庭ルールがないご家庭もあることから、ただ単に視力の問題というだけでなく、メディアコントロールについても改善が必要であるという話もありました。

情報共有をすることで乳児から高校生までの猪苗代町の健康課題が明確になりました。

各校の健康課題改善のための取組みの中から一部をご紹介します！

千里小学校では肥満予防（筋力アップ）のために昼休みに体育館で全校児童対象に行うダンス、緑小学校では身長を伸ばすこと等子どもたちの興味のある内容をきっかけに紹介していく個別指導、翁島小学校では視覚的に楽しい掲示物を効果的に取り入れながらの日常的な指導、猪苗代中学校ではレジリエンス（へこたれない、柔軟な心）を高めるためのメンタルヘルス面の指導などを行っているようです。

こども園・猪苗代高校・猪苗代支援学校も含めて、ご家庭と関係性を築き連携する難しさを感じつつ、各学校の健康課題に合わせた取組をそれぞれ実施しています。今後とも、保護者の方々のご理解とご協力をお願いいたします。

出席された先生方からのお話

学校歯科医 二瓶様より



当院でも2、3歳でたくさんう歯（むし歯）を保有している幼児が多く見受けられます。う歯予防としてフッ化物物の利用はとても効果があります。町や学校でフッ化物物の利用を進めていけば、家庭間のう歯保有率の格差も減ると思います。ぜひ予防歯科の取組を進めてほしいです。

猪苗代町保健福祉課 長壽様より



来年以降、検診などに合わせて段階的に進めていく予定です。そのために今年度より少しずつ準備を進めています。

猪苗代町教育総務課 戸戸様より



まずは県や他の自治体の実施状況やマニュアル等を参考にしながら、学校でも実施を検討していきたいと思えます。

学校薬剤師 椎井様より



学校に求職する機会が1つに空気の検査があります。教室内の二酸化炭素濃度を測ります。40人の子どもと1人の先生の学級では、小学校低学年26分、小学校高学年～中学生18分、高等学校では14分で二酸化炭素濃度は基準値に達します。30分に1回の換気が必要なのです。換気の際は室内の窓を対角に開けたり、常時上にある小窓を少し開けたりしておくことで効率よく換気できます。これから寒い季節で換気も徹底になりがちですが、感染対策のためにもぜひ換気を行ってください。

学校薬剤師 寿田様より



学校にて照度検査を行っています。学校だけでなく、各家庭においても照明の明るさが適切かどうか等の注意が必要です。特に家での子のメテア（テレビ・タブレット・パソコン・スマートフォン・ゲーム機等）の使用中には手元の明るさや画面上の明るさに注意してほしいと思います。

各学校のPTA会長様より



ゲームやタブレットを使用させていない家庭もありますが、今回の話を聞いて、家庭における子どもたちの健康面への関わりが必要であると感じました。多くの方の意見やお話をたくさん聞くことができ勉強になりました。すべての子どもたちが健康に育つようみんなで協力していきたいですね。子どもが大きくなる子ども任せになりがちですが、大人の介入が必要なのだと感じました。特に肥満は、家族みんなで取り組まないと解決しない問題ですね。



学校関係者（学校長・保健主事・養護教諭）より

子どもたちが自分自身で危機感を持って課題解決のために行動していく、自己決定につなげていく働きかけも大切です。学校によって健康課題は異なりますが、関わり方や活動内容を少しずつ良い方向に改善しながら、これからも継続して保健活動を行っていただきたいです。

最後に、今回の地域学校保健委員会は、多くの学校関係者にご参加いただき、大変貴重な機会となりました。これからも学校・家庭・地域と連携しながら、子どもの健康について考え、活動していくことができれば幸いです。今後とも引き続き、猪苗代町の保健活動にご理解とご協力をお願いいたします。

心のアンケート（5月）

年 生 男子・女子

あてはまるものに○をつけましょう。

1) 今、悩みごとがありますか。

- ① はい → 2)へ
- ② いいえ → 3)へ

2) 1)で「① はい」と回答した人にお聞きします。

今悩んでいることで、最も近い内容の項目はどれですか。(複数回答可)

- ① 勉強や学習について
- ② 人間関係（友人・後輩・先輩との関係等）について
- ③ 部活動について
- ④ 自分の心や体の不調について
- ⑤ お家でのことに（親や兄妹等）について
- ⑥ その他（内容を書きましょう→)

3) 普段の生活で悩みごとがあったとき、その悩みごとを誰に相談しますか。(複数回答可)

- ① 家族
- ② 同級生
- ③ 後輩や先輩
- ④ 先生や大人（家族以外）
- ⑤ その他（相談する人を書きましょう→)
- ⑥ 誰にも相談しない

4) あなたは、ストレス（※）を感じたときにどのようにして解消しますか(複数回答可)

- ① 誰かに話して発散する
- ② 遊ぶ・運動する
- ③ 音楽を聴く、テレビを見るなど、好きなことをする
- ④ 寝る
- ⑤ その他（ストレス解消法を書きましょう→)

※ ストレス＝体や心に負担がかかってゆがみが生じること。心や体にかかる外からの刺激を「ストレッサー」といい、ストレッサーに適応しようとして、こころや体に生じたさまざまな反応を「ストレス反応」と言います。

例) ストレッサー：人間関係・生活環境・家庭の問題など、

ストレス反応：心理面ではイライラ・不安・気分の落ち込み、身体面では頭痛、胃痛、食欲低下、不眠など

5月27日（金）までに保健室へご提出をお願いします。

生徒会保健委員会の3年生が作成してみました

「ストレスでイライラしていませんか」

子どもたちが鬼のポーズをした写真が入っています。

□ そんなときに役立つ方法 「アンカー-マネージメント」

最近、イライラすることはありますか？「怒る」という感情は人間にとって、ごく当たり前のもの。でも怒り方を間違えてしまうと、自分自身だけでなく、自分を取り巻く人間関係にも支障が出てきてしまいます。

アンカー-マネージメントとは、1970年代にアメリカで始まったアンカー（イライラ怒りの感情）をマネージメント（上手にコントロールする/操縦する）ための心理トレーニングです。

アンカー-マネージメントの方法を知れば「よりポジティブ」でリラックスした毎日を過ごすようになるかもしれません。

今回は「怒り」と上手に付き合う方法をいくつか紹介したいと思います。

～ イライラして怒りそうになったらぜひやってみよう ～

□ 具体的にはコントロール方法

- ◎ 深呼吸（どんな時でも使える）
→ 吐く息を長めにすると良い ※緊張した時にもやる
- ◎ 目をつぶる（ゆっくりの瞬きで良い）
- ◎ 腰を下ろす（椅子に腰をかける、なければ床に座っても◎）
 - 少しその場を離れる（1～2分、落ち着いたらその場に戻り問題に取り組む）
 - 気持ちを伝える（「一方的に怒鳴られるのはとてもいやな気分だな」など）
 - 提案する（「意見を整理してから、もう一度話し合いたいなあ」など）

怒りのせいで6秒間と言われている怒りを感じたその6秒間をどうやり過ごすか、自分次第です。

子どもたちが鬼のポーズをした写真が入っています。

<最後に>
 ストレスがたまるとイライラするだけでなく、悲しい気持ち、泣けてきたり、感情が乱れたりするところがあるかもしれません。思い返せば3年間でストレスがたまることもしろいろありました。沢山の個性豊かな友達や先生方に出会い楽しいことも嬉しいことも沢山経験できました。そして、ほゆゆいストレスは心の成長にも役立つのだと学びました。今こうしてかわいい後輩たちと先輩代中を認めて卒業の日を迎えることになってとても嬉しいです。
 来年度個性あふれる皆さんの活躍に期待しています。

※ ストレスのため必ず注意！！
 誰かに頼ることも必要！！
 自分も友だちも家族も大切にしよう！！



保健委員会3年

子どもたち13名の直筆サインが入っています。

【令和4年度 心のアンケート実施（5月・3月）結果より】 [割合の増加：△ 減少：▼]

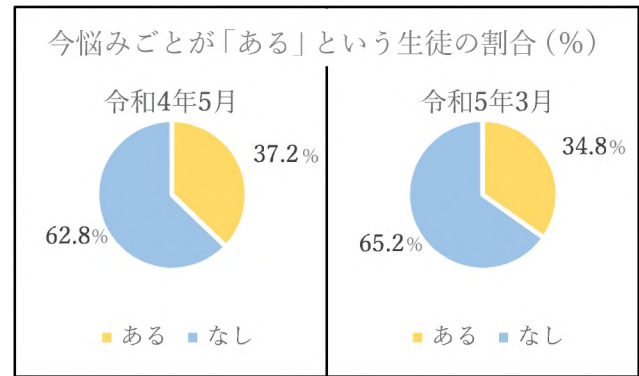
実施人数

令和4年5月	令和5年3月
282人	264人

① 今悩みごとが「ある」と答えた生徒

	令和4年5月	令和5年3月
ある	105人(37.2%)	92人(34.8%)▼
なし	177人(62.8%)	172人(65.2%)

→ 悩みごとがあると答えた生徒は2.4%減少した。

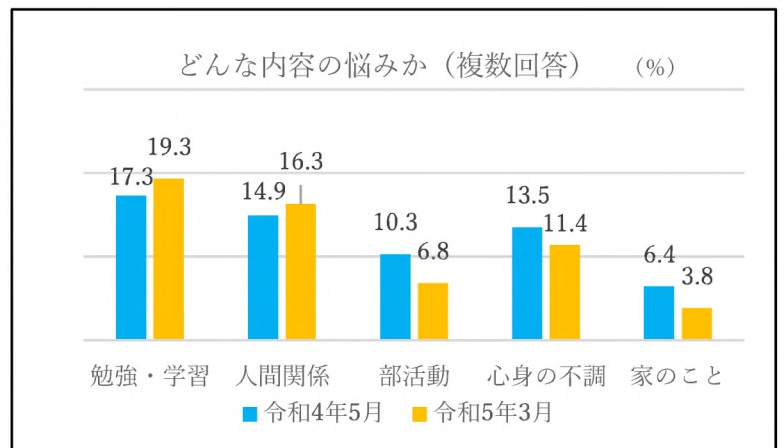


② どんな内容の悩みか(複数回答)

	令和4年5月	令和5年3月
勉強・学習	49(17.3%)	51(19.3%)△
人間関係	42(14.9%)	43(16.3%)△
部活動	29(10.3%)	18(6.8%)▼
心身の不調	38(13.5%)	30(11.4%)▼
家のこと(親等)	18(6.4%)	10(3.8%)▼
その他	8(2.8%)	9(3.4%)△

【その他の内容】

学校生活、お金がない、進路、将来、恋、部活動での調子が悪い等



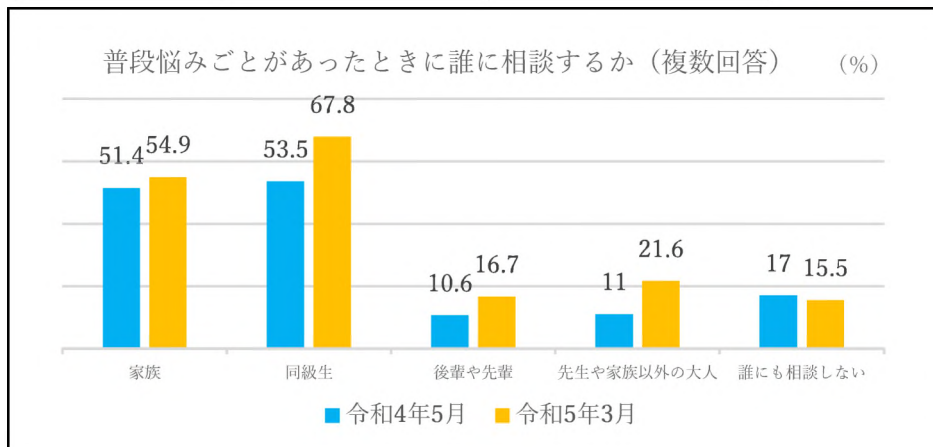
→ 「勉強・学習」、「人間関係」での悩みをもつ生徒の割合は若干増加し、「部活動」「心身の不調」「家のこと(親等)」での悩みをもつ生徒の割合は若干減少した。1年間の中学校生活の中で様々な悩みを抱え、また解消しながら生活していたことが推察される。

③ 普段悩みごとがあったときに誰に相談するか(複数回答)

	令和4年5月	令和5年3月
家族	145(51.4%)	145(54.9%)△
同級生	151(53.5%)	179(67.8%)△
後輩や先輩	30(10.6%)	44(16.7%)△
先生や大人(家族以外)	31(11%)	57(21.6%)△
誰にも相談しない	48(17%)	41(15.5%)▼
その他	10(3.6%)	7(2.7%)▼

【その他の内容】

親友、ネットの友だち、いここ、自分等



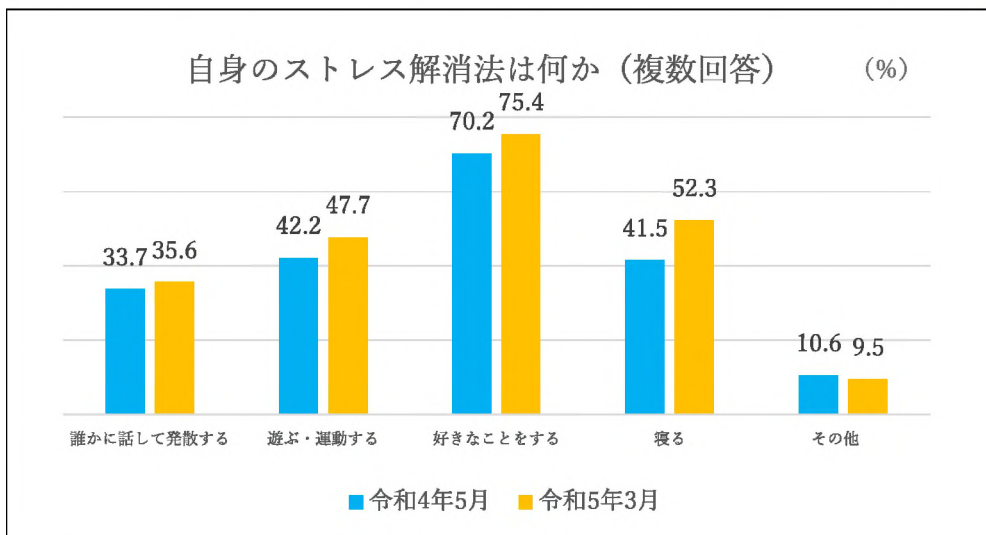
→ 「家族(+3.5%)」「同級生(+14.3%)」「後輩や先輩(+6.0%)」「先生や大人(+11.6%)」の項目で割合が増加した。特に「同級生」や「先生や家族以外の大人」での割合の増加幅が大きい。このことから、1年間の中学校生活を通して、生徒たちが様々な人のサポートを受けながら生活を送ることができるようになったことが推察される。また、「誰にも相談しない」と回答した生徒の割合は若干減少した。

④ 自身のストレス解消法は何か(複数回答)

	令和4年5月	令和5年3月
誰かに話して発散する	95(33.7%)	94(35.6%)△
遊ぶ・運動する	119(42.2%)	126(47.7%)△
好きなことをする	198(70.2%)	199(75.4%)△
寝る	117(41.5%)	138(52.3%)△
その他	30(10.6%)	25(9.5%)

【その他の内容】

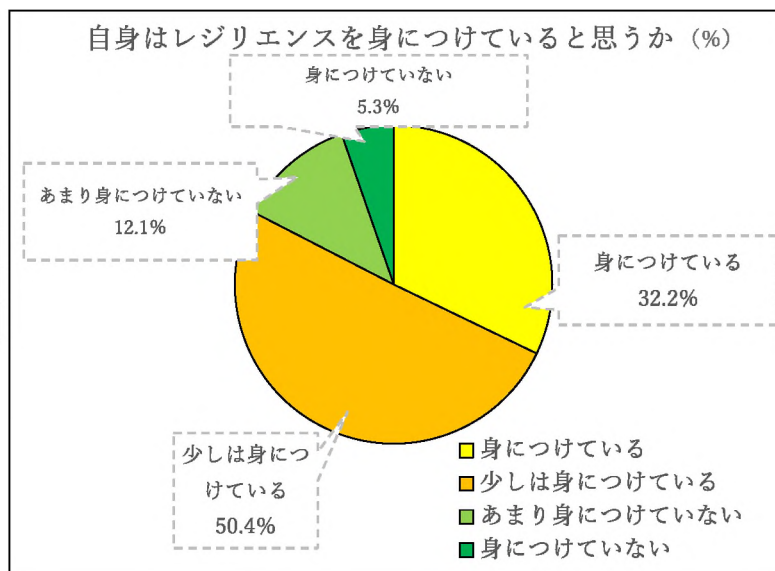
叫ぶ、空想をする、恋人に話す、紙にムカついたことを書く、深呼吸する、瞑想、その場から逃げる、食べる、掃除する、泣く、リストカット等



→ それぞれの項目で割合が増加した。このことから、様々なストレス対処方法を見つけ、自身で対処できるようになった生徒が増えたことが推察される。

⑤ 嫌なことや辛いことなど、ストレスがかかった際に自分で対処したり、誰かに助けを求めたりして対応していくための力(レジリエンス: しなやかに適応する力、回復する力、打たれ強い心)を身につけていると思うか

	令和5年3月
身につけている	85(32.2%)
少しは身につけている	133(50.4%)
あまり身につけていない	32(12.1%)
身につけていない	14(5.3%)



→ レジリエンスについて、「①身につけている」「②少しは身につけている」と回答した生徒は218名(82.6%)と8割を超える。一方、「③あまり身につけていない」「④身につけていない」と回答した生徒は46名(17.4%)と2割程度いる。よって「③あまり身につけていない」「④身につけていない」と回答した生徒に向けては、日常的な観察を注意深くする中で教育相談のように本人が安心して話すことのできる場をつくり、hyper-QUテストや「心のサポート」アドバイスシートを活用しながら個別サポートの必要性の有無を検討するなどの対応も必要である。また、「①身につけている」「②少しは身につけている」と回答した生徒においても、引き続き人間関係を構築しながら、より質の高いレジリエンスを身につけるための働きかけや取組が必要である。

審査の観点及び審査総評

【審査の観点】

- (1) 研究の意図が明確で、主題が適切なものであるか。
- (2) 研究の対象が明確であるか。
- (3) 研究の計画及び内容が適切であるか。
- (4) 論旨が一貫しており、説得力があるか。
- (5) 必要な資料が精選され、整えられているか。
- (6) 結論の導き方は適切であるか。
- (7) 今後の実践に生かす手だてを講じているか。

【総 評】

新型コロナウイルス感染症の影響下での実践研究であったと考えられるが、それぞれの学校や地域の実態を捉え、時宜を得た研究、学習指導要領や県教育委員会の方針を踏まえた素晴らしい研究が多く見られた。自校の児童生徒の実態等から主題を設定し、仮説や研究内容を具体化させるという研究論文的手法に則った研究も見られ、大変意義深いと考える。また、自己肯定感や自己有用感など、子どもの自尊感情を高めるための方策を取り入れた研究が、各教科ばかりでなく、特別支援教育や学校保健、総合的な学習の時間など多岐にわたる面からなされており、さらなる研究の発展にも大きな期待をもつことができる。

今後は、今以上に子どもの思いや願いに基づく研究、学校や学級の強みを伸ばし、課題を解決していく研究、成果や課題の根拠が明らかな研究、当事者だけでなく、周りとの連携を図る研究などにも期待したい。

日々の実践を研究とすることは、手間もかかり、苦勞も多い。しかし、見通しや願い、ねらいをもって実践を積み重ね、検証し、まとめるからこそ見えてくることは大変多い。これからも、多くの先生方が目の前の子どもたちと自分自身のために研究を続けてほしいと願っている。

令和5年度 福島県教職員研究論文 応募状況

1 総論文数 28点

2 内 訳

(1) 教育事務所別

県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
3	10	3	4	1	1	6	28

(2) 学校種別

幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	自然の家	計
0	20	5	2	1	0	28

(3) 各教科、領域等及び教育事務所別内訳

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	自然の家	計	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
学校経営		2					2		1					1	2
学年経営							0								0
学級経営							0								0
学習指導一般		4		1			5	1	1	1	1			1	5
国語		4					4	1	1		2				4
社会 地理歴史							0								0
算数・数学		1					1		1						1
理科				1			1						1		1
生活・総合			1				1		1						1
音楽							0								0
図画工作 美術							0								0
技術・家庭							0								0
体育 保健体育		1					1		1						1
外国語活動 英語		1	1				2		1					1	2
道徳		4					4	1	1					2	4
特別活動							0								0
教育課程		2					2			1				1	2
生徒指導			1				1		1						1
特別支援 教育		1			1		2		1			1			2
学校保健			2				2			1	1				2
食育・ 学校給食							0								0
へき地教育							0								0
幼稚園教育							0								0
学校事務							0								0
合 計	0	20	5	2	1	0	28	3	10	3	4	1	1	6	28

令和5年度 福島県教職員研究論文 応募者一覧

領域等	個人 団体	学校名・グループ名	氏名・代表者名	研究主題名
学校経営	団体	小野町立小野小学校	小荒井 新佐	自己の学びを創り上げていく子どもを育成する学校をめざして ～「選択と集中」による業務改善、発達段階を踏まえたSTEAM教育の視点を取り入れた授業実践、そして、人材育成を視野に入れた通知表の改革～
	団体	いわき市立久之浜第二小学校	宍戸 直樹	子どもと地域が共に育つ学校づくりへの挑戦 ～地域の自慢、伝統野菜「じゅうねんの栽培」を通した『久二小ならではの』教育の推進～
学習指導 一般	団体	伊達市立保原小学校	佐々木 透	共に学び 共に喜び 共に高め合う 子どもの育成(3年次) ～自ら動き出す課題を設定し、仲間と共に自分の考えを広げ深める授業づくり～
	団体	田村市立船引小学校	佐久間 敏晴	自ら進んで考え、学び合う児童の育成(2年次) ～教科の特質に応じた授業の展開を通して～
	団体	塙町立塙小学校	永島 慶和	自分の考えをもち、ともにかかわり合い、高め合う児童の育成 ～リーディングスキル(RS)の視点を取り入れた授業の工夫～
	個人	福島県立葵高等学校	村松 こずえ	学校図書館と高校生の読書に関する研究 ～国語科や探究活動と連携することを通して～
	個人	いわき市立江名小学校	兼子 春菜	地域や学校に誇りをもつ児童の育成 ～協働的な学びを深めるリモート発表会を通して～
国語	個人	伊達市立保原小学校	我妻 佑次朗	自分の考えを「書き表す力」の育成 ～2学年国語科の指導を通して～
	個人	田村市立都路小学校	遠藤 純花	低学年における「繰り返しの音読により、くわしく言葉を読む」児童の育成
	個人	柳津町立柳津小学校	石川 要一朗	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教科指導はどうあるべきか(2年次) ～達成基準の設定から授業構成を考える～
	個人	昭和村立昭和小学校	岩谷 友太	自ら考え、伝え合い、考えを深める子どもの育成 ～国語科文学的文章における主体的・対話的で深い学びの授業づくり～
算数	個人	郡山市立御代田小学校	鈴木 元気	「基準量、比較量、割合の関係」を式に表すことができる児童の育成 ～比例数直線を活用するための手立てを通して～
理科	個人	福島県立小高産業技術高等学校	尾形 尚樹	放射線への興味関心を高める授業の実践
総合	団体	天栄村立天栄中学校	濱津 太	探究的な学びを通して、夢の実現に向かう生徒の育成(1年次) ～『「天栄ならではの」教育』を目指して～
体育	個人	鏡石町立第一小学校	黒川 順一	学習効果向上を目指すICTを活用した体育の授業 ～「する・みる」の視点を意識して～
英語	個人	三春町立御木沢小学校	吉野 千尋	子どもたちが主体的に「書く」活動に取り組む外国語科の授業 ～音声言語とリアリティーから「書きたい」を引き出す授業実践～
	個人	いわき市立好間中学校	齋藤 崇	まとまりのある英文を書くことができる生徒の育成 ～記述を支えるための「土台づくり」と、生徒自身による記述の推敲を通して～
道徳	個人	本宮市立岩根小学校	菅野 健彦	互いを認め合い、自己を見つめる道徳科の授業づくり ～3年間の積み重ねを通して～
	個人	田村市立常葉小学校	楠原 康夫	「よりよく生きる喜び」についての道徳科の実践 「日々の楽しみ・幸せ・希望・喜び」の複数学年での比較検討から

道徳	個人	いわき市立中央台東小学校	久保木 壮平	子どもが「自分を創る」道徳教育の実践 ～道徳性の発達段階に応じた「対話的な学び」のある授業づくりを目指して～
	個人	いわき市立小名浜西小学校	我妻 拓馬	自己の生き方を見つめ、よりよい生き方を探求していく児童の育成 ～道徳科における充実した自我関与と本音を引き出す関わりから～
教育課程	団体	棚倉町立棚倉小学校	藤田 篤	なりたい自分になるために学び続ける児童の育成 ～肯定的・対話的な関わりによる教育課程の実践を通して～
	個人	いわき市立高坂小学校	田島 裕司	子供理解を深めるCRMを活用した、社会参画を目指すカリキュラム・マネジメント ～子供と地域連携担当教職員によるコロナ禍ゆえの自己調整学習を通して～
生徒指導	個人	田村市立船引中学校	國友 靖展	スペシャルサポートルーム(SSR)の効果的な運営と支援の在り方 ～3つの柱で築く「架け橋プログラム」の実践を通して～
特別支援教育	個人	福島県立郡山支援学校	草野 綾香	「3つの資質・能力の育成」を目指す学習基盤となる「言語能力」の育成に向けた取り組みについて ～言語能力を育むための授業づくり～
	個人	南会津町立南郷小学校	横田 みなみ	開かれた特別支援学級から自分らしさを大切に育てる児童を育てる ～ICFの考え方に基づいた個人因子と環境因子へのアプローチの視点から～
学校保健	個人	泉崎村立泉崎中学校	渡邊 理紗	朝食摂取率向上の取り組みをととした生徒の健康マネジメント能力向上に関する研究 ～自分手帳の活用と学校栄養技師との連携による食の授業をとおして～
	個人	猪苗代町立猪苗代中学校	松本 冴加	レジリエンスを身につける生徒の育成 ～保健室での個別指導と集団指導を関連させたメンタルヘルス教育を通して～

おわりに

『福島県教職員特選研究論文集』は、県内の教職員の優れた教育実践を広く普及するために発刊しており、今回が第30集の発刊となりました。

今年度は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校から28点の応募がありました。改めて、教職員の皆様の教育に対する熱意と意欲に敬意を表しているところでもあります。

本年度の応募の内訳を見ますと、学校全体（団体）が7点、個人が21点となっております。応募いただきましたどの論文も児童生徒や地域の実態、現代的な教育課題を踏まえた実践的な研究がなされ、児童生徒や学校、さらには地域全体のよりよい成長、発展を目指した、具体的な手立てが随所に見られました。

福島県教育委員会が策定した「学びの改革推進プラン」では、全ての子どもに必要な資質・能力を育成するため、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革することを目指し、取組を進めております。応募いただきました団体・個人の皆様の、子ども一人一人を大切にし、必要な資質・能力を育成しようとする真摯かつ意欲的な姿勢は、まさに福島県が求めている「学びの変革」と重なるものだと思っております。

この『福島県教職員特選研究論文集』は、県のホームページにも掲載し、研究の成果が広く各学校や教育機関等において活用されるよう広報にも努めてまいります。

最後になりますが、教職員の皆様お一人お一人が、今後も教育に関わる専門家として、その指導力に磨きをかけていただくことをお願いするとともに、児童生徒の夢や希望の実現に向け、次年度も本研究論文に幅広い領域・校種から積極的に御応募くださいますようお願い申し上げます。

令和5年度 福島県教職員特選研究論文集

令和6年2月発行
編集・発行 福島県教育委員会

